

平成 22 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

理 念 及 び 目 標

前 文

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的發展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって、本学は、教育学、医学、工学、社会情報学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

目 標

群馬大学は、以上の基本理念に基づいて、次の目標を定め、その実現に努力する。

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、課題に対して主体的かつ継続的に取り組むことのできる人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理性に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、高度な専門的知識及び技術を備えた職業人を養成するとともに、創造的能力を備えた研究者を養成する。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を世界的水準において展開するとともに、細分化された各専門分野を総合する視点に立った研究へと、パラダイムの転換を図る。
- (2) 本学の伝統をなす実践的、実学的研究と基礎的諸科学との融合を図りつつ、適正なる競争的環境を整備し、時代と社会の要請に応じた新しい知の創造と先端的学問体系の確立を目指す。
- (3) 地域社会に生起する様々な問題や課題について、学外の関係機関、自治体等との共同研究を活発に行い、その成果を地域社会並びに広く社会全般に還元する。

3. 社会貢献の目標

- (1) 自然環境を守り、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創るために、学内外の関係機関と連携した活動を展開し、その成果を基に、健康で文化的な人間生活の実現に寄与する。
- (2) 地域の自治体、産業、市民との連携作業を推進し、まちづくりをはじめとして地域社会の活性化を図るとともに、生涯学習など地域住民の多様なニーズに応えることを通じて、本学と地域社会との連帯を強める。

4. 国際貢献の目標

- (1) 世界各国からの留学生の受け入れ体制を充実するとともに、本学学生が進んで世界の大学、研究機関等で学ぶことができるように、その支援体制を整備し、これらを通じて国際交流の輪を広げ、異文化への理解を深めることによって、国際平和に貢献する。
- (2) 本学教員が世界各国の大学、研究機関等で学術交流を行う機会を拡充するとともに、国際学会等における学術的活動を活発に行い、学術面における国際貢献を促進するとともに、社会面における国際協力を一層推進する。

5. 大学運営の目標

- (1) 大学の自治の理念を基盤とし、大学構成員の総意と主体性を尊重し、一層の自主性、自律性をもって大学運営を進めるとともに、開かれた大学として、教育及び研究に深い理解と識見を有する学外有識者の大学運営への参画を求める。
- (2) 情報化が急速に進行する今日のネットワーク社会に対応して、大学の総合情報システムを拡充、活用し、大学運営の効率性を図るとともに、その透明性を一層高めるため、大学情報の積極的な公開に努め、真摯に学内外への説明責任を果たす。
- (3) 厳正な自己点検評価、外部評価を実施するとともに、第三者評価による評価結果を組織的かつ主体的に活用して、大学の諸活動の質的向上を図る。

「平成 22 年度 群馬大学 大学教育・学生支援機構」報告書

巻 頭 言

大学教育・学生支援機構長

平 塚 浩 士

大学教育・学生支援機構は学生の学習や学生生活を支援するという大学の基幹業務を担当しています。本機構は、教務関係全般、なかでも教養教育を主に担当する大学教育センター、学生のクラブ・サークル活動や奨学金、授業料免除などの生活支援・サービスを行う学生支援センター、広報を含めた入試関連業務を行う学生受入センター、全学的な健康支援業務を行う健康支援総合センターからなっています。

現在、第一期中期目標期間の最後の年を迎えていますが、グローバル化が進展し、大学のユニバーサル化を目前にして、大学で「何を教えるか」ではなく、学生が「何ができるようになったか」ということが社会から問われ、これが次の中期目標期間における課題となっています。平成 20 年度の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」で指摘された“学位授与の方針”では、学士力を持つ人材の養成掲げられ、その参考指針として、人類の文化、社会、自然などに関する知識と理解、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能、チームワーク、リーダーシップ、自己管理能力、倫理観、市民としての社会的責任などの態度・志向性、さらに創造的思考力など、さまざまな学士としての能力が挙げられています。したがって、大学では単に授業によってのみ専門能力の高い人材を養成するのではなく、大学生活の中で人間としてのさまざまな能力を身につけ、高い専門性と豊かな人間性を持つ人材を養成して行くことが求められます。そのために私たちは、学生の学習支援と学生生活全般の支援を、教職員が一体となって組織的に展開することが必要であり、本機構の重要性が増大しているところです。

本機構の業務に関する報告書の発刊は、平成 18 年度から始まり、今回が 5 回めとなりますが、本学学生の大学生活をより豊かなものにするために、この報告書にもとづいて活動結果を検証し、各センターの新たな方針を構築して今後の活動を展開して行きたいと考えています。本学構成員の皆様の益々のご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、本報告書の作成に当たり、各センターの活動を担い、日々忙しく活動している中でご協力頂いた教職員の皆様、また執筆に当たった関係者の皆様に深く感謝致します。

目 次

1	大学教育センター	1
1.1	共通教育企画部	1
1.1.1	はじめに	1
1.1.2	平成 22 年度活動概要	1
1.1.3	平成 22 年度活動内容	1
1.2	外国語教育部	3
1.2.1	はじめに	3
1.2.2	英語習熟度別クラス編成、および英語アチーブメントテスト	3
1.2.3	TOEIC IP	3
1.2.4	TOEFL ITP	3
1.2.5	e-ラーニングの推進	4
1.2.6	ドイツ語技能検定試験	4
1.2.7	ドイツ語・フランス語の共通テスト、およびドイツ語アチーブメントテスト	4
1.2.8	工学部の英語教育についての検討	5
1.2.9	その他	5
1.3	教育方法企画部	6
1.3.1	はじめに	6
1.3.2	全学FD	6
1.3.3	ベストティーチャー賞	6
1.3.4	教養教育授業評価	32
2	学生支援センター	97
2.1	入学料免除及び徴収猶予	97
2.1.1	免除申請者数，免除者数	97
2.1.2	徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	97
2.2	授業料免除及び徴収猶予	97
2.2.1	免除申請者数，免除者数	97
2.2.2	徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	97
2.3	寄宿料免除	97
2.3.1	免除申請者数，免除者数	98
2.4	奨学金	98
2.4.1	日本学生支援機構第一種奨学生数（平成 22 年 10 月 1 日現在）	98
2.4.2	日本学生支援機構第二種奨学生数（平成 22 年 10 月 1 日現在）	98
2.4.3	日本学生支援機構以外の奨学生数（平成 22 年 10 月 1 日現在）	98
2.5	学生相談体制及び学生相談	98
2.5.1	学生相談体制	98
2.5.2	主な相談事項	98
2.5.3	学生相談実態調査アンケートの実施及び活用	98
2.6	授業欠席状況調査	99
2.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	99

2.6.2	実施方法, 時期	99
2. 7	障害学生への支援	99
2.7.1	障害学生数	100
2.7.2	支援内容	100
2. 8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	100
2.8.1	加入者数	100
2.8.2	請求種別保険金請求件数	100
2. 9	通学証明書, 旅客運賃割引証	100
2.9.1	発行枚数及び主な発行理由	100
2. 10	学生寮	101
2.10.1	養心寮入寮者数	101
2.10.2	啓真寮入寮者数	101
2. 11	生活支援施設	101
2.11.1	食堂	101
2.11.2	売店	101
2. 12	課外活動施設	102
2.12.1	体育施設	102
2.12.2	文化施設	103
2.12.3	課外活動共用施設	103
2.12.4	合宿所	103
2. 13	学生団体及び主な活動	104
2.13.1	学生団体	104
2.13.2	大学祭	104
2.13.3	関東甲信越大学体育大会	104
2.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	104
2. 14	研修施設	104
2.14.1	北軽井沢研修所	104
2.14.2	草津セミナーハウス	105
2. 15	学生の就職支援	105
2.15.1	進路状況及び主な就職先	105
2.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	106
2.15.3	キャリアカウンセリングの充実	106
2.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	106
2.15.5	就職支援の体制強化の充実	106
2.15.6	専門家による就職活動のための実践的支援の充実	107
2.15.7	就職支援BOOKの作成・配付	107
2. 16	アルバイトの紹介体制の充実	107
2.16.1	主な依頼先	107
2. 17	学生生活実態調査	107
2. 18	キャンパスニュース群の発行	107
2. 19	学生支援センター資料集	107

3	学生受入センター	128
3.1	はじめに	128
3.2	オープンキャンパス等	128
3.3	入学者の追跡調査	129
3.4	その他	129
4	健康支援総合センター	130
	はじめに	130
4.1	平成 22 年度年間業務実施概要	130
4.2.1 及び 4.2.2	学生の定期健康診断状況	133
4.2.3 及び 4.2.4	学生定期健康診断受検状況	133
4.2.5	学生定期健康診断における疾患別要観察者数（前橋地区）	133
4.2.6	学生定期健康診断時に発見された異常者数と事後指導結果（前橋地区）	134
4.2.7	健康診断時における精神保健調査	135
4.3	外国人留学生健康診断状況	135
4.4	ウイルス性疾患抗体検査	136
4.5	健康支援総合センター利用者等	136
4.5.1	利用者数	136
4.5.2	利用件数	137
4.5.3	疾病領域別利用者数	137
4.5.4	医療機関紹介の診療科分類	137
4.5.5	薬剤別処方日数	138
4.5.6	常備薬使用数	138
4.6	健康相談・精神保健相談	138
4.6.1	健康相談・精神保健相談の対応内容	138
4.6.2	精神保健相談者数	138
4.6.3	精神保健相談内容	139
4.7	カウンセリング状況	139
4.7.1	学外臨床心理士による心理カウンセリング数	139
4.8	教員による教養教育への参加等教育への参加状況	140
4.9	教員による健康管理に関する調査研究業務	140
4.10	健康支援総合センター所属教職員等	142
4.11	健康支援総合センター主催の委員会等	142
4.12	平成 22 年度健康支援総合センター運営委員会委員	143
4.13	健康支援総合センターでの全国委員会等出席	143
4.14	学内諸会議への教職員の出席	144
4.15	学内行事実施に伴う救護業務	144
4.16	出版・広報活動	144
4.17	社会貢献活動	144
4.18	その他の活動	145
4.19	キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動	145
4.20	健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性	145
4.21	健康支援総合センター資料集	148

1 大学教育センター

1.1 共通教育企画部

1.1.1 はじめに

大学教育センター共通教育企画部は改組4年目となった。群馬大学各学部の共通・教養教育全体のカリキュラムの企画・立案・運営を担当するという業務の大筋は前年度とかわらない。大学教育センター企画部の組織も前年度の組織を踏襲している。

1.1.2 平成22年度活動概要

共通教育企画部は定例の活動として毎月1回の会議をもち、教養教育全体の問題について討議している。平成22年度については5月17日に第1回の部会を開催し、8月の休会を除き、3月14日の会議まで計10回の定例会議をもった。通常業務は前年と変わらず、次年度の全学共通教育の授業計画が主たるものである。平成22年度企画部の通常業務は下記の通りであった。

- 4月 新生のオリエンテーションの実施
当該年度の検討課題の整理（カリキュラムポリシーに対応した教養教育カリキュラムの改善等）
- 5月 新生によるキャンパスクリーン & ウォークラリーの実施
- 6月 文化講演会の実施
科目登録集団についての照会、確定
教養教育関係予算案の作成
- 7月 学長、理事と学生との懇談会の実施
前期期末試験の実施
次年度学年暦の作成
- 8月 次年度教養授業担当の学部等への照会
- 9月 次年度教養教育の担当者の決定
- 10月 次年度開講表の作成
- 11月 防災訓練の実施（11日12時～）
次年度教養教育の非常勤講師の決定
- 12月 工学部学生に係わる荒牧開講科目（学部別科目）の再履修方法の決定
- 1月 教養教育関係TAの照会と確定
GB棟の改修計画の説明
- 2月 後期期末試験の実施
- 3月 次年度新生オリエンテーション計画の作成

1.1.3 平成22年度活動内容

（1）総合科目

昨年度から始めた学長・理事らによる連続講義「群馬大学・学」および群馬県農林大学校との提携で始めた「野菜作りから日本文化を考える」は本年度も実施した。「群馬大学・学」は講義時間帯を9-10時限に変更したこともあり、昨年度はウォークラリー当日に開催した「学長、理事と学生との懇談会」を「群馬大学・学」の講義時間帯に合わせて7月13日午後4時からミューズホールで実施した。

就業力育成事業に関連し、次年度から総合科目として前期に「キャリア計画」、後期に「キャリア設計」を新設することを決定した。また「手話とろう文化」を次年度から開講することとした。

（２）外国語教育カリキュラムなどの変更

来年度から、現在工学部２年次で開講の英語（２コマ）を１年次に移行させることにした。また医学部医学科では第２外国語の履修方法を改め、これまでのドイツ語必修を来年度からフランス語を開設し、これらを選択必修とした。

工学部では次年度から学部別科目の再履修方法が変更になり、再履修方法が新たに決められた。

（３）ウォークラリー & タウンクリーン作戦について

例年実施しているウォークラリー & タウンクリーン作戦は５月１３日に行ない、事故も無く無事終了した。学生の参加率は約 98%であった。本企画は、ISO14001 認証取得にも関連しており、優れた企画と高く評価されている。

（４）文化講演会について

文化講演会は平成 22 年 6 月 29 日に GB 棟 155 教室で開催され、松井孝典氏（千葉工業大学惑星探索研究センター所長）が「太陽系そして銀河系スケールで地球を考える」と題して講演した。本学学生および教職員等 150 名程の参加者であった。

本学初年次教育の柱である「学修原論」の履修状況は、受講生が基準の 25 名を大きく上回るものが現在でもある一方で、1 桁台の受講者で開講しているものも少なからずある。これらの改善（受講者の多いものは総合科目への変更、少ないものについては科目名の名称変更などのお願い）に努めてきたが、なかなか思うようにならないのが現状である。学修原論も開設時の主旨を理解している教員のみではなくなっている。語学や総合科目などその他の区分で実施している科目も含めて、現在のカリキュラムは施行後 10 年以上経過し、現在の学生への初年次教育として適切か、全面的な見直しが必要な時期に来ていると考えられる。

1.2 外国語教育部

1.2.1 はじめに

平成 22 年度の外国語教育部は、大学教育・学生支援機構において、平成 20 年度以降取り組んできた諸プロジェクトを継続し、全学の外国語教育の改善を図ってきた。前年度に引き続き、英語習熟度別クラス編成の実施、そのためのデータ収集を目的とした英語アチーブメントテストの実施、TOEIC IP の実施、TOEFL ITP の実施、e-ラーニングの推進を行なった。さらに、ドイツ語技能検定試験、ドイツ語およびフランス語の年度末共通テスト、ドイツ語のアチーブメントテストを実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測することに努めた。また、全学学生のおよそ半数を占める工学部の英語カリキュラムについても、改革を検討した。

1.2.2 英語習熟度別クラス編成、および英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成 19 年度に行った英語習熟度別のクラスに対するアンケート調査によって確認された、教員側のきわめて高い評価と受講生の一定の好評価に基づき、平成 20 年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施され始めたもので、最終的には全クラスに英語習熟度別編成が導入されることが望まれる。

平成 21 年度より、工学部応用化学・生物化学科 1 年、保健学科看護学専攻 1 年（保健 A・B クラス）、社会情報学部 1 年、2 年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行なわれたが、平成 22 年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、そのため 22 年度末には、工学部および社会情報学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、23 年度の 4 月には、両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行うことが確認された。

アチーブメントテスト 平成 23 年 2 月 8 日（火）16：00～17：00
受験者 工学部と社会情報学部 614 名
監督：工学部より 10 名、社会情報学部より 2 名

1.2.3 TOEIC IP

群馬大学では平成 15 年度から TOEIC IP を、「選択英語 AI」「選択英語 AII」と連動させながら継続的に実施しており、外国語教育部が中心となって、多くの学生の TOEIC 受験を促している。

実施は年 2 回（7 月／1 月）で、平成 21 年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。平成 22 年度の実施日時、参加者数は以下の通りである。

1 回目：平成 22 年 7 月 14 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 176 名
2 回目：平成 23 年 1 月 19 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 578 名

1.2.4 TOEFL ITP

海外留学を希望する学生にとって TOEFL の成績が要求されることが多いため、群馬大学では平成 20 年度から、TOEFL ITP を荒牧キャンパスで年 2 回（7 月と 1 月）実施することとした。平成 22 年度の日程と受験者数は以下の通りであった。

1 回目：平成 22 年 7 月 5 日（月；17:40～20:10）実施：参加者 31 名
2 回目：平成 23 年 1 月 12 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 17 名

TOEFL ITP は、10 名以上が参加しないと実施ができないため、今後も外国語教育部が中心となって、広報に努力を払い、各部局の協力を得ながら、参加者の拡充を目ざしていくこととした。

1.2.5 e-ラーニングの推進

e-ラーニングを推進するために、平成 22 年度も前年度に引き続き ALC NetAcademy2 の説明会（4 月 14 日）を開催した。この e-ラーニングのシステムは、TOEIC の得点向上に直結するため、とりわけ就職および進学に TOEIC を必要としている工学部の学生には、これまで以上の利用を促さねばならない。そのためにも、荒牧キャンパスのみならず桐生キャンパスの二年次生以上の学生の利用を促進するために、外国語教育部としては、今後桐生キャンパスのスタッフとも連携を強めていくべきであることが、再確認された。22 年度は、外国語教育部の教員が二度、桐生キャンパスに出向き、工学部教務関係者と話し合う機会を設けた。

1.2.6 ドイツ語技能検定試験

群馬大学では、外国語教育部が実施主体となって、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、群馬大学を会場にして、周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成 22 年度もドイツ語技能検定試験（5 級～準 1 級）を、荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下の通りである。

実施日時:平成 22 年 11 月 23 日(火・祝) 学内外の総受験者数:42 名(複数級併願者含む)

＊例年 40 ～ 60 名の間で推移。

群馬大学生受験者数:4 名(うち荒牧キャンパス試験場での受験者は 2 名)

＊ただし書類に学校名を記入していない場合はこれにカウントされない。

＊例年 5 名前後で推移。

1.2.7 ドイツ語・フランス語の共通テスト、およびドイツ語アチーブメントテスト

第二外国語のうち、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきている。だがいかんせん英語の学力自体が（さらには言語能力自体が）低下している昨今の大学生にとっては、第二外国語は、学んだところで身につかない（短絡的には「話せないから意味がない」）科目と見なされがちな科目ともなっている。その種の短絡性をアカデミズムの観点から批判したところで、これは我が国の文化レベル全体に関わる深刻な問題が背景としてあるため、第二外国語軽視の動向は一朝一夕で解決できる事態ではない。だがせめて、大学で学ぶ学問に関しては、その学習の達成度が、客観的に測れるシステムがあることが望ましい。

第二外国語のうち、学生がもっとも多く履修しているドイツ語およびフランス語については、学生たちの学習意欲を向上させるために、またその学習の進捗を図るために、共通テストを行なった。またドイツ語については、別途共通のアチーブメントテストも実施した。

ドイツ語共通テスト

実施日 平成 23 年 2 月 1 日(火) 教育学部 DEF クラス 27 名受験

実施日 平成 23 年 2 月 1 日(火) 医学部医学科 35 名受験

実施日 平成 23 年 1 月 31 日(月) 社会情報学部 A クラス 21 名受験

実施日 平成 23 年 2 月 7 日(月) 社会情報学部 A クラス 25 名受験

実施日 平成 23 年 1 月 26 日(水) 社会情報学部 B クラス 17 名受験

実施日 平成 23 年 2 月 2 日（水） 社会情報学部 B クラス 18 名受験

フランス語共通テスト

実施日 平成 23 年 2 月 1 日（火） 医学部医学科 43 名受験

ドイツ語共通アチーブメントテスト

実施日 平成 23 年 2 月 15 日（火） 週 2 回 1 年間 4 単位（学習時間年間 120 時間 *）選択必修学部学科のうち、週 1 回分を専任教員が担当するクラスで年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間 45 分 **）

1.2.8 工学部の英語教育についての検討

群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部学生の英語力については、以前より問題となっていた。入試の二次試験に英語が課されていないことから、全学的に英語力の低い学生が多数在籍しているが、一方、工学部の大学院進学率は高く、その進学には TOEIC の得点が合否判定に利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率がもっとも高い学部・研究科であるが、職に就いて後も、英語力を要求されることは必至である。

前年度の報告にもある通り、大学の教養教育としての英語は、社会に出たときの一般常識、個人的実用、職業における実用、大学の専門教育において（論文を読む等で）必要とされる実用、リベラル・アーツ的な力の養成、というさまざまな要請を受けているが、こと工学部生の英語力に関して言えば、英語の基礎力の再構築という緊急の課題に対処する必要がある。

そこで外国語教育部は、まず基本的な英語力を養成するカリキュラムが早急に必要であるという認識のもと、次年度の平成 23 年度より、工学部の英語カリキュラムを、次の通り大幅に改定することとした。

- 1) 週 2 回（90 分×2 回）の英語授業を履修させる。
- 2) 前期 2 単位、後期 2 単位で、1 年次に 4 単位を取得させる。
- 3) 週 2 回のうち、1 回は文法・読解力の養成、1 回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4 月入学時にプレイスメントテストを行ない、達成度別クラスを実現する。

これらを実現するために、外国語教育部は、工学部とも意見交換を行い、具体的なカリキュラム作成、履修方法等を検討した。

1.2.9 その他

外国語教育部は、平成 23 年度より、「教育基盤センター」内の「外国語教育部会」として新たな組織となる。これは全学の外国語教育の改善に向けて、カリキュラム改変や授業形態の改善を担わねばならない。そこで大学教育・学生支援機構は、教育基盤センター所属の英語教育スタッフ増強のために、新たに一名、英語担当教員を採用することとなった。平成 22 年度秋、外国語教育部は採用人事を行ない、諸規定に則り、飯田敦史氏（講師）の採用を決定した。平成 23 年 4 月からの授業担当となる。

1.3 教育方法企画部

1.3.1 はじめに

前年度と同様、全学 FD 連続講演会、ベストティーチャー賞選考、教養教育授業評価を行った。また、初めての試みとして、前年度教養教育でのベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。

1.3.2 全学 FD

全学 FD 連続講演会「大学教育のグランドデザイン」②として、平成 22 年 7 月 28 日に、新潟大学濱口 哲副学長「学部教育から学士課程教育へ—新潟大学の取り組み—」、本学重粒子線医学推進機構田巻倫明助教「アメリカのリベラルアーツ教育の現状について—自身の体験を基に—」を開催した。

また、③として、平成 22 年 11 月 12 日に、茨城大学人文学部永井典子教授「学士課程教育における英語教育プログラムの構築方法」、本学外国語教育部草薙優加准教授「工学部の英語教育新カリキュラム」を開催した。

1.3.3 ベストティーチャー賞

平成 18 年度に創設された「ベストティーチャー賞」を継続実施した。

平成 23 年 5 月 6 日に、各学部等から選出された最優秀賞候補者による公開模擬授業、及び、学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し、最優秀賞・優秀賞受賞者を決定した。最優秀賞受賞者は、工学部から選出された横尾英俊教授（工学研究科）で、他の受賞候補者は全員が優秀賞を受賞した。今年度は、公開模擬授業を荒牧地区で実施し、初めて桐生地区にも同時中継することで、効果の波及を図った。

受賞者による公開模擬授業は、従来、受賞者の所属学部で行われてきたが、平成 21 年度の選考で、大学教育センター所属教員が初めて受賞したため、教養教育から選出された受賞者による公開模擬授業を、平成 22 年 9 月 30 日に実施した。

平成22年度 ベストティーチャー賞行事プログラム

1. 日 時：平成23年5月6日（金）13：30～17：30

2. 場 所：大学会館ミューズホール ほか（荒牧キャンパス）

3. 日 程

（1）公開模擬授業（13：30～15：45）

場所：大学会館ミューズホール

司会：横山知行（教育基盤センター教育推進部会長）

1－1 開会

1－2 挨拶・趣旨説明 石川 治（教育・国際交流担当理事）

1－3 模擬授業 最優秀候補者6人

13：35－13：55 松元 宏行（学生支援センター 教授）

13：55－14：15 斎藤 理生（教育学部 准教授）

14：15－14：35 堀 正（社会情報学部 教授）

（休憩）

14：45－15：05 塚本 憲史（医学部附属病院 准教授）

15：05－15：25 酒井保治郎（前医学部保健学科 教授）

15：25－15：45 横尾 英俊（工学研究科 教授）

1－4 閉会

（2）審査委員会の開催（15：50～16：20）

場所：大学会館3階 会議室

議長：高田邦昭 学長（審査委員会委員長）

2－1 審議（審査委員会 学長・理事・学部長等・機構長）

（3）ベストティーチャー賞授与式（16：20～16：50）

場所：大学会館ミューズホール

進行：石川 治（教育・国際交流担当理事）

3－1 開式

3－2 審査結果・学長挨拶

3－3 表彰状・副賞授与

3－4 受賞者代表挨拶

3－5 閉式

3－6 記念撮影

（4）学長・受賞者を囲んでの茶話会（17：00～17：30）

場所：レストランあらまき

進行：吉田 亨（副機構長）

4－1 開会

4－2 受賞の感想

4－3 懇談

4－4 閉会

受賞候補者の選考経緯と推薦理由

1 教養教育における選考経緯と推薦理由

教養教育のベストティーチャー賞受賞者の選考は、22年度の教養教育履修者に以下のようなアンケート実施し、それに基づき実施した。以下の、選考の経緯と、その選考理由を記述する。

ベストティーチャー選考用紙（平成22年度）

平成23年3月

「ベストティーチャー賞」は、専任教員の教育・授業方法の向上を図ることを目的に、優れた授業を行う専任教員を学長表彰するためのものです。教養教育における教員選考は、本選考用紙による学生皆さんの評価に基づいて行われます。宜しくご協力をお願い致します。

群馬大学大学教育・学生支援機構

大学教育センター長 平塚 浩士

[1] 記入者の学籍番号と氏名

学籍番号 _____ , 氏名 _____

[2] 優れた科目の選考

以下の欄に本年度履修の教養教育科目で、授業内容、授業方法、学生の皆さんとの良好な関係等の観点を総合し、優れていたと思う教員のうち、前期の授業担当教員から2名以内、後期の授業担当教員から2名以内を選び、その「教員名」「授業の曜日・時限」「授業題目名」「欠席回数」「優れていたと思う理由」を記入して下さい。

選考対象となる、教員名、授業の曜日・時限、授業題目名については一覧表を参照して下さい。非常勤講師、昨年度受賞教員は対象外です。

	教員名	授業の曜日・時限	授業題目名	この授業での欠席回数	優れていると思う理由
例	赤城太郎	水, 3-4	日本文化の形成	2	内容がよく整理され, 理解し易かった
前期					
前期					
後期					
後期					

選考の経緯

1. 大学教育センター教育方法企画部会(2月23日(メール審議))および大学教育センター運営委員会(2月28日)で、22年度の教養教育ベストティーチャー賞候補者選考手順を審議し、決定した。
2. 1年後期の成績配付時(3月14, 15日(夜間主コースは3月1日))に、学生に「教養教育ベストティーチャー選考用紙(平成22年度)」への記入を依頼し、回収した。記入の対象は、1年次開講のすべての教養教育科目の単位認定教員から、非常勤講師と21年度教養教育ベストティーチャー賞受賞者を除いた教員とした。学生からの記載は、前期2名、後期2名の連記とし、教員名のほかに、授業時限、授業題目名、欠席回数、優れていると思う理由も記載してもらった。
3. 候補者選考手順に基づき、候補者のべ13名(実人数12名)をリストアップした。3月25日に、平塚大学教育・学生支援機構長／大学教育センター長、中田大学教育・学生支援機構副機構長／大学教育センター副センター長、相澤共通教育企画部長、吉川外国語教育部長、吉田教育方法企画部長で候補者選考を行い、3月28日の大学教育センター運営委員会に結果を報告した。候補者選考にあたっては、得票状況に加え、優れていると思う理由、教養教育への貢献等も考慮し、総合的に判断した。

推薦理由

(最優秀賞候補者)

国際教育・研究センター 松元宏行教授

(2011年1月～学生支援センター就業力育成支援室長)

松元教授は、国際教育・研究センター教員として、前期に「日本語G1(読解)」と「日本事情C1」、後期に「日本語G2(読解)」を留学生対象に開講するほか、全学生が受講可能な教養教育科目として、前期・後期に、学修原論と総合科目をそれぞれ1科目ずつ開講している。

学修原論「科学入門―要約する技術」では、前期に科学技術、後期に生物科学をテーマとし、映像を見せた後で、そのあらすじを学生一人一人が項目に従って記録することを通じ、科学技術知識を要約する力と科学的知識を身につけることを目指した授業が行われている。扱われているテーマは、生命科学、自然現象、科学倫理、生命倫理、核開発、科学の歴史などである。特に前期においては、履修登録者27名中16名(59%)がこの授業題目に投票しており、学修原論の一つのモデルとなる授業ではないかと考えられる。また、総合科目「現代社会状況論C1」「科学技術―歴史と発達―」でも、計190名の履修登録者がおり、41名(22%)がこれらの授業題目に投票している。

以上から、松元教授を最優秀賞候補者として推薦した。

(優秀賞候補者)

教育学部 岡崎 彰教授

岡崎教授は、教養教育では、後期に分野別科目(自然)「恒星の科学」を開講している。履修登録者数は142名と多く、30名(21%)から投票があり、結果として授業題目あたりの得票数が多かった。

学生が記載した、授業が優れている理由は、「視覚資料が活用されていて理解しやすかった」「板書が見やすかった」「恒星について深く知ることができた」「内容が興味を持てるよう授業が工夫されていた」などであった。これらから、恒星の画像のみならず、板書を適切に用いた工夫された授業により、学生の興味をひきつける授業が行われていることが伺える。

以上から、岡崎教授を、優秀賞候補者として推薦した。

(優秀賞候補者)

大学教育・学生支援機構 Jeff A. Contrerass 准教授

Contrerass 准教授は、英語による発信能力を高めるため、1 年生全員に必修科目として開講されている総合英語計 27 コマのうち、12 コマ (44%) を担当し、履修登録者 478 名のうち 118 名 (25%) から得票していた。クラス規模は平均 40 名だが、得票率が高く、担当コマ数が多いこともあり、総得票数が多かった。

授業の特徴は、5－6 人での group project を、授業期間全般にわたって取り入れていることで、各自が役割を持ち、グループごとに能動的に学習が行われるよう工夫されている。各グループは、それぞれが興味を持ったテーマで research を行い、presentation を行っている。これに、個人単位での research paperなどを課すことで、英語でのコミュニケーション能力を高めるよう工夫されている。

以上から、Contrerass 准教授を、優秀賞候補者として推薦した。

2 教育学部における選考経緯と推薦理由

現行の選考方法は、平成 19 年 12 月 26 日開催の教育学部将来構想委員会で承認されており、学部教育の活性化というベストティーチャー選考の趣旨に照らし、ベストティーチャー賞受賞者は、その後 2 年間は選考対象外としている。

ベストティーチャー選考の資料とすることを学生に周知し、学部 3・4 年生全員を対象に自専攻の教員 2 名と自専攻以外の教員 2 名を投票用紙に連記の上、投票させて得票を得た教員 21 名をベストティーチャー候補教員とした。

ついで、これらの候補教員について平成 22 年度授業評価結果を所定の算定方法に基づき点数化して選考資料を作成した。

3 月 30 日に学部長、副学部長、教務委員長で構成する選考会議において、選考手順の確認を行い、選考資料に基づき得点の上位 2 名を平成 22 年度教育学部ベストティーチャーとして選出した。

教育学部ベストティーチャー最優秀者 斎藤 理生

受賞理由：

斎藤准教授は、平成 22 年度に教育学部で 6 つの講義と 1 つの演習を主に担当した。この内「近代文学講義 A」(受講登録者 51 人)、「近代文学演習 E」(10 人)、「近代文学講読 A」(33 人)では、授業評価で「優れている」とした者の割合が 100%であった。また、国語教育講座 2 年生の必修の授業である「国文学史 (近代)」(30 人)や同 1 年生の必修である「基礎国文学」(34 人)でもそれぞれ 96.7%, 90.9%の学生の満足を得、「レジュメが見やすい」「テスト勉強や講義で知識が深まった」「これまで国語科のくせに文学にあまり興味も関心もなく、知識もなかったのだが、この授業を通して文学の楽しさを知ることができた」といった評価を受けた。さらに「初等科国語 (二)」(72 人)は全員が、「文化・社会系原論 A」(50 人)は半数が国語教育講座以外の学生であり、特に前者は必修の授業ゆえ、受講生全員が必ずしも文学や国語に関心を抱いていないと推測されるが、これらの授業でもそれぞれ 85.5%, 87.2%の学生の満足を得、「物語を深く読み込めたので、改めて読むことの楽しさを感じた」「小学校の実際の教材を活用していてとてもわかりやすかった」等の評価を受けた。総じて、丁寧にわかりやすく伝える工夫をすることで、文学や国語への関心を引き出し、深みへと誘うことに成功していると考えられる。

以上から、斎藤准教授を、最優秀賞候補者として推薦した。

教育学部ベストティーチャー 中村 敦雄

受賞理由：

中村教授は、教育学部では、「小学校国語科指導法」「中学校国語科指導法」「国語教育演習」を開講している。いずれも、国語科教育学の理論的背景、子どもたちの認識や思考のあり方と、具体的な学校現場での授業場面を繋ぐ内容を扱っている。国語科や国語科を副専攻とする学生だけでなく、国語に苦手意識を持つ他講座の学生でも、十分な知識が得られ、実際に学習指導が行えるように、系統的な授業を展開している。そのなかには、教師が教科書を教室で音読する場合にどのような声で読めばいいのか、学習場面で鉛筆が止まってしまった子どもにどう接するのか、といった行動レベルでのトレーニングも含む。

これらの授業では、学生の積極的な参加を促すため、知的な関心を喚起する話題を提示し、問い掛けを行い、そこから意見を述べ、話し合いを行う機会を多く設けている。自信がない学生でも自分の考えを言えるように、心理的不安感を軽減させる配慮についても工夫している。以上の取り組みの結果、授業は学生の広い支持を得ており、その後の教育実習や教育現場で活躍する際にも裨益しているとの声も聞かれる。

以上から、中村教授を、優秀賞候補者として推薦した。

3 社会情報学部における選考経緯と推薦理由

社会情報学部では、教授会において、次のような受賞者の決定方法が承認され、それに基づき受賞者を決定することとなった。

【決定方法】

授業評価アンケートにおける授業内容評価（5項目）および総合評価（それぞれ4段階評価）の「教員別平均ポイント」が最も高かった教員にベストティーチャー賞を授与する。ただし、次の科目は算定の対象から除く。

- (1) 「社会情報学ゼミ」および「卒業研究」
- (2) 総合評価の回答者数が10名未満の科目
- (3) 複数の教員で担当する科目

【受賞理由】

上記[1]の決定方法の通り、授業評価アンケートにおける授業評価（5項目）および総合評価（それぞれ4段階評価）の「教員別平均ポイント」が最も高かったため。

4 医学部医学科における選考経緯と推薦理由

医学部医学科では、医学部医学科学友会授業向上委員会において学生を対象に実施される授業評価アンケートの結果を参考にして医学科教務部会で審議し、医学部医学科ベストティーチャー賞（ベストティーチャー石井賞）受賞候補者を選定している。平成22年度は、2年生生命医学Ⅰユニット2細胞の構造の講義を担当した生体構造学鈴木健史助教と4年生ブロック3造血器・血液疾患の講義を担当した塚本憲史准教授の2名を、授業評価アンケート結果に基づいて医学科教務部会として受賞候補者として選定した。平成22年12月11日に開催した医学教育教授法ワークショップにおいて、両教官による模擬授業を実施した。ワークショップ出席教員からの投票により両教官ともに高い評価を受けて医学部医学科ベストティーチャー賞受賞者として選出され、群馬大学ベストティーチャー賞候補者として推薦された。

推薦理由

(最優秀賞候補者) 塚本 憲史

塚本准教授は、4年生の血液病学講義で、「造血器腫瘍総論」、「貧血総論、鉄と造血」、「巨赤芽球性貧血」、「溶血性貧血」の4つ、および、6年生実践臨床病態学講義で、「白血病、悪性リンパ腫の診断と治療」、「貧血の診断と治療」の2つを担当している。

講義ではプリント中心に進めている。配布するプリントには、1) 定義、2) 分類と原因、3) 病態、4) 症状、5) 検査所見、6) 治療と予後、の順に重要なポイントが記載されており、学生が授業内容の理解に集中できるようにしている。重要な疾患については症例呈示を行い、具体的なイメージが得られるようにしている。また、ところどころに空欄やQuestionを設けメリハリを持たせており、このプリントは試験前の復習に役立っている。病態および治療の説明にはPowerPointの図を用い、できるだけゆっくりと、また、重要なところでは繰り返して説明するよう心がけている。とくに血液疾患で共通してみられる症状、検査所見について時間をかけて説明したのち、個々の疾患で異なる点を述べるようにし、学生から「難しい」としばしば言われる血液病学を、わかりやすく解説するようにしている。

学生からは、プリントがよくまとまっていてポイントをつかみやすく、わかりやすい講義をしようという熱意が感じられると高い評価を得ている。

以上の理由により、塚本准教授を最優秀賞候補者として推薦する。

推薦理由

(優秀賞候補者) 鈴木 健史

鈴木助教は、生命医科学ユニット2「細胞の構造」4時間、解剖学では「組織学」8時間と「神経解剖学」4時間、および「組織学実習」41時間、「神経解剖学実習」15時間を担当しており、基礎医学科目での開講数が比較的多い教員の一人である。

鈴木助教は、要点をわかりやすくまとめ理解させることに重点をおいた講義を実践している。要点をコンパクトかつ論理的にまとめて話すのが特長で、説明が丁寧で板書もよくまとまっており、学生から大変わかりやすいとの評価が定着している。関連するエピソードや豆知識に加え、最新の研究トピックを織り交ぜながら進める講義は、面白く記憶に強く残ると高く評価されている。特に、原生生物から植物、動物までの幅広い知識を駆使し、生命現象を多角的な視点から切り込んだ解説は、学生に興味を湧かせ、学習意欲の向上に大きく貢献している。授業のポイントをまとめた要旨と補足図を別にしたプリントも、わかりやすくまとまっており、復習に役立つと評価が高い。実習では学生の質問に対し、関連事項を含めて的確かつ懇切丁寧に答えており高く評価されている。特に脳実習では複雑で難しい構造を的確かつ明瞭に剖出するのが上手く、的確な解説と共に行う解剖実演は学生に深い印象を与えている。

以上の理由により、鈴木助教を優秀賞候補者として推薦する。

5 医学部保健学科における選考経緯と推薦理由

保健学科では、全教員を対象にアンケートを実施した。全学生を対象に1学生が3名まで推薦できるものとして、ベストティーチャーにふさわしい教員名を記入してもらい、教務係が集計した。

教育課程専門委員会で、アンケート集計結果及び上位者への投票内容を参考に審議した。投票結果は、学年及び専攻により多少のばらつきはあるが、投票されたアンケートの回答内容も検討し、得票数の上位者3名を選んだ。

この結果を教授会で審議し、了承を得たので、平成23年3月末で定年となったが、平成22年度ベストティーチャー賞受賞者として元作業療法学専攻教授の酒井保治郎先生を推薦する。

6 工学部における選考経緯と推薦理由

[1] 選考経緯

工学部では、ベストティーチャー賞優秀賞候補者の選抜を、次の日程で実施した。

○平成 22 年 10 月 13 日：平成 22 年度候補者の選出学科を決定（代議員会）

【機械システム工学科／電気電子工学科／情報工学科】

○平成 22 年 12 月末まで：学生投票の実施

○平成 23 年 2 月 21 日：工学部ベストティーチャー賞選考委員会開催

（構成員：学部長，評議員，副研究科長，副学部長，副評価委員長）

○平成 23 年 3 月 9 日：優秀賞候補者を決定（代議員会）

[2] 各候補者の推薦理由

（1）工学研究科情報工学専攻 横尾 英俊教授

本学部ベストティーチャーは「群馬大学ベストティーチャー賞実施要項」に定めるもののほか、「工学部ベストティーチャー選抜要領」の定めるところにより選抜される。これによると、学部 4 年生及び大学院博士前期課程 1・2 年生の投票をもとに、教育活動に熱心であり、また担当授業が公開されている常勤講師以上の教員を選抜することとしている。

情報工学科では、実際に履修した情報工学科専門教育科目（卒業研究を含む。）のうち、授業方法、授業内容、学生との良好な関係構築等の観点を総合して、優れていたと感じた授業担当教員を 1 名から 3 名選ぶ学生による記名投票を行った。その結果、横尾英俊教授を含む 3 名が最高得票数で並んだ。そこで、次の 2 項目による総合判断の結果、2 項目ともに最高数値を記録した横尾英俊教授が最もふさわしいと判断した。

1. 回収したアンケートの投票理由における『卒業研究以外の専門教育科目名』の出現回数の多さ（これは、講義名を覚えているほど投票者の記憶に残っているという判断に基づく。なお、卒業研究以外とした理由は、それ以外の科目が本学科全学生に対し均等に履修機会が提供されていることにある。）
2. 投票対象学年を対象とし、かつ、3 名が担当した専門教育科目の授業評価アンケート結果の A 評価の取得割合

また、学生が記載した主な投票理由は以下のとおりである。

- 板書が丁寧で見やすく、説明もわかりやすい。
- 授業中以外の授業内容の質問に親切に答えてくれる。
- 難しい部分の個別解説や説明の仕方が分かり易かった。
- 英語で授業は自分の不足を良く補充して頂いた。
- 学外でもあいさつを返してくれた。
- 卒業研究において、ゼミ等で自分の考えを述べるときや理解できていない点についてわかりやすく解説してくれた。
- 卒業研究において、的確に問題点の指摘等を頂いた。研究室内の生徒にも慕われ、尊敬されている。

以上の学生の投票理由と受講生の授業評価アンケート結果に基づいて、横尾英俊教授は、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践したこと、教育方法の工夫や改善に取り組むとともに、意欲的に情熱をもって教育活動に取り組むことで顕著な教育成果をあげたことから、本学ベストティーチャー賞にふさわしいと考え推薦するものである。

（2）工学研究科機械システム工学専攻 莊司 郁夫教授

本学部ベストティーチャーは「国立大学法人群馬大学ベストティーチャー賞実施要項」に定めるもののほか、「群馬大学工学部ベストティーチャー選抜要領」の定めるところにより選抜される。これによると、学部 4 年生および大学院博士前期課程 1・2 年生の投票をもとに、工学部専門教育科目を担当する助手を除く専任教員のうち、単位認定を行った専任教員

の中から、教育活動に熱心であり、また担当授業が公開されている者を選抜することとしている。

機械システム工学科では、平成22年11月9日以降に、実際に履修した機械システム工学科専門教育科目（卒業研究を含む）のうち、授業方法、授業内容、学生との良好な関係構築等の観点を総合して、優れていたと感じた授業担当教員を1名から3名選ぶ学生による記名投票を行った。その結果、莊司郁夫教授が最も多く得票した。学生が記載した主な投票理由は以下のとおりである。

- ・学生の主体性を尊重した研究指導で、良好な関係を構築することができた。
- ・研究を進める上で親身になって相談に応じてくれた。
- ・授業では基礎的な内容からわかりやすい説明があった。
- ・質問も気軽にできたので、学生との距離も近く、親しみやすい印象を持った。
- ・パワーポイントを効果的に利用してわかりやすい授業が行われた。
- ・配布されたプリントは復習にも役に立つのでよかった。
- ・重要なところはレポート課題として出され、その課題が適切であったことから、自分で考える力がついた。
- ・授業内容がよくまとまっており、説明も丁寧でわかりやすかった。
- ・先生が一人で話すのではなく、学生たちと一緒に授業を進めていった。
- ・授業ではマイクを使うなど、聞きやすくするよう工夫していた。

以上の学生の投票理由にもあるとおり、莊司郁夫教授は、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践したこと、教育方法の工夫や改善に取り組むとともに、意欲的に情熱をもって教育活動に取り組むことで顕著な教育成果をあげたことから、本学ベストティーチャー賞にふさわしいと考え推薦するものである。

（3）工学研究科電気電子工学科専攻 弓仲 康史准教授

電気電子工学科では、平成22年10月中旬以降に、実際に履修した電気電子工学科の専門教育科目（卒業研究を含む。）のうち、授業方法、授業内容、学生との良好な関係構築等の観点を総合して、優れていたと感じた授業担当教員を1名から3名選ぶ記名投票を、学生に対して行った。その結果、弓仲康史准教授が最も多く得票した。学生が記載した主な投票理由は以下のとおりである。

- 授業はとても解かりやすい。質問しても解かりやすく教えてくれる。
- 授業の中で話してくれるエレクトロニクスの現状等の話題が授業と結びつく。
- 授業方法がベストである。
- 卒業研究でも普段から教え方が解かりやすく、ためになることが多い。
- 目的を持って学べるよう工夫された授業であり、なおかつ授業が大変解かりやすい。
- 卒業研究では一人一人を尊重した指導方法である。
- 説明が丁寧でとても解かりやすい。
- 卒業研究に関し適切なご指導をしてくださる。
- スライドやプリントを使用した授業形式で解かりやすい。
- 丁寧で解かりやすい授業である。
- 理論だけでなく具体的な数字を用いたことで理解が容易に得られた。
- 実物または実物の写真を用いて面白く、且つ実感のわく授業である。
- 授業の構成が大変洗練されていて、本当に解かりやすい。
- 今まで受けた授業の中でも質はトップクラスだと思います。
- 学生の反応を見ながら授業を進めている。
- 授業を「教えること」と意識して、プリントの穴埋め、例題等身につけるための工夫がされている。

以上の学生の投票理由にあるとおり、弓仲康史准教授は、卓越した指導力で教育効果の高

い授業を実践したこと，教育方法の工夫や改善に取り組むとともに，意欲的に情熱をもって教育活動に取り組むことで顕著な教育成果をあげたこと，シラバス掲載等の諸条件を満たしていることから，本学ベストティーチャー賞優秀賞候補としてふさわしいと考え，推薦するものである。

受賞者による授業・教育方法の紹介

1. 授業名（受賞対象となるもの）
2. 授業の概要
3. 授業で特に工夫をしている点
4. 学生に接する場合に留意している点
5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

松元宏行（まつもと ひろゆき）：学生支援センター 就業力育成支援室 教授

1. 受賞授業名

科学入門 - 要約する技術〈科学技術〉（学修原論）

科学入門 - 要約する技術〈生物科学〉（学修原論）

現代社会状況論（総合科目）

科学技術 - 歴史と発達 -（総合科目）

2. 授業の概要

科学入門 - 要約する技術は、科学的な映像を授業の前半部で見て、後半部で要約するという形態の授業です。自分の専門だけでなく、近隣領域や異分野の情報をいかに纏めて理解するか、そして人に説明するための資料を作成するというものです。現代は近隣領域との連携が必須といえるでしょう。前期は科学技術、後期は生物科学を中心に展開しています。要約する技術という方法論を学ぶ印象が強いですが、映像を厳選することで知識も身につけようというのがこの授業の狙いです。

現代社会状況論も科学入門の手法を取り入れて、映像の要約をしています。総合科目という特質を活かし、歴史、教育、科学、戦争など人文科学、社会科学の内容も幅広く取り入れ、学生の興味を引くものとなりました。映像テーマについてのディスカッションなども取り入れています。

科学技術 - 歴史と発達 - は全期間でおおむね科学史的内容を6割、科学論的内容を3割、その他を1割という構成で実施しています。自動車の歴史、医学の歴史、核開発史、電気の歴史、優生学、先端医療といった内容で1回ないしは2回の完結型の授業を行っています。この授業では科学的内容ばかりでなく当時の歴史や社会背景も取り上げ、学生の知識向上を目指しました。

3. 授業で特に工夫をしている点

学修原論で開講している科学入門は要約する技術を身につけようとするものですが、同時に課題となるテーマについても知識の習得を目指しているので学生の属性などに留意した素材を選定しています。また、要約のための用紙は一定のガイダンスにしたがって完成できるようなものを作成し、映像の種類によっては内容を時系列に説明したガイドを作成し配布することもあります。現代社会状況論でもほぼ同様の対応をとっています。これはよく見られる大学初年次の教育の不親切さを私なりに払拭したく実行しているものです。

科学技術 - 歴史と発達 - では学生の知識の増強を第一に考えて授業を進めています。この授業では必ず取り上げる内容があると学生に説明しています。それは、「核開発史」と「人間改良をめざした男たち」というものです。両者とも映像利用しますが、「核開発史」では核兵器がどのようにして作られ、どのようにして世界へ伝播していったか、政治や国際関係を交えて教えています。また、「人間改良をめざした男たち」では人が人を淘汰した優生学の歴史からどのような教訓が得られるか学生とともに考えています。一方、電気や計算機の歴史を説明する時は絶滅商品となりつつある計算尺や真空管、蓄音機といった現物を示すこ

とで学生の興味を喚起するよう努めました。

いずれの科目も「書く（直筆）」という作業を重視しました。講義の進め方や評価の方法、基準を学生に明示していることはいうまでもありません。なお教養教育の実践は日本科学史学会や日本工学教育協会で発表し広く識者の意見を得ています。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

ほとんどの学生はフレンドリーで授業にもなじんでいると思われます。しかし、学生の性格は千差万別で、中にはニコリともしない学生や一人で孤立していそうな雰囲気の学生もいます。私は教室を歩くことで、できるだけ声かけをしてコミュニケーションをとるようにしています。

学生からの要望は、受容できるものはする、できないものはしない、是々非々の態度で臨んでいます。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

特にはないと思われますが、自身が教養教育の重要性を強調し、実践してきたことが学生諸君の琴線に触れたのではないかと感謝しております。私はセンター、機構の教員として兼担も学生指導もなく一抹の寂しさを感じておりましたが、それでも桐生や昭和へ進級した学生はまだ覚えていてくれるようです。今回奇しくもこのような学生諸君の評価を賜り心よりうれしく光栄に思います。

コントレラス・ジェフリー（こんとれらす・じえふりー）：教育基盤センター 准教授

1. 受賞授業名

教養教育英語1年

2. 授業の概要

私は、群馬大学においてプロジェクトに基づいた教授法で15年間指導しています。授業の内容は、学生達が、英語で効果的にコミュニケーションをとれるような多様性のあるアプローチを含む独自の指導法です。それは、学生たちのリーダーシップを図り、また総合的なプロジェクトに関連した課題と活動を学術的な目的用に英語学習が生かせるような内容です。グループプロジェクトは、3段階から成り、「グループ選択の発展的課題」、「リーダーシップに基づくリサーチ」そして取材結果の「リーダーシップがとれる正式なグループ発表」です。最終的なグループ発表は、グループプロジェクトの3つ全ての段階の総合したもので完成します。言語指導に付け加えますと、このような授業は、将来のプロフェッショナルな仕事と同様に、これからの学生達の人間関係の成長を促進させることと思います。

3. 授業で特に工夫をしている点

授業では、4つの工夫している点があります。まず第1に、リーダーシップ力をつけるトレーニングは、授業時間内に講師により指導されます。第2に、学生達は、共同・協力する課題と活動を毎授業取り組みます。第3に、学生自身のグループを管理し、共同学習作りを通し、他者のことを思いやることを促します。最後に、学びの場は、グループミーティング用として教室以外の場所やグループプロジェクトの一環として図書館で、必修のリーダーシップグループミーティングが行われます。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生達には、敬意を持って接することが重要であると強く信じています。将来彼らが、日本や世界でプロフェッショナルとして活躍する若き大人として接しています。学生自身の学習管理と同様にその学習課程にそのようなものが含まれることによって彼らに権利を与えてあげることが重要であると思います。いつでも可能な限り、授業内容には、現実的な状況と教室外の環境が含まれるべきであると思います。授業活動の一環として、取材・調査とプロジェクトの発表段階の目的の為に課題に関連した実際の施設へしばしば訪れることもありま

す。例えば、「ラーメン」という課題のグループは、前橋の地元ラーメン店に出かけ、彼らの取材を行いました。最終発表用に学生たちは、ラーメン店での配達画像をビデオ（店主には、許可済み）に取材用として収めました。このようなプロセスを通して、この言語活動が現実的で意義深いものとなったのです。この例は、授業では多くのグループにおいて共通しているものです。この学期で、学生たちが課題と活動に従事し、自律学習を促進できるように進めています。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生達は、授業内容を通して、自分たちの英語の強弱点を知る機会になったと私は信じています。大勢の学生は、授業に来る時、言語学習に対し、その学習意欲は、低いものです。しかしながら、このような授業スタイルによって、英語を学ぶことが楽しく意義のあるものであるという事をわかってくれます。学生達の授業態度は、変化し、これからの英語学習へのゴールは、形作られたと思います。授業での取材と発表力は、実際の社会で役立つものであり、英語以外の授業や未来の仕事ですぐに応用が利くものであると思います。おそらく受賞の理由として最も重要な理由は、学生たちが、共同学習姿勢を通してグループの一員たちと築き上げたたいへん素晴らしい人間関係・友情関係にあると思います。

岡崎 彰（おかざき あきら）：教育学部 理科教育講座 教授

1. 受賞授業名

「恒星の科学」 後期 分野別科目（自然分野）

2. 授業の概要

星座を織りなす夜空の星々（恒星）は、どれも光の点にしか見えない。手持ちの望遠鏡で何百倍に拡大して眺めても、やはり光の点にしか見えない。太陽系の惑星と比べて極端に遠いからである。しかし、近年の天文学の成果は、そんな恒星にも誕生から死滅に至る「一生」があること、恒星は成長していく中で、ときには華々しく、ときには静かに変貌していくことを示している。

この授業では各回を通して、最新の観測装置とモデル計算で明らかにされた各成長段階の恒星の姿を誕生から順を追って、具体例を挙げながら紹介している。たとえば、これまで謎とされていた明るさの変わるガス状の天体「ハッブル変光星雲」の正体が実は生まれて間もない恒星（原始星）から放出されているガスや塵の流れだったと判明したことや、ふだん見慣れている「冬の三角」の「ベテルギウス」が大きく膨らんだ老齢の恒星（赤色巨星）であること、やはり「冬の三角」の「シリウス」に付随している星（伴星）が寿命を終えて余熱で輝く高密度の恒星（白色矮星）あることなどを、画像や動画を交えて伝えている。

もうひとつ力点を置いているのは、恒星による水素・ヘリウム以外の元素の生成である。恒星内部では重力と圧力のバランスによる巧みな自己調節機能の下で原子核融合反応行われており、宇宙誕生以来、恒星は世代交代を繰り返しながら、宇宙初期には存在しなかった元素（水素・ヘリウム以外の元素）を生成してきた。地球上の生命に不可欠な元素のほとんどが、かつて存在していた恒星の内部で生成されたことを知ることは、人間と自然との関わりを考える上でも重要な視点だと考えている。

3. 授業で特に工夫をしている点

前述のように、各回では原則として、各成長段階の1～2個の恒星を具体例として登場させているが、その際、自然科学の側面だけでなく、なるべく歴史や古文、音楽、美術などの様々な分野とのつながりも意識して、各学部・各専攻の学生たちに親しみを持ってもらえるようにしている。たとえば、1054年の超新星爆発の記録では、藤原定家の「明月記」や中国の「宋史」・「宋会要」の内容を原文も交えて紹介したり、恒星の空間的な分布を初めて調べたW.ハーシェル（音楽家でもあった）の作曲した音楽を聞かせたり、太陽の色については、

日本と西洋の子どもが太陽をどんな色で描いているかを話題にしたりしている。

そのほか、十数年前から太陽以外の恒星で惑星が続々と見つかったりしている状況や、自然科学的な立場から地球外生命の探索がどのように行われているかも紹介している。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

教室が広いので、板書の際に文字の大きさが十分かどうかを、後ろの方の学生たちに確認するようにしている。これは、かつての授業評価で文字が小さすぎるとの指摘があつて以来、常に心がけている。

学生からの質問にはもちろん丁寧に答えるようにしている。これは、こちらで話した内容を学生たちにどう理解しているかを知る絶好の機会であり、こちら也大いに勉強になる。単に学生の勘違いという場合には一言説明すれば済むが、いくつかのやり取りの後で互いの認識がずれていることにより気付いた場合には、改めて最初から説明しなければならないこともある。私にとって最高の楽しみは、本人はただ素朴な質問をしているだけなのだが、実は本人の気付かない奥深い内容を含んでいる場合である。そのひとつとして思い出すのは、(恒星とは関係なかったが)「土星の環はなぜ赤道の周囲に(赤道面上に)あるのか?」という質問であった。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

特に思い当たる点はありません。いつも用意万端で授業に臨んでいるかということ、必ずしもそうとは言いきれません。ただ、教える本人が本当に面白いと思っていることが、学生たちにもそれなりに伝わっているのかもしれない。そうだとすれば、学生たちに学問というものの面白さを知ってもらうきっかけを与えることができたことになり、私としては嬉しい限りです。

齋藤理生(さいとう まさお):教育学部 国語教育講座 准教授

1. 受賞授業名

「近代文学講読A」「近代文学講義A」「基礎国文学」等

2. 授業の概要

「近代文学講読A」では、大正時代の名作を精読した。個々の小説の特徴はもちろん、他の小説を読む折にも活用できる着眼点を教えた。

「近代文学講義A」では、〈恋愛〉というテーマを軸に多くの作品を読み解いた。あだち充『タッチ』の主人公はなぜヒロインに告白する際「僕は君が好きだ」ではなく「上杉達也は朝倉南を愛しています」と表現したのか?

…といった問いを切り口に、近代から現代に至る言葉や文化の諸相を追った。学生には、こうした講義を通じて〈今〉を相対化する目を養って欲しいと願っている。

「基礎国文学」では、国文学研究の基本的な方法を論文の探し方から文藝理論まで教え、学生には実際に論文を書いてもらった。まず関心のある問題/作品の先行研究を調べ、まとめたレポートを提出してもらい、コメントを付して返す。次にレポートを踏まえて自分なりの問いを作り、考察した「論文」の提出を求める。希望する学生には更にコメントを付して返し、3度目の提出を受け付ける。文学作品に問題点を発見し、先行研究と対話しつつ独自の解釈を導き出すこと。その営みを通じて、学生が問題設定能力や批判/論理的思考を身に付けてくれることを期待している。

3. 授業で特に工夫をしている点

ハーフタイム制の導入。すなわち、集中力を保ってもらうために、授業開始後45~60分経ったら、1~3分の休憩を入れている。学生には一度リラックスしたり、そこまでの授業内容を消化したりする時間にしてもらっている。自分にとっては、予定していた授業進捗と実際のそれを計り直し、学生の理解度と合わせて、そこからの授業をどう展開するか、戦

略を練り直す時間である。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

講義で語りながらも、往年の中田英寿のように首を振り、なるべく多くの学生に目を配り、視線を交わして語りかけている。よく聞こえる声を出そうと心がけ、フィリップ・トゥルシエばりの身体言語を積極的に用いている。重要な部分がわかるように、あるいは退屈にならないように、遠藤保仁のパスの如き緩急や抑揚を語りにつけようと意識している。

そういう努力が辛くなってきた時には、You Tube で桂枝雀の落語を観て元気を取り戻す。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

今日はいいい授業ができたなあ！ と気持ちよく研究室に戻れる日なんて半期に一度もありません。にもかかわらず、大体において楽しく授業でき、学生諸君も相応に評価してくれたとすれば、それは受講生が教員の意欲を促進する的確な反応を示したり、刺激的なリアクションペーパーを書いたりすることで、うまく自分を乗せてくれ、よい相乗効果へと導いてくれたからに他なりません。

とはいえ、3年前は「学生と比較的年齢に近いことが、今回は、良い方向に働いたのかもしれない」と書いた自分ももうすぐ36で、学生との距離の取り方も変わって来ると予想されます。今後の学生が、従来の授業に満足してくれるとは思いません。さらなる精進を続ける所存であります。

中村敦雄（なかむら あつお）：教育学部 国語教育講座 教授

1. 受賞授業名

中学校国語科指導法、国語教育演習

2. 授業の概要

授業では小・中学校の国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域について、実践的指導力を培うことを目標としています。学生の皆さんにとっての直近のゴールは、教育実習で自力で指導案が書けて、授業をやり遂げることができて、授業後のリフレクションで振り返りができることです。それだけではなく、そこから先の、卒業後、教師として教室の実態に応じた教材研究や教材開発ができること、ひいては専門職として学び続けていくうえでの基礎を確保できることまでを段階的に想定しています。

授業の進め方としては、具体的な授業実践を経験することから出発して、理論と実践の両面について掘り下げていくアプローチをとっています。わたし自身が学生を生徒に見立てて模擬授業を行う場合と、学生がグループを組んで模擬授業をおこなう場合があります。附属学校園で授業を参観する場合があります。授業後には、学習者の反応を踏まえて、何がその授業のポイントなのか、どういう教材や方法がのぞましいのか、他にどんな方法が考えられるのか、自分の考えを出し合い、聞き合う機会を意識的に設けています。

3. 授業で特に工夫をしている点

学生の皆さんを受け身にしないことに尽きます。初学者ですと、知識が十分にはないこともあって、なかなか自信を持って意見を言うことができません。けれども、間違ってもいいんだよ、今はあなたの思ったこと、考えたことだけを言ってくれればいいんだよといった誘いかけをして、さらに出た意見の良いところは積極的に評価して、必要に応じて教師側が言い直しをして補強することで、「話し甲斐」が実感できるように配慮しています。自分はこう思っていたけれども、同年代の他の人はそうではない考えを持っているということ自体が、実は大変にインパクトのあることでもあります。学生側の視点に立って、何が知的な刺激となるかを考えて、へえ、それって何、どうして、と思ってもらえるように気をつけています。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生として大学の教室にいる人たちの多くは、数年後、教壇に立って教える側になります。それだけに、教える内容について苦手意識があったり、その教科が好きではない状態で教壇に立ったのでは、その人から学ぶ子どもたちがマイナスの感化を受けてしまうかもしれません。そこを最も心配しています。授業では国語科をまずは好きになってもらうこと、わかってもらふことを優先させて、魅力的な題材を扱うように心がけています。

もう一つ、国語科の教師は体育科の教師に最も近いと考えています。自分自身が見本を示さなければ、生徒が動かない点で共通しているからです。なので、話したり、書いたりする機会を意識的に多くとっています。かつての自分がそうであったように、自分が受けた授業の影響は非常に大きいので、できるだけ自分を相対的にとらえる機会を設けるとともに、今求められている新たな学習活動について実際に体験してもらうようにしています。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

卒業生に言われたのですが、その人が背伸びをしないとできない課題を出し続けたことでしょうか。人や集団の状態をよく見きわめたくて、どういう要求をすればいいか、つねに考えています。反発を受けることもあります。教師になる人がこれでは困るということは、曖昧にせず、はっきり言うようにしています。少しずつでも背伸びをしているうちに気づいたら背が伸びていた、と言ってくれる人がさらに増えればうれしいですね。

堀 正（ほり ただし）：社会情報学部 情報行動講座 教授

1. 受賞授業名

どの授業が分かりませんが、おそらくコミュニケーション論 A（学部専門科目）と人間行動論（学部専門科目）だと考えています。

2. 授業の概要

「コミュニケーション論 A」では、「コミュニケーションとは何か？」から入り、メディアの変遷をたどるなかからコミュニケーションを考えている。『手紙の時代』に収められた萩原朔太郎の文章などを取り上げ、また、電話については、受賞者の前職である「電気通信政策総合研究所」での報告書『若者のメディア接触行動に関する調査研究』から、明治時代以降の電話の歴史とそれが人びとに与えた影響について考えて、デジタル時代のメディアへとつなげている。昨年度は、インターネット上の学術的なページを紹介し、写真と映画の仕組みを心理学と関連づけて紹介するなかで、リュミエール兄弟が撮影した世界初の映画を、フランスのホームページからダウンロードして受講生に紹介した。

「人間行動論」では、人間社会のなかのさまざまな行動に注目して、その背後に働いている心理学的な要因を解説している。同時に、個人あるいはグループを作って、コンビニ、スーパーマーケットなどで人間の行動を観察するという実習を課し、最後にそれを発表するなかで、人間の行動に潜む特徴を受講生とともに議論している。

3. 授業で特に工夫をしている点

基本的には必要な知識・情報を提供することを主眼としているが、学部の特徴を出すために、インターネット上の学術的なページや、関連するビデオ教材を紹介している。学生の発想や考えを尊重し、学生と同じ目線で、さらに言うと、子どもに関わる話をするときは子どもの立場に立って考え行動するように、学生に伝えている。「教育」とは「教える育てる」とも「教わり育つ」とも読める。もっと言えば、「きょういく」とは「共に育つ」だと考えている。社会に出てから長い期間を、大人、子どもを含めて、多くの人びととかかわって生きていくということをメッセージとして伝えている。その1つとして、灰谷健次郎、林竹二などの本を紹介することもしている。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

「受講生の目線で」の一言に尽きる。また、学生が提案したことなどをまず受け入れるということである。受け入れられていると安心感が生まれ、何でも発言して良いという雰囲気生まれる。講義はそのあとから始まると考えている。心理学的な知見を取り入れて、学生とのあいだの居心地のよい距離を作ったりといった工夫も行っている。学生が講義を聞いて楽しくなれば自分が幸せになると考えている。「自分を笑いものにできること」は、どのような場合にも人の心を捉える大きな要因である。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

まずもって「青天の霹靂」でした。家で子どもに話したところ、高3の息子は大笑いしました。理由はよく分かりません。高2の娘の一言はまたの機会に。個人的には、どのような場面でも同じ自分であることを心掛けています。大学での出来事を家で話し、家での出来事を授業のネタとして使うことがあります。世の中をいろいろな面から見る、日常で出会う出来事を「不思議だなあ」と思う心を育てることが大事だと考えています。あえて言えば、自然体で講義をしていることが思い当たる受賞理由かもしれません。

塚本憲史（つかもと のりふみ）：医学部附属病院 腫瘍センター 准教授

1. 受賞授業名

4年生ブロック講義血液疾患：「造血器腫瘍総論」、「貧血総論、鉄と造血」、「巨赤芽球性貧血」、「溶血性貧血」を担当（各1時間の講義）。

6年生実践臨床病態学講義：「白血病、悪性リンパ腫の診断と治療」、「貧血の診断と治療」を担当（各1時間の講義）。

2. 授業の概要

医学部では3年生までに基礎医学を勉強し、4年生からブロック講義として系統的な臨床講義が始まります。血液疾患（内科）に関しては計16回の講義を行っており、そのうち上記の4つのテーマを担当しています。

各授業の冒頭にその日の講義内容のアウトラインを話し、全体の流れを掴んでもらいます。講義はプリント中心に進め、病態および治療の説明にはPowerPointのスライドを用います。配布するプリントには疾患ごとに、1) 定義、2) 分類と原因、3) 病態、4) 症状、5) 検査所見、6) 治療と予後、が記載してあり、重要なポイントでは症例を呈示し、具体的なイメージが得られるようにしています。また、ところどころに空欄を設け、講義を進めていきながら学生に記入してもらいます。このプリントは試験前対策に十分で、学生はノートを取る心配をせずに授業に集中できます。

6年生講義では国家試験を意識して症例問題を提示し、学生に解答させたあとに重要なポイントを解説し、しっかりと理解しているかを再確認してもらいます。

3. 授業で特に工夫をしている点

講義内容に則したプリントを作成し、試験前にも利用できるようにする。

プリントに空欄、Questionをところどころに設け、重要なポイントでは症例呈示を行い、講義にメリハリをもたせている。

病態、治療法が理解しやすいように、PowerPointを使用して説明する。

同じカテゴリーに属する複数の疾患の説明をするとき、共通の症状、検査所見を概説したのちに、個々の疾患で異なる点を述べるようにする。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

講義の際は、なるべくゆっくり話し、重要なところでは繰り返すように心がけている。

学生の知的好奇心を刺激できるような内容を含むようにする。

大切な点、是非覚えておいてほしいポイントは、授業中に強調する。

講義は1時間と短いため、重要な点のみを話すようにする。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生時代、血液病学の講義は全くといって理解できませんでした。わかりづらかったのはどこか思い出しながら資料（プリント）を作成したこと、また、講義を担当したのが必ずしも得意分野でないところが多いため、一から勉強して授業に臨み、学生を目線で授業を進めたこと、などが関係していると思います。

鈴木健史（すずき たけし）：医学系研究科 器官代謝制御学講座 生体構造学 助教

1. 受賞授業名

生命医科学Ⅰ ユニット2「細胞の構造」

2. 授業の概要

生命医科学Ⅰは、医学専門科目を学習するための準備段階として、知っておくべき知識基盤を身につけるため開講する。ユニット2では特に、生命の基本単位である細胞について、その構造と機能について講義する。講義は細胞の多様性から始め、小球状でシンプルな形状の細胞から粘菌などアメーバ状の形のない細胞、カサノリのように巨大で極めて複雑な形状を呈する細胞など、さまざまな大きさ・形状の細胞が存在することを紹介する。

さらに、受精卵という単一の細胞が分裂増殖して成立した動物個体の細胞は、すべて同一の遺伝子セットを保有するが、血球や神経、筋など様々な形状や機能を持つ細胞に分化することを教える。

また、原核細胞と真核細胞の基本構造の違いについて解説し、種々のオルガネラについて詳細を順次講義する。ミトコンドリアと葉緑体の回では特に、エネルギー生産や代謝機能などの基礎的項目に加え、細胞内共生起源説について解説する。このとき、トピックとしてマラリア原虫がむかし葉緑体を持つ植物であったことや、光合成を行うウミウシの存在などにまで話を発展させ、生命科学のおもしろさを伝えると同時に、幅広く知識を持つことの重要性を教える。

3. 授業で特に工夫をしている点

発見などの歴史的背景（エピソード）や興味をそそるおもしろいはなし（豆知識）、最新の研究報告（トピック）などを適宜織り込みながら行う飽きない授業を心がけており、生命科学に対する興味を持ってもらうことに力を注いでいる。

また、暗記ではなく直感的に且つ理屈として覚えられるように、丁寧で要点がわかる解説を心がけている。

さらに、復習しやすいように、授業のポイントや補足図を簡潔にまとめたプリントを作成・配布し、知識の定着を助けている。なおプリントは、高校生物を履修していない学生向けに用語解説を含む形で丁寧に記述し、学習効率の高い復習ができるよう配慮している。

講義は、板書をメインとしながらも常時わかりやすい写真や図を投影し、複雑で巧みな生命の構造を具体的且つ立体的に把握できるよう工夫している。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生が知識基盤構築の途上にあることを十分に理解し、専門用語などのかみ砕いて解説するよう常に心がけている。群馬大の学生は知識欲が旺盛で、豆知識やトピックに強い興味を持って聞いてくれるが、短時間に多くの話を詰め込みすぎると消化不良を起こし、逆に興味が失わせてしまうことがあった。

そこで話しすぎにも注意し、要点を絞り講義項目を厳選し、エピソード、豆知識、トピックなどとの量的バランスを考え、興味が持続する授業を心がけている。また、質問や発言は学生からの貴重なフィードバックと捉え、感謝をしっかり現しつつ、懇切丁寧に対応している。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生に敬意・誠意を持って接していることが伝わり、これが授業に対する信頼感＝高評価という形で帰ってきたのではないかと考えている。実際、群馬大の学生はみなまじめで、私語はなく、欠席も少なくしっかり授業を受けており、質問も多い。これは学生時代の私にはなかったことで敬服している。授業は教員が一方的に行うものではなく、学生のフィードバックがあって初めて成り立つもので、今回の受賞は学生の協力があつたからこそと感謝している。今後も、学生の期待に添うよう努めたい。

酒井保治郎（さかい やすじろう）

：前医学部保健学科 理学療法学専攻 心身障害作業療法学 教授

1. 受賞授業名

生理学，生理学実習，神経内科学，高次脳機能障害作業治療学

2. 授業の概要

どの授業でも、基本的には同様ですが、生理学を中心に述べます。毎回、A3 サイズにまとめた講義内容の要約からなるプリントを学生に配布し、教科書とプリントと黒板を使い講義を行う。プリントには、教科書の膨大な内容を重要な部分のみを要約するようにしている。昔、私が生理学を習い始めた際、ようやく医学の基礎を勉強できることに喜びを感じたが、やがてこの学問が医学の臨床の中でどのように役立つのか、疑問に感じた。そのような自分の過去の経験から、臨床の中で、どのように使われているかを講義の中で解説し、その重要性を強調するように心がけている。もう一つ注意している点は、高校で習った理科の内容を適宜簡単に復習し、講義内容をスムーズに理解できるように努めている。

3. 授業で特に工夫をしている点

理科、特に物理学の知識がなければ理解しにくい難解な生理学を、臨床の話をまじえ、臨床での重要性を強調している。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

最近の大学生は、物理、化学、生物について、概して習っている範囲が狭く、個人差も大きいように思う。私の頃は、理科系を志す高校生は、物理、化学、生物をⅠだけでなくⅡまで習い、地学までも習った時代でした。自分の高校の知識で説明しても、わかりづらいようで、説明の後、どこまで理解できたのかを学生に確認し、理解の困難な内容は再度説明するようにしている。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

私は声量もありませんので、基本的にマイクを使っています。それでも、決して聞きやすい音声ではないと思っています。その点で、受賞が不思議な感じがしていますが、1年生の票数が多かった点から、生理学が評価された可能性が高いかと思っています。生理学では、①他の授業でもそうだが、毎回講義をまとめたプリント資料を配付する、②高校で習った内容の復習をし、理解を助ける、③臨床でどのように使われているかを解説し、生理学の臨床での重要性を強調する、の3点を心がけてきました。これらが評価されたのでしょうか。

横尾英俊（よこお ひでとし）：工学研究科 情報工学専攻 情報数理工学 教授

1. 受賞授業名

「数値解析」

2. 授業の概要

数値解析の基本的手法とその原理を説明することで、数値解析学の体系的な理解を目指す。

これにより、科学技術の諸分野で現れる数理的問題をコンピュータで解析する手法が習得できる。特に、コンピュータにおける計算と数学的な意味での計算との相違を強調し、非線形方程式、連立1次方程式、固有値問題、関数の多項式近似、数値積分に関する基本的な数値解法を説明する。

3. 授業で特に工夫をしている点

- ・ 90分授業であれば、1回は休憩をはさむようにしている。
- ・ 黒板の組織的な使い方と見やすい板書に注意している。スライドは、真に最適と思われる状況に限定して使うようにしている。
- ・ 講義終了直後に次の講義の準備をすることで、講義の連続性に学生の視点から配慮している。
- ・ 講義のシナリオをあらかじめ十分に反芻している。脱線や横にそれることであっても、十分準備をした上で講義に織り込んでいる。
- ・ 学期中に数回実施する小テストの解答用紙の余白や裏面を使って、質問を自由に記載させている。質問があった場合には、丁寧な解答を添えて返却している。
- ・ 過去の定期試験の問題を積極的に公開することで、学生が学習意欲を具体化させやすいようにしている。また、一部の問題には解答の記述例を添え、答えや解き方以上に重要なことがあることを考えさせるようにしている。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

- ・ 分かりやすい講義を心がけている。「分かりやすい」という場合、「分かる」ということが、どういう境地に至ることであるのかがポイントである。分かっていることを他人に説明することができないのは当然である。しかし案外、こちらの実によく分かっていなかったということが往々にしてあるものである。自省をこめて、自分自身が深く理解することなどを常に意識している。同時に学生には、「分かる」「理解する」ということが単に問題の解き方をおぼえることではなく、どういう納得に至ることであるのかを自分なりに考えるように強調している。
- ・ 学生の視点を尊重し、学生の立場に立った説明を心がけている。
- ・ 私たちが後輩に伝えられる最低限のものは日本語であるとの考えから、言語（ほとんどの場合、日本語）を大切に扱うようにしている。たとえば、「えー」「あー」などの不要な間投詞等を避けるように努力している。また、学生には箇条書き的な事項の列挙よりも文章としての知識や考えの記述を勧め、句読点もおろそかにしないということを強調している。漢字の筆順や英単語のストレスなどに折にふれて言及することで、一見ささいなことであっても、軽率に扱っていない態度を示すようにしている。さらに、答案返却の際など、学生の氏名を読み上げる必要がある場合には、その正しい読みをあらかじめ調べるよう努めている。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生の立場に立って分かりやすい講義に努めている点

莊司郁夫（しょうじ いくお）

：工学研究科 機械システム工学専攻 マテリアルシステム工学 教授

1. 受賞授業名

機械材料Ⅰ，機械材料Ⅱ，材料設計工学特論，材料加工工学特論，機械システム工作実習Ⅱ，機械システム工学実験Ⅰ・Ⅱ，専門外国語，力学の世界（学習原論），材料力学演習

2. 授業の概要

- （1）機械材料Ⅰ：機械材料の基本特性・本質と、機械の設計や運用において最適な材料選定を行うための基礎知識を講義する。

- (2) 機械材料Ⅱ：鉄鋼材料を中心に、ミクロ組織と材料の強化機構との関係を講述し、組織制御のための熱処理、耐食性改善手法、鋼材種について講義する。
- (3) 材料設計工学特論：構造材料および機能材料について基本的特性とその影響因子を述べ、機器・装置として利用する場合の問題点と材料設計の考え方を理論および工学の立場より講述する。
- (4) 材料加工工学特論：電子電気機器における電子部品の実装技術を対象に、各種接合方法、それらの接合メカニズム、接合部の信頼性評価方法について講述する。
- (5) 機械システム工作実習Ⅱ：「熱処理と塑性加工」分野を担当。鋼の熱処理とアルミニウム合金の圧延を体験させ、加工処理による同一材料の機械的特性変化を調査し、その理由を考察させる。
- (6) 機械システム工学実験Ⅰ・Ⅱ：「硬度と金属組織」分野を担当。金属材料の機械的特性を調査する一方法としての硬さ測定を修得させる。評価対象として、アルミニウム合金の時効硬化現象、鉄鋼材料の溶接部の硬度変化を測定させ、その理由について金属組織学的見地より考察させる。

3. 授業で特に工夫をしている点

学生にとってわかりやすい授業を実施できるよう心がけている。(毎年の授業評価アンケートの指摘・要望を検討)多くの授業を実施する機会に恵まれたので、各科目間でのつながりを考慮したカリキュラム編成を実施した。以前よりも、授業間の関連性を高めた。

Power Point による授業であるが、はじめに一度説明後、写し終わった頃を見計らって再度説明している。

説明が難解になりがちな内容は、できるだけ配布資料を追加して説明。

配布資料はカラーを使用。授業内容の理解度を深めるために、授業中に演習を実施。

小テスト、レポートなどは、基本的に翌週の授業時に返却。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

できるだけ反応を見ながら進めるようにしている。(写し終わっているか、説明内容を理解できているかなど)質問を受けた場合には、話を良く聞き、適切かつ迅速な対応をとるように心がけている。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

わかりやすい授業、効果的な追加資料の配布、適切な演習の実施。

多科目担当であり、複数の授業を関連性を高めて展開したため、印象が残ったのではないだろうかと思う。

弓仲康史 (ゆみなか やすし)

：工学研究科 電気電子工学専攻 情報通信システム 准教授

1. 受賞授業名

計算機工学 (工学部電気電子工学科 3 年前期)

2. 授業の概要

ディジタル回路設計に必要な論理回路の基礎および計算機アーキテクチャに関する講義であり、特に、「講義の到達目標の明確化」、「講義内容と実製品との関連」を常に意識した講義を実施している。

3. 授業で特に工夫をしている点

講義で扱っている数式、基礎技術がどのような製品に実際に活用され、豊かな生活の実現にどのように役立っているかという具体的な事例を示し、最新技術動向を交えながら、学生

の講義内容に対する勉学のモチベーションを向上させるきっかけ作りを常に意識した講義構成を工夫している。例えば、身近な製品である Suica カードを見せながら、「IC カードには電池が入っていないのに、なぜ、カード内に情報を記憶し、データの転送ができるのだろうか？」と問いかけ、興味を持たせた後に、電磁誘導による発電・通信技術等の関連技術の解説を行っている。

さらに、講義の冒頭で前回の講義の復習を行い、受講モードに頭を切り換えた後、当日の講義の内容、到達目標を明確に提示し、講義の最後に達成度を各自に再確認させている。例えば、「本日の講義を真面目に聞いていると 1 時間後には電卓の加算器部分のハードウェアが設計できるようになる！」と宣言し、講義の目標、達成レベル、修得可能なスキルを明確化する。これにより、講義への集中度を高めると共に、講義終了後に「講義前は出来なかったことが出来るようになった」という充実感と次回の講義への期待を持たせることが可能となる。

4. 授業で学生に接する場合に留意している点

能力、勉学意欲の差がある学生が同じ講義を受講することによる講義レベルの低下を、学生の質の低下ととらえるのではなく、学生の多様化ととらえ、全ての学生に「学士力」としての最低限の共通な技術を修得させることに留意している。さらに、実社会でのマナーや心構え、持続可能な社会の実現に向けた技術者としての意識の向上なども講義し、卒業までに、社会が要請する「就業力」を学生に付与させることを意識し、学生に接している。

また、学生の視点に立ち、講義に何を求めているかを常に意識すると共に、授業評価の的確なフィードバックによる継続的な授業の改善を重視している。学生は大学入学後、高校とは異なる大学の一方の講義スタイルに慣れず「これまで出来たことが出来なくなった」自信喪失により、勉学意欲を失っていく。これに対して、学生が学ぶことの重要性に自ら気づくことを目的とし、知識伝達型の講義から、自分の意欲で自ら学ぶ方法を教授し、知的刺激を与え続ける「双方向の創発」を意識した講義へのパラダイムシフトに留意している。

5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

インターネットの検索サイトであらゆる情報が瞬時に得られる現在、教科書を丸写しする講義に学生が出席意義を感じ、持続的な知的刺激が得られるのか？教員の情熱、創意工夫が感じられ、毎回、自分の出来ることが増え、最新の技術動向が提供され、教員と学生の知的交流により出席が楽しくなる講義を期待しているのでは？と常に学生の立場で講義の工夫、改善を柔軟に行い、学生と教員が共に学び、育つ「共育」を講義のモットーとしている。

これらの工夫点の中で、授業評価の結果を見ると、「講義内容と実製品との関連」、「講義の到達目標の明確化」を常に意識し、身近な製品に関連する技術内容の解説を行い、関連問題を多数解かせながら講義内容の興味および自己の自信を醸成させた点、および、より難しいことを知りたいという知的好奇心、学習意欲を自発的に創出させることを意識した講義スタイルが学生に受け入れられたものと思われる。また、現在、参画している「群馬アナログナレッジ養成拠点形成」事業において実施中の社会人対象の実践的講義内容を、学部の講義にフィードバックしている点も評価されたのではないかと考えている。

受賞者のプロフィール

松元宏行（まつもと ひろゆき）：学生支援センター 就業力育成支援室 教授

1955年12月大阪府大阪市生まれ。大阪府立八尾高等学校をへて神戸大学理学部生物学科、同大学院理学研究科を修了。民間経験を経たのち、大阪外国語大学非常勤講師、神戸大学非常勤講師等を経て、1999年6月群馬大学留学生センターに助教授として着任。同教授を経て、2011年1月に大学教育学生支援機構へ異動、就業力育成支援室長として学生とともに日々を過ごしています。

大学・大学院時代は植物の核酸合成酵素を調べておりました。そもそも私が所属していた細胞学講座は木原均先生の流れを受け継ぐ遺伝学の講座でした。その関係で、木原均先生や木村資生先生の薫陶を受ける機会を得ましたが、それが遺伝学や優生学の歴史への興味につながり、やがて科学史や科学論に興味を持つようになった一要因になっているといえます。現在は日本科学史学会、日本工学教育協会、専門日本語教育学会などの活動とともに、科学史と教育の関係、科学史の可能性について群馬大学の教養教育で実践研究をしています。

コントレラス・ジェフリー（こんとれらす・じゅふりー）：教育基盤センター 准教授

アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックス市出身である。1989年に、アリゾナ大学より教育行政において文学修士号を授与。1989年7月に、JETプログラムによりAET（英語指導助手）として来日した。1992年4月、育英女子短期大学に英語科の専任講師として採用。1996年4月、群馬大学（荒牧キャンパス）へ籍を移す。

現在は、大学教育センター外国語教育部の准教授である。専門は、クラスルーム・マネージメント、プロジェクトに基づいた教授法と共同学習である。

岡崎 彰（おかざき あきら）：教育学部 理科教育講座 教授

1948年、東京都品川区生まれ。1970年東北大学理学部天文及び地球物理学科第一卒業、1977年東京大学大学院理学系研究科天文学専攻博士課程修了。日本学術振興会奨励研究員、津田塾大学学芸学部助教授を経て、1989年7月に群馬大学教育学部助教授として赴任。

専門は天体物理学、天文教育。天体物理学では、近接連星の測光・分光・偏光観測を行い、活動的な近接連星の周辺物質の性質等について研究している。また、天文教育では、モデル実験と本物の天文現象との橋渡しをデジタルコンテンツに担わせる教材の開発に取り組んでいる。このほか、10世紀以降のベトナムにおける天文古記録の調査も行っている。

普及活動としては、国立科学博物館や県立ぐんま天文台、県立自然史博物館などで一般向け講演を行ったり、「奇妙な42の星たち」（誠文堂新光社）、「星・物語」（共訳、丸善）などの解説書も出したりしている。

斎藤理生（さいとう まさお）：教育学部 国語教育講座 准教授

1975年生まれ。9歳まで父の仕事の都合で千葉・東京・名古屋を転々とする。

10歳から大阪。以降、小・中・高・大・大学院まで大阪府豊中市にある学校に通う。1998年、大阪大学文学部文学科国文学専攻卒業。2004年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程文化表現論専攻修了。博士（文学）。大阪大学非常勤講師等を経て、2006年より群馬大学教育学部講師。現在同准教授。

2008年にベストティーチャー賞優秀賞をいただく。専門は日本近現代文学，特に太宰治の小説の研究。共著『新世紀 太宰治』（双文社出版）等。

中村敦雄（なかむら あつお）：教育学部 国語教育講座 教授

1964年福岡県久留米市生まれ。1989年東京学芸大学大学院教育学研究科修了。東京都立府中工業高等学校で11年間の勤務の後，2000年から本学に。

前の職場で生徒から「高卒で社会に出ようとしている自分がなぜ今さら国語を勉強しなければいけないのか？」と問われました。どう答えようか考えていくなかで，自分が無意識のうちに「受験のための国語科」を反復していることに気づき，どう改善したらいいのか，実の場で生きて働くことばの力とは何だろうか，と考えるようになりました。

さらに当時は，テレビドラマ『はいすくーる落書』（原作は本県が舞台ですが）が人気で，ドラマとしては楽しめたのですが，残念ながら工業高校への偏見を助長させていました。ある日，教師である自分が，目の前の生徒の生きた姿よりも，メディアに影響されていたことに気づき，これまたショックでした。

こうした経験がわたしの授業や研究の根っこにはあります。

その後はNHKラジオ高校講座『国語総合』の講師や，PISA（OECD学習到達度）調査国内専門委員を経験しました。特に後者では工業高校で考えていたことが，国際的な動向からしても間違っていなかったのだと実感できました。著書として『日常言語の論理とレトリック』『コミュニケーション意識を高める 発信する国語教室』『メディア・リテラシーを育てる国語の授業』『国語科メディア教育の挑戦』『レトリック探究法』等があります。

堀 正（ほり ただし）：社会情報学部 情報行動講座 教授

東京都出身。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程を修了し文学修士の学位を持つ。専門は，心理学（言語心理学，社会心理学）で，現在の研究テーマは，(1) 子供をめぐるさまざまな環境（教育環境，入院環境等）についての心理学的研究，(2) 情報通信メディアの利用とその心理学的諸問題，(3) 比較文化的立場からの人間行動論（マン・ウォッチング），(4) コーチング心理学（現在，『コーチング心理学ハンドブック』を翻訳中）などである。日本心理学会等に所属し活動している。

代表的な研究業績として，

- ・「絵本を「投影法」的な自己分析に使う試み—『おおきな木』の学生レポートの分析から—」，榎本博明（編）『自己心理学の最先端』（あいり出版），pp.229-240，2011年
- ・「コーチング心理学の展望」，群馬大学社会情報学部研究論集，第16巻，pp.1-12，2009年
- ・「"The Giving Tree"の各国語への翻訳から文化を考える」，群馬大学社会情報学部研究論集，第15巻，pp.149-170，2008年などがある。

塚本憲史（つかもと のりふみ）：医学部附属病院 腫瘍センター 准教授

群馬県生まれ。1984年富山医科薬科大学卒業後，群馬大学医学部第三内科入局。1986年血液グループに入り，県内の病院で血液病学を中心とした内科学の研修を行いながら，1994年医学博士取得。1994年～1996年米国Coty of Hope研究所に留学。1997年群馬大学医学部助手，2000年講師，2002年助教授を経て，2009年から腫瘍センター長。市民講座，医療者向けのがん研修会を主催する一方，がん患者の地域連携パス県内統一版作成，

群馬大学医学部附属病院登録医制度発足を主導した。

内科認定医，血液専門医・指導医，がん薬物療法専門医，がん治療認定医，輸血認定医，ICD (infection control doctor)。2002 年から JCOG リンパ腫グループ施設代表。

鈴木健史（すずき たけし）：医学系研究科 器官代謝制御学講座 生体構造学 助教

1966 年 4 月，神奈川県川崎市に生まれる。明治大学農学部卒業（1989）。東京大学大学院 理学系研究科 博士課程修了，博士（理学）（1994）。学術振興会特別研究員，群馬大学生体調節研究所を経て現在に至る。組織学，神経解剖学，解剖学，細胞生物学などの講義・実習を担当。分子生物学，細胞生物学および生細胞イメージング技術を駆使し，菌類から植物，動物に至る様々な分野の研究に取り組む。修士課程ではイネ細胞質雄性不稔に関与するミトコンドリア因子を突き止め，博士課程では原始真核藻類や真性粘菌，高等植物の細胞生物学的研究を行い，初期細胞増殖ステージにおけるダイナミックなミトコンドリアゲノムの複製動態を見いだした。群馬大学では，主に輸送体膜タンパク質の細胞内局在機構の研究を行う。現在，免疫シナプスの研究に取り組んでいる。

著書「共焦点レーザー顕微鏡および蛍光顕微鏡を使いこなすための基礎知識」（中西印刷，印刷中），「デコンボリューション顕微鏡法」（羊土社），「多細胞化へのみち．細胞接着の細胞生物学」（裳華房），「オルガネラゲノムからみた細胞の増殖」（秀潤社）他。

日本組織細胞化学会評議員。

酒井保治郎（さかい やすじろう）

：前医学部保健学科 理学療法学専攻 心身障害作業療法学 教授

1946 年 1 月，兵庫県西宮市に生まれる。高校まで西宮で過ごす。1964 年に国立京都工芸繊維大学に入学，1968 年電気工学科を卒業し，4 月に（株）日立製作所日立研究所に就職。1975 年まで半導体素子 SCR を使った電力用機器の開発に従事した。

1975 年，群馬大学医学部医学科に入学，1981 年に同科を卒業し，神経内科に入局し，診療，研究に取り組む。1984 年 6 月，群馬大学医学部リハビリテーション医学研究施設（神経内科）助手。1991 年 6 月，前橋赤十字病院に創設された神経内科に勤務し，1992 年 4 月から神経内科部長。1997 年 4 月，創設された群馬大学医学部保健学科に助教授として赴任，2001 年 4 月から群馬大学医学部保健学科教授に昇任。

2011 年 4 月，老年病研究所附属病院に名誉院長として勤務。

横尾英俊（よこお ひでとし）：工学研究科 情報工学専攻 情報数理工学 教授

1954 年 4 月 26 日生まれ（56 歳）

【学歴】

- ・1973 年 3 月 山形県立山形東高等学校卒業
- ・1978 年 3 月 東京大学工学部計数工学科卒業
- ・1980 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程修士課程修了
- ・1987 年 2 月 工学博士（東京大学）

【職歴】

- ・1980 年 4 月 山形大学工学部電気工学科助手
- ・1989 年 3 月 群馬大学工学部情報工学科講師

- ・ 1990 年 2 月 同助教授
- ・ 1996 年 4 月 同教授

莊司郁夫（しょうじ いくお）

：工学研究科 機械システム工学専攻 マテリアルシステム工学 教授

- ・ 平成 2 年 3 月 京都大学工学部金属加工学科卒業
- ・ 平成 4 年 3 月 京都大学大学院工学研究科金属加工工学専攻修士課程修了
- ・ 平成 4 年 4 月 日本アイ・ビー・エム株式会社野洲研究所
- ・ 平成 10 年 9 月 大阪大学大学院工学研究科生産加工工学専攻博士課程修了
- ・ 平成 12 年 6 月 群馬大学工学部機械システム工学科助手
- ・ 平成 14 年 6 月～9 月 オープン大学（イギリス）客員研究員
- ・ 平成 16 年 12 月 群馬大学工学部機械システム工学科助教授
- ・ 平成 19 年 4 月 群馬大学大学院工学研究科機械システム工学専攻准教授
- ・ 平成 21 年 4 月 群馬大学大学院工学研究科機械システム工学専攻教授

弓仲康史（ゆみなか やすし）

：工学研究科 電気電子工学専攻 情報通信システム 准教授

【学歴】

- ・ 平成 2 年 3 月 東北大学工学部電子工学科卒業
- ・ 平成 4 年 3 月 東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士前期課程修了
- ・ 平成 7 年 3 月 東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了
- ・ 平成 7 年 3 月 博士（工学）（東北大学 第 1680 号）

論文題目「波の並列性に基づく高並列演算システムに関する研究」

【職歴】

- ・ 平成 5 年 4 月 日本学術振興会特別研究員（平成 7 年 3 月まで）
 - ・ 平成 7 年 4 月 群馬大学工学部電気電子工学科 助手
 - ・ 平成 10 年 8 月 トロント大学訪問研究員（平成 10 年 11 月まで）
 - ・ 平成 12 年 7 月 群馬大学工学部電気電子工学科 講師
 - ・ 平成 15 年 12 月 群馬大学工学部電気電子工学科 助教授
 - ・ 平成 19 年 4 月 群馬大学大学院工学研究科電気電子工学専攻 准教授
- 現在に至る

【主な研究内容】

アナログ・デジタル集積回路 (VLSI) の性能向上技術に関する研究に従事。

特に、通信技術・信号処理技術を駆使し、信号線数の削減および波形整形を図る「配線の高性能化」に基づく新しいパラダイムの高性能 VLSI システムの構築を目標としている。また、FPGA を用いた画像処理等の研究、ZigBee を用いたセンサネットワーク等を用いた安全で豊かな情報社会の実現に向けた研究も推進している。

さらに、「デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点」形成の中核メンバーの一人として地域ニーズに即した実践的アナログ教育カリキュラム開発、実施を推進し、アナログをコア技術とした群馬大学の特色ある地域貢献事業に取り組んでいる。

1.3.4 教養教育授業評価

各授業題目に対する授業評価アンケートを分野別科目と情報処理で実施するとともに、1年生全員を対象に、教養教育全体に対するアンケートを後期成績配付時に実施した。

授業評価アンケートでは、分野別科目ではやや改善傾向がみられたが、人文・社会分野においては、開講数のさらなる増加が必要ではないかと思われた。なお、今年度から分野別科目でも履修者数の制限を実施したが、概ね受け入れられているようであった。また、情報処理では、各クラスとも、履修者の基礎知識にばらつきがあるようで、習熟度別クラス編成が検討されてもよいかと思われた。

授業評価質問票（情報処理）

この授業評価の結果が、あなたの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。各質問に対する答えを選択肢から選び、□の中に✓印を付してください。

A. あなたの所属学部等についてお尋ねします。

- ☐ 1 教育学部
☐ 2 社会情報学部
☐ 医学部 (☐ 3 医学科 ☐ 4 保健学科)
☐ 工学部 (☐ 5 昼間コース ☐ 6 夜間主コース)

B. あなたが今学期受講した「情報処理」の授業についてお尋ねします。

あなたが受講した情報処理を選んで下さい（情報処理入門☐ 1 情報処理☐ 2）

前期金曜 9-10 限

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
	1	2	3	4
(1) コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。	☐	☐	☐	☐
(2) コンピュータの活用能力を高めることができた。	☐	☐	☐	☐
(3) 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。	☐	☐	☐	☐
(4) 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。	☐	☐	☐	☐
(5) シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。	☐	☐	☐	☐
(6) 教員やT Aの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。	☐	☐	☐	☐
(7) 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。	☐	☐	☐	☐
(8) クラスの人数は適切であった。	☐	☐	☐	☐
(9) 教室の環境は適切であった。	☐	☐	☐	☐
(10) もっと高度な内容を学びたかった。	☐	☐	☐	☐

C. その他、分野別科目の授業に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

授業評価質問票（分野別科目）

この授業評価の結果が、あなたの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。各質問に対する答えを選択肢から選び、□の中に✓印を付してください。

A. あなたの所属学部等についてお尋ねします。

- ☐ 1 教育学部
☐ 2 社会情報学部
☐ 医学部 (☐ 3 医学科 ☐ 4 保健学科)
☐ 工学部 (☐ 5 昼間コース ☐ 6 夜間主コース)

B. あなたが今学期受講した「分野別科目」の授業についてお尋ねします。

あなたが受講した分野別科目を選んで下さい（人文□ 1 社会□ 2 自然□ 3）

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
	1	2	3	4
(1) 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。	☐	☐	☐	☐
(2) 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。	☐	☐	☐	☐
(3) 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。	☐	☐	☐	☐
(4) 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。	☐	☐	☐	☐
(5) シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。	☐	☐	☐	☐
(6) 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。	☐	☐	☐	☐
(7) 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。	☐	☐	☐	☐
(8) 希望した科目を選ぶことができた。	☐	☐	☐	☐
(9) クラスの人数は適切であった。	☐	☐	☐	☐
(10) 教室の環境は適切であった。	☐	☐	☐	☐

C. その他、分野別科目の授業に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

以下のアンケートは、平成22年度の教養教育科目を履修した皆さんの、教養教育に対する評価や希望などを知り、今後の改善に活かすために実施するものです。
ご協力くださいますようお願いいたします。

大学教育センター
教育方法企画部会

「教養教育」アンケート（22年度）

以下の質問項目について、回答の選択肢の中から該当する番号を選び、右の回答欄に記入ください。

回答欄

〔1〕 所属学部

1. 教育学部 2. 社会情報学部 3. 医学部医学科 4. 医学部保健学科
5. 工学部(昼) 6. 工学部(夜)

1

〔2〕 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)について
どう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

2

〔3〕 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

3

〔4〕 事務窓口の対応や、その他の学生支援体制についてはどう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

4

〔5〕 授業を選択するときに、シラバスはよく利用しましたか。

1. 授業の内容や進度の確認などに学期中何度も見た
2. 履修届を提出するときなどには参考にした
3. ほとんど見なかった。
4. 一度も見なかった。

5

〔6〕 入学時に配付した教養教育の「授業案内」「履修手引」等は役立ちましたか。

1. 大変役に立った 2. 少し役に立った 3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった 5. 役に立たなかった

6

〔7〕 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

1. 大変満足している 2. 少し満足している 3. どちらともいえない
4. あまり満足していない 5. 満足していない

7

裏面につづく

本学の教養教育は、大きく分けて次の〔8〕－〔17〕のような10分野に分かれます。
〔8〕－〔17〕のそれぞれについて、履修してみてくださいか。選択肢を次の5つの中から選び、該当する番号を各項目の右の回答欄に記入してください。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない
4. あまり意味がなかった 5. ほとんど意味がなかった

〔8〕 学修原論

少人数形式で行う授業。

科目名は、人間と文化を理解する、現代社会と歴史を考察する、数理と自然を考察する

8

〔9〕 総合科目

広い視点から総合的テーマで行う授業。

科目名は、人間理解と多文化共生、現代社会と環境問題、科学的世界と生命・健康、国際社会と地域社会、情報社会と技術、総合科目特別講義 / 演習

9

〔10〕 情報処理

対象科目名は、情報処理入門

10

〔11〕 健康科学

対象科目名は、健康学原論、健康・スポーツ科学

11

〔12〕 語学

対象科目名は、英語

12

〔13〕 語学

対象科目名は、フランス語、ドイツ語、中国語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、韓国語

13

〔14〕 分野別科目（人文分野）

対象科目名は、哲学、倫理学、文学、心理学、歴史学、考古学、芸術

14

〔15〕 分野別科目（社会分野）

対象科目名は、法学、日本国憲法、政治学、経済学、社会学、文化人類学、地理学、教育学

15

〔16〕 分野別科目（自然分野）

対象科目名は、地球科学、生命科学、数理科学、物質科学

16

〔17〕 学部別科目

学部ごとに決めている科目で、教育学部は「こどもと世界」、「日本国憲法」、社会情報学部は「情報社会論入門」、医学部、工学部は「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」、「地学」など

17

〔18〕 本学の教養教育について希望、意見がありましたら、以下に記述ください。また、「ほとんど意味がなかった」などの回答をされた場合、その理由も記述ください。

平成 22 年度教養教育アンケート集計表

区 分	受講者数	回収数	回収率 (%)
教 育 学 部	232	219	94.4
社 会 情 報 学 部	68	60	88.2
医 学 部 医 学 科	101	87	86.1
医学部保健学科	163	145	89.0
工 学 部 (昼)	526	442	84.0
工 学 部 (夜)	34	37	108.8
不 明	0	3	
合 計	1,124	990	88.1

質問１．教養教育のカリキュラム（授業科目のメニュー、時間割、授業内容）についてどう感じましたか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		「５」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	39	17.8	117	53.4	46	21.0	16	7.3	1	0.5	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	3	5.0	35	58.3	17	28.3	5	8.3	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	6	6.9	30	34.5	25	28.7	20	23.0	6	6.9	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	14	9.7	77	53.1	38	26.2	14	9.7	2	1.4	145	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	41	9.3	230	52.0	123	27.8	36	8.1	12	2.7	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	7	18.9	18	48.6	8	21.6	0	0.0	0	0.0	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	7	0.7	110	11.1	507	51.1	257	25.9	91	9.2	21	2.1	993	100.0

*「１」：とてもよかった 「２」：まあよかった 「３」：どちらともいえない 「４」：あまりいいとはいえない 「５」：わるい

質問２．教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		「５」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	39	17.8	127	58.0	43	19.6	8	3.7	2	0.9	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	9	15.0	36	60.0	12	20.0	3	5.0	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	6	6.9	25	28.7	34	39.1	17	19.5	5	5.7	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	14	9.7	97	66.9	27	18.6	7	4.8	0	0.0	145	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	57	12.9	193	43.7	134	30.3	50	11.3	8	1.8	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	7	18.9	18	48.6	5	13.5	3	8.1	0	0.0	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	7	0.7	132	13.3	496	49.9	255	25.7	88	8.9	15	1.5	993	100.0

*「１」：とてもよかった 「２」：まあよかった 「３」：どちらともいえない 「４」：あまりいいとはいえない 「５」：わるい

質問３．事務窓口の対応や、その他の学生支援体制についてはどう感じましたか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		「５」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	44	20.1	101	46.1	50	22.8	17	7.8	7	3.2	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	10.0	25	41.7	24	40.0	3	5.0	2	3.3	60	100.0
医学部医学科	1	1.1	13	14.9	27	31.0	33	37.9	5	5.7	8	9.2	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	30	20.7	67	46.2	37	25.5	7	4.8	4	2.8	145	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	90	20.4	208	47.1	113	25.6	28	6.3	3	0.7	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	9	24.3	17	45.9	7	18.9	0	0.0	0	0.0	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	8	0.8	192	19.3	445	44.8	264	26.6	60	6.0	24	2.4	993	100.0

*「１」：とてもよかった 「２」：まあよかった 「３」：どちらともいえない 「４」：あまりいいとはいえない 「５」：わるい

質問４．授業を選択するときに、シラバスはよく利用しましたか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	16	7.3	119	54.3	54	24.7	30	13.7	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	8	13.3	36	60.0	12	20.0	4	6.7	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	5	5.7	49	56.3	27	31.0	6	6.9	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	7	4.8	94	64.8	30	20.7	14	9.7	145	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	30	6.8	236	53.4	129	29.2	47	10.6	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	2	5.4	12	32.4	14	37.8	5	13.5	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	7	0.7	68	6.8	546	55.0	266	26.8	106	10.7	993	100.0

*「１」：授業の内容や進度の確認などに学期中何度も見た 「２」：履修届を提出するときなどには参考にした
「３」：ほとんど見なかった 「４」：一度も見なかった

質問５．入学時に配布した教養教育の「授業案内」、「履修手引」等は役立ちましたか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		「５」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	117	53.4	68	31.1	19	8.7	9	4.1	6	2.7	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	32	53.3	21	35.0	5	8.3	1	1.7	1	1.7	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	27	31.0	45	51.7	10	11.5	2	2.3	3	3.4	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	81	55.9	49	33.8	10	6.9	4	2.8	1	0.7	145	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	202	45.7	181	41.0	45	10.2	11	2.5	3	0.7	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	4	10.8	17	45.9	7	18.9	5	13.5	0	0.0	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	7	0.7	463	46.6	381	38.4	96	9.7	32	3.2	14	1.4	993	100.0

*「１」：大変役に立った 「２」：少し役に立った 「３」：どちらともいえない 「４」：あまり役に立たなかった
「５」：役に立たなかった

質問６．総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

区 分	無回答		「１」		「２」		「３」		「４」		「５」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	39	17.8	109	49.8	46	21.0	14	6.4	11	5.0	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	5	8.3	38	63.3	12	20.0	4	6.7	1	1.7	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	10.3	28	32.2	27	31.0	13	14.9	10	11.5	87	100.0
医学部保健学科	0	0.0	17	11.7	89	61.4	30	20.7	7	4.8	2	1.4	145	100.0
工 学 部(昼)	1	0.2	57	12.9	190	43.0	140	31.7	44	10.0	10	2.3	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	12	32.4	12	32.4	7	18.9	2	5.4	0	0.0	37	100.0
不 明	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	8	0.8	139	14.0	466	46.9	262	26.4	84	8.5	34	3.4	993	100.0

*「１」：大変満足している 「２」：少し満足している 「３」：どちらともいえない 「４」：あまり満足していない

質問7. 学修原論、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	78	35.6	113	51.6	18	8.2	3	1.4	2	0.9	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	12	20.0	32	53.3	13	21.7	2	3.3	1	1.7	60	100.0
医学部医学科	1	1.1	17	19.5	42	48.3	17	19.5	7	8.0	3	3.4	87	100.0
医学部保健学科	2	1.4	39	26.9	77	53.1	21	14.5	5	3.4	1	0.7	145	100.0
工 学 部(昼)	10	2.3	104	23.5	227	51.4	83	18.8	16	3.6	2	0.5	442	100.0
工 学 部(夜)	3	8.1	2	5.4	20	54.1	9	24.3	1	2.7	2	5.4	37	100.0
不 明	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	21	2.1	253	25.5	513	51.7	161	16.2	34	3.4	11	1.1	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問8. 総合科目、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	66	30.1	102	46.6	40	18.3	4	1.8	2	0.9	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	11	18.3	34	56.7	13	21.7	2	3.3	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	1	1.1	16	18.4	39	44.8	20	23.0	7	8.0	4	4.6	87	100.0
医学部保健学科	1	0.7	32	22.1	82	56.6	24	16.6	5	3.4	1	0.7	145	100.0
工 学 部(昼)	9	2.0	89	20.1	234	52.9	91	20.6	19	4.3	0	0.0	442	100.0
工 学 部(夜)	3	8.1	6	16.2	17	45.9	10	27.0	0	0.0	1	2.7	37	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	19	1.9	220	22.2	510	51.4	199	20.0	37	3.7	8	0.8	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問9. 情報処理、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	46	21.0	97	44.3	49	22.4	15	6.8	7	3.2	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	8	13.3	23	38.3	23	38.3	6	10.0	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	19	21.8	39	44.8	17	19.5	9	10.3	3	3.4	87	100.0
医学部保健学科	1	0.7	36	24.8	57	39.3	42	29.0	8	5.5	1	0.7	145	100.0
工 学 部(昼)	12	2.7	89	20.1	215	48.6	100	22.6	23	5.2	3	0.7	442	100.0
工 学 部(夜)	1	2.7	9	24.3	16	43.2	5	13.5	6	16.2	0	0.0	37	100.0
不 明	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	33.3	3	100.0
合 計	19	1.9	208	20.9	448	45.1	236	23.8	67	6.7	15	1.5	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問10. 健康科学、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	4	1.8	91	41.6	84	38.4	34	15.5	4	1.8	2	0.9	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	19	31.7	28	46.7	10	16.7	2	3.3	1	1.7	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	15	17.2	48	55.2	18	20.7	4	4.6	2	2.3	87	100.0
医学部保健学科	2	1.4	61	42.1	57	39.3	18	12.4	7	4.8	0	0.0	145	100.0
工 学 部(昼)	10	2.3	143	32.4	203	45.9	64	14.5	18	4.1	4	0.9	442	100.0
工 学 部(夜)	1	2.7	7	18.9	21	56.8	6	16.2	2	5.4	0	0.0	37	100.0
不 明	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	17	1.7	338	34.0	442	44.5	150	15.1	37	3.7	9	0.9	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問11. 語学（英語）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	4	1.8	41	18.7	87	39.7	51	23.3	29	13.2	7	3.2	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	4	6.7	36	60.0	17	28.3	3	5.0	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	2	2.3	8	9.2	32	36.8	27	31.0	14	16.1	4	4.6	87	100.0
医学部保健学科	1	0.7	30	20.7	69	47.6	37	25.5	5	3.4	3	2.1	145	100.0
工 学 部(昼)	12	2.7	68	15.4	167	37.8	141	31.9	41	9.3	13	2.9	442	100.0
工 学 部(夜)	1	2.7	7	18.9	14	37.8	13	35.1	1	2.7	1	2.7	37	100.0
不 明	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	20	2.0	160	16.1	406	40.9	286	28.8	93	9.4	28	2.8	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問12. 語学（フランス語他）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	53	24.2	83	37.9	45	20.5	20	9.1	13	5.9	219	100.0
社会情報学部	2	3.3	10	16.7	32	53.3	12	20.0	4	6.7	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	3	3.4	12	13.8	38	43.7	22	25.3	8	9.2	4	4.6	87	100.0
医学部保健学科	40	27.6	12	8.3	24	16.6	60	41.4	7	4.8	2	1.4	145	100.0
工 学 部(昼)	53	12.0	65	14.7	124	28.1	146	33.0	29	6.6	25	5.7	442	100.0
工 学 部(夜)	7	18.9	4	10.8	3	8.1	14	37.8	4	10.8	5	13.5	37	100.0
不 明	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	110	11.1	157	15.8	305	30.7	300	30.2	72	7.3	49	4.9	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問13. 分野別科目（人文分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	46	21.0	111	50.7	44	20.1	10	4.6	3	1.4	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	8	13.3	31	51.7	16	26.7	5	8.3	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	11	12.6	38	43.7	25	28.7	7	8.0	6	6.9	87	100.0
医学部保健学科	2	1.4	22	15.2	65	44.8	44	30.3	12	8.3	0	0.0	145	100.0
工 学 部(昼)	15	3.4	63	14.3	167	37.8	139	31.4	41	9.3	17	3.8	442	100.0
工 学 部(夜)	7	18.9	2	5.4	7	18.9	15	40.5	3	8.1	3	8.1	37	100.0
不 明	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	29	2.9	154	15.5	420	42.3	283	28.5	78	7.9	29	2.9	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問14. 分野別科目（社会分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	45	20.5	103	47.0	53	24.2	8	3.7	5	2.3	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	10.0	29	48.3	17	28.3	8	13.3	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	8.0	28	32.2	31	35.6	10	11.5	11	12.6	87	100.0
医学部保健学科	1	0.7	18	12.4	54	37.2	51	35.2	17	11.7	4	2.8	145	100.0
工 学 部(昼)	14	3.2	47	10.6	169	38.2	135	30.5	52	11.8	25	5.7	442	100.0
工 学 部(夜)	3	8.1	4	10.8	15	40.5	11	29.7	3	8.1	1	2.7	37	100.0
不 明	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3	100.0
合 計	23	2.3	129	13.0	398	40.1	298	30.0	99	10.0	46	4.6	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問15. 分野別科目（自然分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	5	2.3	51	23.3	83	37.9	49	22.4	21	9.6	10	4.6	219	100.0
社会情報学部	0	0.0	5	8.3	18	30.0	21	35.0	13	21.7	3	5.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	9.2	39	44.8	28	32.2	8	9.2	4	4.6	87	100.0
医学部保健学科	13	9.0	19	13.1	45	31.0	59	40.7	5	3.4	4	2.8	145	100.0
工 学 部(昼)	14	3.2	95	21.5	213	48.2	103	23.3	9	2.0	8	1.8	442	100.0
工 学 部(夜)	4	10.8	5	13.5	13	35.1	12	32.4	1	2.7	2	5.4	37	100.0
不 明	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
合 計	36	3.6	184	18.5	412	41.5	273	27.5	57	5.7	31	3.1	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

質問16. 学部別科目、履修してみてもう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	4	1.8	69	31.5	105	47.9	33	15.1	5	2.3	3	1.4	219	100.0
社会情報学部	1	1.7	6	10.0	23	38.3	24	40.0	6	10.0	0	0.0	60	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	9.2	24	27.6	32	36.8	21	24.1	2	2.3	87	100.0
医学部保健学科	1	0.7	23	15.9	71	49.0	39	26.9	11	7.6	0	0.0	145	100.0
工 学 部(昼)	12	2.7	76	17.2	213	48.2	113	25.6	20	4.5	8	1.8	442	100.0
工 学 部(夜)	2	5.4	9	24.3	14	37.8	11	29.7	0	0.0	1	2.7	37	100.0
不 明	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	3	100.0
合 計	20	2.0	192	19.3	450	45.3	253	25.5	64	6.4	14	1.4	993	100.0

*「1」：とてもよかった 「2」：まあよかった 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり意味がなかった 「5」：ほとんど意味がなかった

【その他自由記述欄】

区 分	全 体		記入有り「1」		記入なし「0」	
	人	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	219	100.0	28	12.8	191	87.2
社会情報学部	60	100.0	2	3.3	58	96.7
医学部医学科	87	100.0	17	19.5	70	80.5
医学部保健学科	145	100.0	15	10.3	130	89.7
工 学 部(昼)	442	100.0	64	14.5	378	85.5
工 学 部(夜)	37	100.0	4	10.8	33	89.2
不 明	3	100.0	0	0.0	3	100.0
合 計	993	100.0	130	13.1	863	86.9

平成22年度教養教育授業評価アンケート（学生からの意見）集計表

学修原論

- 1 学修原論がとても面白かったが、もう少し募集人数が増えると嬉しいです。

情報処理

- 1 内容が稚拙だった（情報処理）高校の方がそれらしいことをしていた。
- 2 情報処理はどういう目的を持ってあの授業内容なのか？と感じた。
- 3 情報処理は何をさせたいのか目的が分からなかった。
- 4 コンピュータには弱いままだった。やっていることが難しく理解不能だった。
- 5 情報処理入門は、大学生なら誰でも知っている事ばかりなので、アカデミックライティング、シラバス、Moodle の使用方法など役立つものに限定していただきたい。
- 6 「情報処理入門」は中学や高校でやったことの繰り返しのよう思われた。そこで提案だが「ワード」や「エクセル」というソフトごとの講義をつくってみてはどうだろうか。
- 7 ほとんどの家庭でパソコンが普及されていて情報処理入門の必要性がわからなかった。

健康科学

- 1 スポーツ科学はスポーツの種類が少ない。
- 2 単に運動を行い楽しんでいるだけのように思えた。スポーツを通して学ぶべきことは何か。それを教えて欲しかった。

英 語

- 1 英語・高校より低レベル。かつ速さが無い。どんどん問題を解いたりしたかった。
- 2 後期の英語の授業は問題無かったが、前期は学生に負担を強いるばかりで解説も少なく教員の授業に対する熱意が感じられなかった。
- 3 前期・後期ともに高校での英語学習の方が能力の向上に役に立っただと感じざるを得ない内容だった。
- 4 英語は今後役立つとは思えなかった。
- 5 特に英語の授業が少ないと考える。週1回の授業に比べて、他外国語は週2回あるが高校レベルの英語力の維持にさえならないと思うから。
- 6 英語の時間が少なすぎ。
- 7 英語の授業に関しましては、選択英語の方はわかりませんが、英語1年に関しては教授の教え方が駄目でした。教材を自主学習の方が良かったです。また総合英語に関しては、授業の主旨はいいのですが、その英語で話すということを徹底して行うべきです。というより、その授業を通年やるべきだと思います。
- 8 英語のレベルが大学入試以下であってほぼ今までの習ったことの確認のようなものでしかなかった。

語学（英語以外）

- 1 フランス語は習得する意味がない。統計以外の数学も同様。
- 2 英語も満足に使えないのに、なぜ第二外国語を学ぶのか分からない。
- 3 第二外国語はただの負担でしかなかった。ならば英語を増やしていくべきだ。
- 4 語学履修しなかった。
- 5 外国語を履修していないため。

分野別科目

- 1 人文社会がつまらない。
- 2 後期の日本国憲法の講師の人の声が小さく聞きとりづらかった。
- 3 教養としてさらに幅広い分野（民俗学・超心理学）があったり、自然分野は科学に限らず多くの題材を扱うべきだと思います。
- 4 分野別も全体的に面白くて、勉強になりました。
- 5 学部別科目に関してはもっと少人数がいい。
- 6 日本国憲法（後期）は先生が変わり、全く理解できなくなった。
- 7 専門的な事が学びたいが為に大学進学を決めたのに、2年以降全く勉強しない分野別科目は時間ばかり取られて工学部の学生にとっては何故必要なのかわからない。
- 8 後期の日本国憲法はぜんぜん意味をしませんでした。先生が何を言っているのかわかりませんでした。とても悲惨な授業でした。
- 9 後期の日本国憲法は何がしたいのか分からなかった。声が聞こえない。
- 10 日本国憲法の授業が、全然意味なかった。先生の声が聞こえないし、前の方に座っても変わらなかった。
- 11 日本国憲法の授業は、先生が勝手に話して全く板書もしないため授業についていけなかった。声も小さかった。
- 12 分野別などは、単位取得する必要がなければやっていなかったと思う。
- 13 特に後期での日本国憲法は、ひどいと言いたい。
- 14 5をつけたような分野（人文、社会）は本当につまらない。
- 15 後期の日本国憲法の授業は、役に立ちませんでした。
- 16 後期の日本国憲法の先生があまり黒板も書いてくれなくて、声も小さくて分かりにくかった。

学部別科目

- 1 学部別教科について「日本国憲法」は担当教授の思想にかたよりがあって大変不快でした。
- 2 子供と世界は先生がかわっても、1回の授業ではあまり良いとは言えないので改善すべき。
- 3 数学以外の必修科目でやった内容はほとんどを高校でやった。重複する意味は何なのかが分からなかった。また化学などは単位認定がなされないため貴重な時間を無駄にしたような気がした。
- 4 「化学」前期「化学演習」後期は正直やめてもらいたい。高校の復習は苦痛だ。
- 5 講義の開始時と終了時にテストがある学部別科目で開始時に前回の講義が範囲なのは理解できるが終了時に授業の範囲を理解出来ていないのにテストが行われることに不満を感じる。講義中に理解出来ずに、家での復習で理解出来ていたのでは難しいものがあるうえに何故か終了時のテストの方が重視されているのでかなり厳しい印象を受けた。

教員の対応、教え方

- 1 授業のペースややり方が合わせず、よく理解できないまま過ぎていってしまう科目があったから
- 2 先生の声が聞こえない。
- 3 他の科目に比べ、重要度を理解することができなかった。正直なところあまり頭に入らない。
- 4 教科書自体が難しく講義も理解しにくいものをやることはやめて欲しい。
- 5 もう少し必修の授業は分かりやすくしてほしい。（特に木曜の午後機械システム）

- 6 もっと線形や微分方程式を理解した先生に習いたかった。先生が完全でなく、でも分かっているような雰囲気です。授業をされては、こちらも理解しにくい。
- 7 講師の問題、独り言なら家でやってほしい。
- 8 より難しい説明している感じがした。
- 9 講師の教え方に不満を感じた。
- 10 先生の質がよくない。何を言っているか聞こえない先生などがある。(声が小さい、かつぜつがはっきりしない)
- 11 授業中の半分が無駄話で単位を落とすことしか考えないというのはどうかと思います。
- 12 話を聞いて楽しめて、授業に意欲的に取り組むことが出来る教師もいたが中には、言っている言葉が聞き取れない、他校の友達に聞いた方分かりやすい、授業に出る意欲を失うような教師もいたのが残念だった。
- 13 ちょっと理解しづらい授業がある。
- 14 先生がただ問題を解いているだけだったから。
- 15 授業が難しくすぎて、何をしているのか分からないまま取りあえずテストで点だけとって単位をもらっているにすぎないものがある。
- 16 黒板をほとんど使わず、口答で授業をしていた。
- 17 先生の声が小さすぎて聞こえないし板書も書かないから全く意味がなかった。
- 18 字が見えない。スライドはやめて。
- 19 自己満足の講義をする講師が多いから。
- 20 授業がほとんど(というか全く)聞こえない先生に当たってしまって何も聞けなかった。
- 21 先生と生徒がお互いを意識していない。
- 22 日本史入門の講義が毎回テーマに沿って授業を全くしてくれなかった。話がとびとびで全く分からなかった。

時間割編成

- 1 毎日荒牧に来られない学部の人のことでももう少し配慮してほしい。必修授業と同じ時間で取りたい教養授業が取れなくて残念だった。
- 2 もっと時間割の自由度があってほしかった。選択と必修をもう少しかためて時間割を作ってほしかった。
- 3 抽選に外れることが多く、希望の科目があまりとれません。それでも必修の教養が多いので、大変でしたので人気科目の収容人数を増やしてほしいです。
- 4 必修科目はばらさずある程度固まってやって欲しい。毎日まんべんなくあると結構大変です。
- 5 取りたいと思う授業が取れないコマにあったり、あきコマで取りたい授業がみつからなかったりして困った。あと抽選ではずされると足りなくなりそうになったりするのでもう少し何とかしてほしい。
- 6 医学科は必修が多く時間割の組み方が限られてくるので、抽選ではずれたときに大幅にくみかえたりしなければならずちょっと大変だった。
- 7 取りたいと思った授業が被っていることが多く、空きコマになる(取れる授業が1つも無い)ことがあったので、改善してほしい。
- 8 時間割にかたよりが多くて、取りたいと思う授業がよく重なってしまったのでなるべく均等に時間割を割り振りしてほしい。
- 9 物理学実験が割り振られている時間の選択の講義が取れませんでした。時間割をもう少し考えて下さい。
- 10 授業の時間が固まりすぎていて、同じ時間に取りたい講義があり、一つしか取れな

いのが残念。

- 11 学修原論や分野別の時間割が重なりすぎていて、取りたいものが取れなかったのでもっと時間を分散してほしい。
- 12 取りたい科目が取れない。
- 13 取りたい科目がたくさんあったのに、時間がかぶりすぎて取ることができなかったところが不満に思いました。
- 14 履修したい授業が同じ時間にあったのが残念だった。もっとうまく配分した方が良く思う。
- 15 必修と、どうしても取りたいけど必修ではない教科が重なりやすかったり、同じ分野の科目が同じ時間にいくつも重なったり毎回履修を考えるのに苦労した。
- 16 教養の必修科目で1コマ目からはやめてほしいです。
- 17 1コマ目から必修科目を入れるのはやめてほしいです。実家から車で通っているため通勤ラッシュと重なり、遅刻リスクが高い。
- 18 1コマに必修はきつかった。
- 19 後期になってから、必修科目が1－2時限から入っているのが多くて通っている身としてはとても大変でした。
- 20 授業が一部取りにくい、時間割についてもう少し考えてほしい。

授業内容、成績評価

- 1 試験でなくレポートで評価を付けてもらえるとやる気が出る。
- 2 魅力的な教養教育科目があまりないように感じる。
- 3 理系の科目は文系の人にもわかるようにするため、レベルが低すぎる。全体的に、その場、その時において必要な知識をつけるだけで考える力がつくようにならない。
- 4 リベラルアーツの理念は理解できるが、もう少し科目選択に自由度があればと思う。人文・社会・自然から各2単位以上 etc、制約があると興味のある教科が受けられないことがある。
- 5 程度が低い。この水準なら60万円で海外をバックパック旅行した方がマシ。
- 6 全く興味がないものばかりで単位の為に仕方なくという感じで受けたものが多かった。
- 7 つまらなかったから
- 8 大学における専門教育を受ける前段階の学習として最適な方法で指導して頂いたと感じて、感謝しています。
- 9 それを学ぶことによって何が役に立つのか分からない。
- 10 どのあたりが「教養」なのか全く分からない。教授の専門の分野に少し触れているだけなのでは？
- 11 講義がわかりにくかったし、将来的に必要性を感じなかったから。
- 12 実際、教授が一方的に行う授業では、学生の身にならない。また、何を一番伝えたかったのか大切だったのかよくわからない授業もあり「5」の回答をした。大学に入ってレベルが落ちた点がいくつもある。
- 13 教科書を読んだだけだった。
- 14 授業に出ていない人が単位をとってしまうような制度は問題だと思う。
- 15 先生が話しているだけの授業は受けていてあまり意味がないと感じた。
- 16 内容が全く理解できなかったから。

事務窓口対応

- 1 窓口の支援体制も適当すぎておそまつ。

その他

- 1 授業の環境が悪い 妨害がある。
- 2 人数制限を止めてほしかった。
- 3 入学した時の説明が良く分からなかった。
- 4 人数制限があるのはいやです。
- 5 高校時代から文系のため物理を学習していなかったのにもかかわらず生物系の講義は抽選になり結局履修できず何のわからぬのに、物理系な講義を履修することになってしまいました。いくら一般教養とはいえ意味がないのでそのような点を改善して頂きたいです。
- 6 取りたい講義が人数制限で取れないことは良くないと思う。
- 7 抽選もれがないように、教室割りなど工夫をしてほしい。
- 8 人数が多くて抽選となることにより授業の編成に影響が出ることがあった。あまり抽選はしてほしくない。
- 9 取る講義によって人数うに偏りがあった。
- 10 教養科目は抽選があったりして希望通りの授業が取れませんでした。何とかありませんか？
- 11 履修年を「1年のみ」と決めてしまっただけでは、必修の多い一年では、取りたい科目が必修と重なってしまい取れない。
- 12 シラバスをもっと詳しく授業説明を加えて欲しい。
- 13 ここに長居するかもわからないので、身が入りにくかったというのも事実。
- 14 履修していない。
- 15 前後期連続で受ける時先生を同じ人にして欲しい。(例 線形代数学Ⅰ→線形代数学Ⅱなど)
- 16 語学は履修していなかったで学んでいません。
- 17 抽選の制度をやめてほしい。抽選にもれて、単位が取れなくなり、進級できないのは辛い。
- 18 大塚岳の授業じゃなかった。
- 19 大塚岳の講義に学生のほとんどがついていけていません。
- 20 キャンパスは全学部一つにまとめるべきだ。テストいっぱい決めるのをやめてほしい。
- 21 キャンパスが違ふのはよくない。(再履修の時にめんどくさい)
- 22 できたら教科書は学科の人数分生協においてほしい。買えなかったり注文しても今だに届いていないものもあって困っている。
- 23 前回の人数などから、人気のある講義は大きな講義室を用意するなどの対処してほしい。
- 24 解放科目がもっとあってもいいと思う。
- 25 後期をもっと充実させてほしい。
- 26 さまざまな分野の授業を受け、知識を深めることが出来て良かった。
- 27 心理学の講義を創てほしい。
- 28 広い知識を学ぶことができ満足している。
- 29 受けていないため。
- 30 5→講義を受けていない。
- 31 医学科忙しいと思う。
- 32 医学科忙しい。
- 33 選択科目の科目数が少ないと思う。(火1-2限、水5-6限において)

平成 22 年度前期授業評価（情報処理）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	229	165	72.1
情報処理入門	229	165	72.1
情 報 処 理	0	0	0.0
社会情報学部	105	100	95.2
情報処理入門	98	93	94.9
情 報 処 理	7	7	100.0
医学部医学科	102	96	94.1
情報処理入門	102	96	94.1
情 報 処 理	0	0	0.0
医学部保健学科	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
工学部昼間コース	525	503	95.8
情報処理入門	525	503	95.8
情 報 処 理	0	0	0.0
工学部夜間主コース	35	33	94.3
情報処理入門	35	33	94.3
情 報 処 理	0	0	0.0
合 計	996	897	90.1
情報処理入門	989	890	90.0
情 報 処 理	7	7	100.0

【備考】 質問に対する回答番号は、以下のとおり

「1」…あてはまる 「2」…ややあてはまる 「3」…あまりあてはまらない 「4」…あてはまらない

質問1. コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	94	57.0	63	38.2	5	3.0	3	1.8	165	100.0
情報処理入門	0	0.0	94	57.0	63	38.2	5	3.0	3	1.8	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	56	56.0	42	42.0	2	2.0	0	0.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	52	55.9	40	43.0	1	1.1	0	0.0	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	2	28.6	1	14.3	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	63	65.6	27	28.1	5	5.2	1	1.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	63	65.6	27	28.1	5	5.2	1	1.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	282	56.1	201	40.0	16	3.2	4	0.8	503	100.0
情報処理入門	0	0.0	282	56.1	201	40.0	16	3.2	4	0.8	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	24	72.7	9	27.3	0	0.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	24	72.7	9	27.3	0	0.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	519	57.9	342	38.1	28	3.1	8	0.9	897	100.0
情報処理入門	0	0.0	515	57.9	340	38.2	27	3.0	8	0.9	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	2	28.6	1	14.3	0	0.0	7	100.0

質問2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	79	47.9	68	41.2	14	8.5	4	2.4	165	100.0
情報処理入門	0	0.0	79	47.9	68	41.2	14	8.5	4	2.4	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	56	56.0	44	44.0	0	0.0	0	0.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	52	55.9	41	44.1	0	0.0	0	0.0	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	53	55.2	34	35.4	7	7.3	2	2.1	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	53	55.2	34	35.4	7	7.3	2	2.1	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	282	56.1	196	39.0	19	3.8	6	1.2	503	100.0
情報処理入門	0	0.0	282	56.1	196	39.0	19	3.8	6	1.2	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	26	78.8	6	18.2	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	26	78.8	6	18.2	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	496	55.3	348	38.8	41	4.6	12	1.3	897	100.0
情報処理入門	0	0.0	492	55.3	345	38.8	41	4.6	12	1.3	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	7	100.0

質問3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.6	75	45.5	68	41.2	19	11.5	2	1.2	165	100.0
情報処理入門	1	0.6	75	45.5	68	41.2	19	11.5	2	1.2	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	47	47.0	51	51.0	2	2.0	0	0.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	43	46.2	48	51.6	2	2.2	0	0.0	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	55	57.3	34	35.4	6	6.3	1	1.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	55	57.3	34	35.4	6	6.3	1	1.0	96	100.0
情報処理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	227	45.1	249	49.5	24	4.8	3	0.6	503	100.0
情報処理入門	0	0.0	227	45.1	249	49.5	24	4.8	3	0.6	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	14	42.4	18	54.5	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	14	42.4	18	54.5	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	1	0.1	418	46.6	420	46.8	52	5.8	6	0.7	897	100.0
情報処理入門	1	0.1	414	46.5	417	46.9	52	5.8	6	0.7	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	4	57.1	3	42.9	0	0.0	0	0.0	7	100.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	38	23.0	80	48.5	38	23.0	9	5.5	165	100.0
情報処理入門	0	0.0	38	23.0	80	48.5	38	23.0	9	5.5	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	27	27.0	47	47.0	23	23.0	3	3.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	25	26.9	44	47.3	21	22.6	3	3.2	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	3	42.9	2	28.6	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	49	51.0	25	26.0	19	19.8	3	3.1	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	49	51.0	25	26.0	19	19.8	3	3.1	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	1	0.2	182	36.2	233	46.3	78	15.5	9	1.8	503	100.0
情報処理入門	1	0.2	182	36.2	233	46.3	78	15.5	9	1.8	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	21	63.6	12	36.4	0	0.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	21	63.6	12	36.4	0	0.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	1	0.1	317	35.3	397	44.3	158	17.6	24	2.7	897	100.0
情報処理入門	1	0.1	315	35.4	394	44.3	156	17.5	24	2.7	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	3	42.9	2	28.6	0	0.0	7	100.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	1.2	49	29.7	91	55.2	17	10.3	6	3.6	165	100.0
情報処理入門	2	1.2	49	29.7	91	55.2	17	10.3	6	3.6	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	41	41.0	51	51.0	8	8.0	0	0.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	39	41.9	46	49.5	8	8.6	0	0.0	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	5	71.4	0	0.0	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	53	55.2	37	38.5	6	6.3	0	0.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	53	55.2	37	38.5	6	6.3	0	0.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	4	0.8	204	40.6	258	51.3	35	7.0	2	0.4	503	100.0
情報処理入門	4	0.8	204	40.6	258	51.3	35	7.0	2	0.4	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	18	54.5	14	42.4	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	18	54.5	14	42.4	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	6	0.7	365	40.7	451	50.3	67	7.5	8	0.9	897	100.0
情報処理入門	6	0.7	363	40.8	446	50.1	67	7.5	8	0.9	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	5	71.4	0	0.0	0	0.0	7	100.0

質問6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.6	46	27.9	71	43.0	35	21.2	12	7.3	165	100.0
情報処理入門	1	0.6	46	27.9	71	43.0	35	21.2	12	7.3	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	36	36.0	44	44.0	18	18.0	2	2.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	34	36.6	41	44.1	16	17.2	2	2.2	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	3	42.9	2	28.6	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	59	61.5	30	31.3	6	6.3	1	1.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	59	61.5	30	31.3	6	6.3	1	1.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	2	0.4	236	46.9	207	41.2	53	10.5	5	1.0	503	100.0
情報処理入門	2	0.4	236	46.9	207	41.2	53	10.5	5	1.0	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	21	63.6	11	33.3	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	21	63.6	11	33.3	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	3	0.3	398	44.4	363	40.5	113	12.6	20	2.2	897	100.0
情報処理入門	3	0.3	396	44.5	360	40.4	111	12.5	20	2.2	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	3	42.9	2	28.6	0	0.0	7	100.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	1.8	63	38.2	70	42.4	25	15.2	4	2.4	165	100.0
情報処理入門	3	1.8	63	38.2	70	42.4	25	15.2	4	2.4	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	45	45.0	44	44.0	10	10.0	1	1.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	43	46.2	40	43.0	9	9.7	1	1.1	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	4	57.1	1	14.3	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	64	66.7	31	32.3	1	1.0	0	0.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	64	66.7	31	32.3	1	1.0	0	0.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	2	0.4	216	42.9	235	46.7	42	8.3	8	1.6	503	100.0
情報処理入門	2	0.4	216	42.9	235	46.7	42	8.3	8	1.6	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	19	57.6	10	30.3	4	12.1	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	19	57.6	10	30.3	4	12.1	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	5	0.6	407	45.4	390	43.5	82	9.1	13	1.4	897	100.0
情報処理入門	5	0.6	405	45.5	386	43.4	81	9.1	13	1.5	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	4	57.1	1	14.3	0	0.0	7	100.0

質問8. クラスの人数は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.6	90	54.5	64	38.8	7	4.2	3	1.8	165	100.0
情報処理入門	1	0.6	90	54.5	64	38.8	7	4.2	3	1.8	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	52	52.0	38	38.0	9	9.0	1	1.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	50	53.8	34	36.6	8	8.6	1	1.1	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	4	57.1	1	14.3	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	70	72.9	24	25.0	2	2.1	0	0.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	70	72.9	24	25.0	2	2.1	0	0.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	1	0.2	268	53.3	196	39.0	32	6.4	6	1.2	503	100.0
情報処理入門	1	0.2	268	53.3	196	39.0	32	6.4	6	1.2	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	22	66.7	10	30.3	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	22	66.7	10	30.3	1	3.0	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	2	0.2	502	56.0	332	37.0	51	5.7	10	1.1	897	100.0
情報処理入門	2	0.2	500	56.2	328	36.9	50	5.6	10	1.1	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	2	28.6	4	57.1	1	14.3	0	0.0	7	100.0

質問9. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	86	52.1	64	38.8	9	5.5	6	3.6	165	100.0
情報処理入門	0	0.0	86	52.1	64	38.8	9	5.5	6	3.6	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	53	53.0	42	42.0	4	4.0	1	1.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	50	53.8	38	40.9	4	4.3	1	1.1	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	3	42.9	4	57.1	0	0.0	0	0.0	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	69	71.9	24	25.0	2	2.1	1	1.0	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	69	71.9	24	25.0	2	2.1	1	1.0	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	278	55.3	195	38.8	25	5.0	5	1.0	503	100.0
情報処理入門	0	0.0	278	55.3	195	38.8	25	5.0	5	1.0	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	18	54.5	12	36.4	3	9.1	0	0.0	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	18	54.5	12	36.4	3	9.1	0	0.0	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	504	56.2	337	37.6	43	4.8	13	1.4	897	100.0
情報処理入門	0	0.0	501	56.3	333	37.4	43	4.8	13	1.5	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	3	42.9	4	57.1	0	0.0	0	0.0	7	100.0

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	27	16.4	38	23.0	67	40.6	33	20.0	165	100.0
情報処理入門	0	0.0	27	16.4	38	23.0	67	40.6	33	20.0	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	6	6.0	15	15.0	46	46.0	33	33.0	100	100.0
情報処理入門	0	0.0	6	6.5	12	12.9	43	46.2	32	34.4	93	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	3	42.9	3	42.9	1	14.3	7	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	18.8	6	6.3	29	30.2	43	44.8	96	100.0
情報処理入門	0	0.0	18	18.8	6	6.3	29	30.2	43	44.8	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	70	13.9	147	29.2	201	40.0	85	16.9	503	100.0
情報処理入門	0	0.0	70	13.9	147	29.2	201	40.0	85	16.9	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	12	36.4	10	30.3	9	27.3	2	6.1	33	100.0
情報処理入門	0	0.0	12	36.4	10	30.3	9	27.3	2	6.1	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	133	14.8	216	24.1	352	39.2	196	21.9	897	100.0
情報処理入門	0	0.0	133	14.9	213	23.9	349	39.2	195	21.9	890	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	3	42.9	3	42.9	1	14.3	7	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	53	32.1	112	67.9	165	100.0
情報処理入門	53	32.1	112	67.9	165	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	13	13.0	87	87.0	100	100.0
情報処理入門	11	11.8	82	88.2	93	100.0
情 報 処 理	2	28.6	5	71.4	7	100.0
医学部医学科	54	56.3	42	43.8	96	100.0
情報処理入門	54	56.3	42	43.8	96	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	103	20.5	400	79.5	503	100.0
情報処理入門	103	20.5	400	79.5	503	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	8	24.2	25	75.8	33	100.0
情報処理入門	8	24.2	25	75.8	33	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	231	25.8	666	74.2	897	100.0
情報処理入門	229	25.7	661	74.3	890	100.0
情 報 処 理	2	28.6	5	71.4	7	100.0

平成 22 年度後期授業評価（情報処理）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
社会情報学部	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
医学部医学科	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
医学部保健学科	164	149	90.9
情報処理入門	164	149	90.9
情 報 処 理	0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0	0.0
情報処理入門	0	0	0.0
情 報 処 理	0	0	0.0
合 計	164	149	90.9
情報処理入門	164	149	90.9
情 報 処 理	0	0	0.0

質問1. コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	70	47.0	73	49.0	6	4.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	70	47.0	73	49.0	6	4.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	70	47.0	73	49.0	6	4.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	70	47.0	73	49.0	6	4.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	68	45.6	72	48.3	9	6.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	68	45.6	72	48.3	9	6.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	68	45.6	72	48.3	9	6.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	68	45.6	72	48.3	9	6.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	58	38.9	78	52.3	13	8.7	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	58	38.9	78	52.3	13	8.7	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	58	38.9	78	52.3	13	8.7	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	58	38.9	78	52.3	13	8.7	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	49	32.9	74	49.7	23	15.4	3	2.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	49	32.9	74	49.7	23	15.4	3	2.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	49	32.9	74	49.7	23	15.4	3	2.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	49	32.9	74	49.7	23	15.4	3	2.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	49	32.9	92	61.7	8	5.4	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	49	32.9	92	61.7	8	5.4	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	49	32.9	92	61.7	8	5.4	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	49	32.9	92	61.7	8	5.4	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	57	38.3	75	50.3	16	10.7	1	0.7	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	57	38.3	75	50.3	16	10.7	1	0.7	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	57	38.3	75	50.3	16	10.7	1	0.7	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	57	38.3	75	50.3	16	10.7	1	0.7	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	57	38.3	82	55.0	10	6.7	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	57	38.3	82	55.0	10	6.7	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	57	38.3	82	55.0	10	6.7	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	57	38.3	82	55.0	10	6.7	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問8. クラスの人数は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	91	61.1	55	36.9	3	2.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	91	61.1	55	36.9	3	2.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	91	61.1	55	36.9	3	2.0	0	0.0	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	91	61.1	55	36.9	3	2.0	0	0.0	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問9. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	74	49.7	62	41.6	11	7.4	2	1.3	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	74	49.7	62	41.6	11	7.4	2	1.3	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	74	49.7	62	41.6	11	7.4	2	1.3	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	74	49.7	62	41.6	11	7.4	2	1.3	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	0	0.0	6	4.0	27	18.1	78	52.3	38	25.5	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	6	4.0	27	18.1	78	52.3	38	25.5	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	0	0.0	6	4.0	27	18.1	78	52.3	38	25.5	149	100.0
情報処理入門	0	0.0	6	4.0	27	18.1	78	52.3	38	25.5	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会情報学部	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部医学科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
医学部保健学科	17	11.4	132	88.6	149	100.0
情報処理入門	17	11.4	132	88.6	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部昼間コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
工学部夜間主コース	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情報処理入門	0	0.0	0	0.0	0	0.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全 体	17	11.4	132	88.6	149	100.0
情報処理入門	17	11.4	132	88.6	149	100.0
情 報 処 理	0	0.0	0	0.0	0	0.0

平成 22 年度前期授業評価（分野別科目）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	455	343	75.4
人 文	230	168	73.0
社 会	163	125	76.7
自 然	62	50	80.6
社会情報学部	254	198	78.0
人 文	103	77	74.8
社 会	112	88	78.6
自 然	39	33	84.6
医学部医学科	322	186	57.8
人 文	114	44	38.6
社 会	109	76	69.7
自 然	99	66	66.7
医学部保健学科	492	428	87.0
人 文	237	201	84.8
社 会	200	173	86.5
自 然	55	54	98.2
工学部昼間コース	1,246	978	78.5
人 文	483	337	69.8
社 会	382	326	85.3
自 然	381	315	82.7
工学部夜間主コース	127	118	92.9
人 文	35	32	91.4
社 会	2	2	100.0
自 然	90	84	93.3
合 計	2,896	2,251	77.7
人 文	1,202	859	71.5
社 会	968	790	81.6
自 然	726	602	82.9

【備考】 質問に対する回答番号は、以下のとおり

「1」…あてはまる 「2」…ややあてはまる 「3」…あまりあてはまらない 「4」…あてはまらない

質問1. 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	107	31.2	191	55.7	39	11.4	5	1.5	343	100.0
人 文	0	0.0	60	35.7	91	54.2	16	9.5	1	0.6	168	100.0
社 会	1	0.8	29	23.2	73	58.4	20	16.0	2	1.6	125	100.0
自 然	0	0.0	18	36.0	27	54.0	3	6.0	2	4.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	66	33.3	112	56.6	18	9.1	2	1.0	198	100.0
人 文	0	0.0	22	28.6	47	61.0	8	10.4	0	0.0	77	100.0
社 会	0	0.0	37	42.0	44	50.0	6	6.8	1	1.1	88	100.0
自 然	0	0.0	7	21.2	21	63.6	4	12.1	1	3.0	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	82	44.1	81	43.5	19	10.2	4	2.2	186	100.0
人 文	0	0.0	15	34.1	24	54.5	5	11.4	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	33	43.4	33	43.4	7	9.2	3	3.9	76	100.0
自 然	0	0.0	34	51.5	24	36.4	7	10.6	1	1.5	66	100.0
医学部保健学科	1	0.2	126	29.4	260	60.7	36	8.4	5	1.2	428	100.0
人 文	1	0.5	58	28.9	127	63.2	13	6.5	2	1.0	201	100.0
社 会	0	0.0	39	22.5	110	63.6	21	12.1	3	1.7	173	100.0
自 然	0	0.0	29	53.7	23	42.6	2	3.7	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	0	0.0	325	33.2	543	55.5	90	9.2	20	2.0	978	100.0
人 文	0	0.0	105	31.2	181	53.7	40	11.9	11	3.3	337	100.0
社 会	0	0.0	96	29.4	194	59.5	27	8.3	9	2.8	326	100.0
自 然	0	0.0	124	39.4	168	53.3	23	7.3	0	0.0	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	36	30.5	61	51.7	20	16.9	1	0.8	118	100.0
人 文	0	0.0	5	15.6	22	68.8	5	15.6	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	29	34.5	39	46.4	15	17.9	1	1.2	84	100.0
全 体	2	0.1	742	33.0	1248	55.4	222	9.9	37	1.6	2251	100.0
人 文	1	0.1	265	30.8	492	57.3	87	10.1	14	1.6	859	100.0
社 会	1	0.1	236	29.9	454	57.5	81	10.3	18	2.3	790	100.0
自 然	0	0.0	241	40.0	302	50.2	54	9.0	5	0.8	602	100.0

質問2. 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	128	37.3	161	46.9	47	13.7	6	1.7	343	100.0
人 文	0	0.0	76	45.2	77	45.8	14	8.3	1	0.6	168	100.0
社 会	1	0.8	32	25.6	61	48.8	28	22.4	3	2.4	125	100.0
自 然	0	0.0	20	40.0	23	46.0	5	10.0	2	4.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	66	33.3	97	49.0	34	17.2	1	0.5	198	100.0
人 文	0	0.0	24	31.2	38	49.4	15	19.5	0	0.0	77	100.0
社 会	0	0.0	30	34.1	44	50.0	13	14.8	1	1.1	88	100.0
自 然	0	0.0	12	36.4	15	45.5	6	18.2	0	0.0	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	60	32.3	81	43.5	35	18.8	10	5.4	186	100.0
人 文	0	0.0	14	31.8	24	54.5	6	13.6	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	22	28.9	33	43.4	13	17.1	8	10.5	76	100.0
自 然	0	0.0	24	36.4	24	36.4	16	24.2	2	3.0	66	100.0
医学部保健学科	1	0.2	122	28.5	234	54.7	63	14.7	8	1.9	428	100.0
人 文	1	0.5	67	33.3	108	53.7	23	11.4	2	1.0	201	100.0
社 会	0	0.0	31	17.9	99	57.2	37	21.4	6	3.5	173	100.0
自 然	0	0.0	24	44.4	27	50.0	3	5.6	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	1	0.1	278	28.4	494	50.5	179	18.3	26	2.7	978	100.0
人 文	0	0.0	88	26.1	149	44.2	85	25.2	15	4.5	337	100.0
社 会	0	0.0	77	23.6	184	56.4	56	17.2	9	2.8	326	100.0
自 然	1	0.3	113	35.9	161	51.1	38	12.1	2	0.6	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	36	30.5	60	50.8	18	15.3	4	3.4	118	100.0
人 文	0	0.0	2	6.3	22	68.8	7	21.9	1	3.1	32	100.0
社 会	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	2	100.0
自 然	0	0.0	34	40.5	37	44.0	11	13.1	2	2.4	84	100.0
全 体	3	0.1	690	30.7	1127	50.1	376	16.7	55	2.4	2251	100.0
人 文	1	0.1	271	31.5	418	48.7	150	17.5	19	2.2	859	100.0
社 会	1	0.1	192	24.3	422	53.4	147	18.6	28	3.5	790	100.0
自 然	1	0.2	227	37.7	287	47.7	79	13.1	8	1.3	602	100.0

質問3. 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	118	34.4	162	47.2	56	16.3	6	1.7	343	100.0
人 文	0	0.0	79	47.0	73	43.5	16	9.5	0	0.0	168	100.0
社 会	1	0.8	31	24.8	61	48.8	29	23.2	3	2.4	125	100.0
自 然	0	0.0	8	16.0	28	56.0	11	22.0	3	6.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	59	29.8	100	50.5	35	17.7	4	2.0	198	100.0
人 文	0	0.0	29	37.7	31	40.3	16	20.8	1	1.3	77	100.0
社 会	0	0.0	24	27.3	50	56.8	13	14.8	1	1.1	88	100.0
自 然	0	0.0	6	18.2	19	57.6	6	18.2	2	6.1	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	67	36.0	77	41.4	36	19.4	6	3.2	186	100.0
人 文	0	0.0	17	38.6	20	45.5	7	15.9	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	25	32.9	33	43.4	16	21.1	2	2.6	76	100.0
自 然	0	0.0	25	37.9	24	36.4	13	19.7	4	6.1	66	100.0
医学部保健学科	0	0.0	154	36.0	196	45.8	71	16.6	7	1.6	428	100.0
人 文	0	0.0	105	52.2	70	34.8	25	12.4	1	0.5	201	100.0
社 会	0	0.0	36	20.8	94	54.3	38	22.0	5	2.9	173	100.0
自 然	0	0.0	13	24.1	32	59.3	8	14.8	1	1.9	54	100.0
工学部昼間コース	0	0.0	309	31.6	497	50.8	154	15.7	18	1.8	978	100.0
人 文	0	0.0	132	39.2	151	44.8	46	13.6	8	2.4	337	100.0
社 会	0	0.0	102	31.3	166	50.9	50	15.3	8	2.5	326	100.0
自 然	0	0.0	75	23.8	180	57.1	58	18.4	2	0.6	315	100.0
工学部夜間主コース	1	0.8	38	32.2	55	46.6	22	18.6	2	1.7	118	100.0
人 文	0	0.0	5	15.6	21	65.6	6	18.8	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2	100.0
自 然	1	1.2	32	38.1	34	40.5	15	17.9	2	2.4	84	100.0
全 体	2	0.1	745	33.1	1087	48.3	374	16.6	43	1.9	2251	100.0
人 文	0	0.0	367	42.7	366	42.6	116	13.5	10	1.2	859	100.0
社 会	1	0.1	219	27.7	404	51.1	147	18.6	19	2.4	790	100.0
自 然	1	0.2	159	26.4	317	52.7	111	18.4	14	2.3	602	100.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	110	32.1	152	44.3	64	18.7	16	4.7	343	100.0
人 文	0	0.0	71	42.3	66	39.3	26	15.5	5	3.0	168	100.0
社 会	1	0.8	25	20.0	57	45.6	33	26.4	9	7.2	125	100.0
自 然	0	0.0	14	28.0	29	58.0	5	10.0	2	4.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	61	30.8	90	45.5	42	21.2	5	2.5	198	100.0
人 文	0	0.0	27	35.1	32	41.6	17	22.1	1	1.3	77	100.0
社 会	0	0.0	29	33.0	41	46.6	15	17.0	3	3.4	88	100.0
自 然	0	0.0	5	15.2	17	51.5	10	30.3	1	3.0	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	72	38.7	77	41.4	27	14.5	10	5.4	186	100.0
人 文	0	0.0	13	29.5	26	59.1	3	6.8	2	4.5	44	100.0
社 会	0	0.0	27	35.5	29	38.2	15	19.7	5	6.6	76	100.0
自 然	0	0.0	32	48.5	22	33.3	9	13.6	3	4.5	66	100.0
医学部保健学科	2	0.5	132	30.8	216	50.5	67	15.7	11	2.6	428	100.0
人 文	0	0.0	75	37.3	103	51.2	21	10.4	2	1.0	201	100.0
社 会	2	1.2	34	19.7	89	51.4	40	23.1	8	4.6	173	100.0
自 然	0	0.0	23	42.6	24	44.4	6	11.1	1	1.9	54	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	301	30.8	482	49.3	153	15.6	39	4.0	978	100.0
人 文	1	0.3	104	30.9	148	43.9	63	18.7	21	6.2	337	100.0
社 会	1	0.3	93	28.5	163	50.0	55	16.9	14	4.3	326	100.0
自 然	1	0.3	104	33.0	171	54.3	35	11.1	4	1.3	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	34	28.8	53	44.9	23	19.5	8	6.8	118	100.0
人 文	0	0.0	6	18.8	17	53.1	7	21.9	2	6.3	32	100.0
社 会	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	27	32.1	35	41.7	16	19.0	6	7.1	84	100.0
全 体	6	0.3	710	31.5	1070	47.5	376	16.7	89	4.0	2251	100.0
人 文	1	0.1	296	34.5	392	45.6	137	15.9	33	3.8	859	100.0
社 会	4	0.5	209	26.5	380	48.1	158	20.0	39	4.9	790	100.0
自 然	1	0.2	205	34.1	298	49.5	81	13.5	17	2.8	602	100.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	4	1.2	96	28.0	202	58.9	38	11.1	3	0.9	343	100.0
人 文	3	1.8	42	25.0	102	60.7	21	12.5	0	0.0	168	100.0
社 会	1	0.8	40	32.0	68	54.4	14	11.2	2	1.6	125	100.0
自 然	0	0.0	14	28.0	32	64.0	3	6.0	1	2.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	63	31.8	117	59.1	18	9.1	0	0.0	198	100.0
人 文	0	0.0	26	33.8	40	51.9	11	14.3	0	0.0	77	100.0
社 会	0	0.0	30	34.1	53	60.2	5	5.7	0	0.0	88	100.0
自 然	0	0.0	7	21.2	24	72.7	2	6.1	0	0.0	33	100.0
医学部医学科	1	0.5	74	39.8	91	48.9	18	9.7	2	1.1	186	100.0
人 文	0	0.0	11	25.0	25	56.8	8	18.2	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	28	36.8	40	52.6	6	7.9	2	2.6	76	100.0
自 然	1	1.5	35	53.0	26	39.4	4	6.1	0	0.0	66	100.0
医学部保健学科	5	1.2	117	27.3	238	55.6	57	13.3	11	2.6	428	100.0
人 文	2	1.0	50	24.9	110	54.7	32	15.9	7	3.5	201	100.0
社 会	2	1.2	41	23.7	104	60.1	22	12.7	4	2.3	173	100.0
自 然	1	1.9	26	48.1	24	44.4	3	5.6	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	14	1.4	293	30.0	565	57.8	94	9.6	12	1.2	978	100.0
人 文	10	3.0	80	23.7	193	57.3	48	14.2	6	1.8	337	100.0
社 会	2	0.6	101	31.0	190	58.3	28	8.6	5	1.5	326	100.0
自 然	2	0.6	112	35.6	182	57.8	18	5.7	1	0.3	315	100.0
工学部夜間主コース	2	1.7	42	35.6	59	50.0	12	10.2	3	2.5	118	100.0
人 文	0	0.0	7	21.9	23	71.9	1	3.1	1	3.1	32	100.0
社 会	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	2	2.4	34	40.5	35	41.7	11	13.1	2	2.4	84	100.0
全 体	26	1.2	685	30.4	1272	56.5	237	10.5	31	1.4	2251	100.0
人 文	15	1.7	216	25.1	493	57.4	121	14.1	14	1.6	859	100.0
社 会	5	0.6	241	30.5	456	57.7	75	9.5	13	1.6	790	100.0
自 然	6	1.0	228	37.9	323	53.7	41	6.8	4	0.7	602	100.0

質問6. 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	126	36.7	149	43.4	49	14.3	17	5.0	343	100.0
人 文	0	0.0	69	41.1	71	42.3	24	14.3	4	2.4	168	100.0
社 会	1	0.8	35	28.0	54	43.2	23	18.4	12	9.6	125	100.0
自 然	1	2.0	22	44.0	24	48.0	2	4.0	1	2.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	59	29.8	107	54.0	26	13.1	6	3.0	198	100.0
人 文	0	0.0	22	28.6	42	54.5	10	13.0	3	3.9	77	100.0
社 会	0	0.0	30	34.1	46	52.3	10	11.4	2	2.3	88	100.0
自 然	0	0.0	7	21.2	19	57.6	6	18.2	1	3.0	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	85	45.7	69	37.1	22	11.8	10	5.4	186	100.0
人 文	0	0.0	18	40.9	21	47.7	5	11.4	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	29	38.2	28	36.8	10	13.2	9	11.8	76	100.0
自 然	0	0.0	38	57.6	20	30.3	7	10.6	1	1.5	66	100.0
医学部保健学科	2	0.5	125	29.2	233	54.4	52	12.1	16	3.7	428	100.0
人 文	1	0.5	60	29.9	113	56.2	20	10.0	7	3.5	201	100.0
社 会	1	0.6	46	26.6	90	52.0	27	15.6	9	5.2	173	100.0
自 然	0	0.0	19	35.2	30	55.6	5	9.3	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	369	37.7	437	44.7	140	14.3	30	3.1	978	100.0
人 文	0	0.0	108	32.0	134	39.8	76	22.6	19	5.6	337	100.0
社 会	2	0.6	118	36.2	149	45.7	46	14.1	11	3.4	326	100.0
自 然	0	0.0	143	45.4	154	48.9	18	5.7	0	0.0	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	43	36.4	53	44.9	19	16.1	3	2.5	118	100.0
人 文	0	0.0	10	31.3	14	43.8	8	25.0	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	32	38.1	38	45.2	11	13.1	3	3.6	84	100.0
全 体	6	0.3	807	35.9	1048	46.6	308	13.7	82	3.6	2251	100.0
人 文	1	0.1	287	33.4	395	46.0	143	16.6	33	3.8	859	100.0
社 会	4	0.5	259	32.8	368	46.6	116	14.7	43	5.4	790	100.0
自 然	1	0.2	261	43.4	285	47.3	49	8.1	6	1.0	602	100.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	112	32.7	159	46.4	58	16.9	12	3.5	343	100.0
人 文	0	0.0	60	35.7	79	47.0	24	14.3	5	3.0	168	100.0
社 会	2	1.6	33	26.4	58	46.4	27	21.6	5	4.0	125	100.0
自 然	0	0.0	19	38.0	22	44.0	7	14.0	2	4.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	59	29.8	103	52.0	31	15.7	5	2.5	198	100.0
人 文	0	0.0	28	36.4	38	49.4	6	7.8	5	6.5	77	100.0
社 会	0	0.0	25	28.4	46	52.3	17	19.3	0	0.0	88	100.0
自 然	0	0.0	6	18.2	19	57.6	8	24.2	0	0.0	33	100.0
医学部医学科	0	0.0	72	38.7	77	41.4	30	16.1	7	3.8	186	100.0
人 文	0	0.0	15	34.1	26	59.1	3	6.8	0	0.0	44	100.0
社 会	0	0.0	25	32.9	28	36.8	17	22.4	6	7.9	76	100.0
自 然	0	0.0	32	48.5	23	34.8	10	15.2	1	1.5	66	100.0
医学部保健学科	1	0.2	140	32.7	223	52.1	49	11.4	15	3.5	428	100.0
人 文	0	0.0	68	33.8	115	57.2	16	8.0	2	1.0	201	100.0
社 会	1	0.6	45	26.0	85	49.1	30	17.3	12	6.9	173	100.0
自 然	0	0.0	27	50.0	23	42.6	3	5.6	1	1.9	54	100.0
工学部昼間コース	1	0.1	351	35.9	455	46.5	139	14.2	32	3.3	978	100.0
人 文	0	0.0	121	35.9	149	44.2	52	15.4	15	4.5	337	100.0
社 会	0	0.0	108	33.1	148	45.4	55	16.9	15	4.6	326	100.0
自 然	1	0.3	122	38.7	158	50.2	32	10.2	2	0.6	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	51	43.2	50	42.4	12	10.2	5	4.2	118	100.0
人 文	0	0.0	13	40.6	15	46.9	4	12.5	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	36	42.9	35	41.7	8	9.5	5	6.0	84	100.0
全 体	4	0.2	785	34.9	1067	47.4	319	14.2	76	3.4	2251	100.0
人 文	0	0.0	305	35.5	422	49.1	105	12.2	27	3.1	859	100.0
社 会	3	0.4	238	30.1	365	46.2	146	18.5	38	4.8	790	100.0
自 然	1	0.2	242	40.2	280	46.5	68	11.3	11	1.8	602	100.0

質問8. 希望した科目を選ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	173	50.4	128	37.3	33	9.6	8	2.3	343	100.0
人 文	0	0.0	89	53.0	61	36.3	15	8.9	3	1.8	168	100.0
社 会	1	0.8	53	42.4	50	40.0	16	12.8	5	4.0	125	100.0
自 然	0	0.0	31	62.0	17	34.0	2	4.0	0	0.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	91	46.0	81	40.9	23	11.6	3	1.5	198	100.0
人 文	0	0.0	34	44.2	29	37.7	12	15.6	2	2.6	77	100.0
社 会	0	0.0	47	53.4	34	38.6	7	8.0	0	0.0	88	100.0
自 然	0	0.0	10	30.3	18	54.5	4	12.1	1	3.0	33	100.0
医学部医学科	1	0.5	102	54.8	68	36.6	14	7.5	1	0.5	186	100.0
人 文	0	0.0	24	54.5	15	34.1	5	11.4	0	0.0	44	100.0
社 会	1	1.3	37	48.7	33	43.4	5	6.6	0	0.0	76	100.0
自 然	0	0.0	41	62.1	20	30.3	4	6.1	1	1.5	66	100.0
医学部保健学科	1	0.2	201	47.0	163	38.1	45	10.5	18	4.2	428	100.0
人 文	0	0.0	101	50.2	69	34.3	24	11.9	7	3.5	201	100.0
社 会	0	0.0	66	38.2	82	47.4	16	9.2	9	5.2	173	100.0
自 然	1	1.9	34	63.0	12	22.2	5	9.3	2	3.7	54	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	490	50.1	372	38.0	84	8.6	29	3.0	978	100.0
人 文	0	0.0	166	49.3	120	35.6	38	11.3	13	3.9	337	100.0
社 会	3	0.9	141	43.3	137	42.0	31	9.5	14	4.3	326	100.0
自 然	0	0.0	183	58.1	115	36.5	15	4.8	2	0.6	315	100.0
工学部夜間主コース	1	0.8	41	34.7	44	37.3	18	15.3	14	11.9	118	100.0
人 文	0	0.0	7	21.9	15	46.9	6	18.8	4	12.5	32	100.0
社 会	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	1	1.2	32	38.1	29	34.5	12	14.3	10	11.9	84	100.0
全 体	7	0.3	1098	48.8	856	38.0	217	9.6	73	3.2	2251	100.0
人 文	0	0.0	421	49.0	309	36.0	100	11.6	29	3.4	859	100.0
社 会	5	0.6	346	43.8	336	42.5	75	9.5	28	3.5	790	100.0
自 然	2	0.3	331	55.0	211	35.0	42	7.0	16	2.7	602	100.0

質問9. クラスの人数は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	103	30.0	141	41.1	71	20.7	26	7.6	343	100.0
人 文	1	0.6	55	32.7	68	40.5	35	20.8	9	5.4	168	100.0
社 会	1	0.8	30	24.0	53	42.4	26	20.8	15	12.0	125	100.0
自 然	0	0.0	18	36.0	20	40.0	10	20.0	2	4.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	49	24.7	80	40.4	58	29.3	11	5.6	198	100.0
人 文	0	0.0	13	16.9	33	42.9	27	35.1	4	5.2	77	100.0
社 会	0	0.0	28	31.8	32	36.4	23	26.1	5	5.7	88	100.0
自 然	0	0.0	8	24.2	15	45.5	8	24.2	2	6.1	33	100.0
医学部医学科	1	0.5	52	28.0	71	38.2	44	23.7	18	9.7	186	100.0
人 文	0	0.0	9	20.5	14	31.8	20	45.5	1	2.3	44	100.0
社 会	1	1.3	19	25.0	31	40.8	14	18.4	11	14.5	76	100.0
自 然	0	0.0	24	36.4	26	39.4	10	15.2	6	9.1	66	100.0
医学部保健学科	0	0.0	148	34.6	176	41.1	85	19.9	19	4.4	428	100.0
人 文	0	0.0	67	33.3	75	37.3	51	25.4	8	4.0	201	100.0
社 会	0	0.0	51	29.5	81	46.8	30	17.3	11	6.4	173	100.0
自 然	0	0.0	30	55.6	20	37.0	4	7.4	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	1	0.1	290	29.7	388	39.7	235	24.0	64	6.5	978	100.0
人 文	0	0.0	91	27.0	134	39.8	90	26.7	22	6.5	337	100.0
社 会	0	0.0	85	26.1	139	42.6	74	22.7	28	8.6	326	100.0
自 然	1	0.3	114	36.2	115	36.5	71	22.5	14	4.4	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	58	49.2	57	48.3	3	2.5	0	0.0	118	100.0
人 文	0	0.0	13	40.6	17	53.1	2	6.3	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	43	51.2	40	47.6	1	1.2	0	0.0	84	100.0
全 体	4	0.2	700	31.1	913	40.6	496	22.0	138	6.1	2251	100.0
人 文	1	0.1	248	28.9	341	39.7	225	26.2	44	5.1	859	100.0
社 会	2	0.3	215	27.2	336	42.5	167	21.1	70	8.9	790	100.0
自 然	1	0.2	237	39.4	236	39.2	104	17.3	24	4.0	602	100.0

質問10. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	124	36.2	137	39.9	58	16.9	23	6.7	343	100.0
人 文	0	0.0	65	38.7	58	34.5	32	19.0	13	7.7	168	100.0
社 会	1	0.8	36	28.8	56	44.8	22	17.6	10	8.0	125	100.0
自 然	0	0.0	23	46.0	23	46.0	4	8.0	0	0.0	50	100.0
社会情報学部	0	0.0	57	28.8	103	52.0	28	14.1	10	5.1	198	100.0
人 文	0	0.0	16	20.8	45	58.4	12	15.6	4	5.2	77	100.0
社 会	0	0.0	30	34.1	45	51.1	10	11.4	3	3.4	88	100.0
自 然	0	0.0	11	33.3	13	39.4	6	18.2	3	9.1	33	100.0
医学部医学科	1	0.5	60	32.3	78	41.9	40	21.5	7	3.8	186	100.0
人 文	0	0.0	9	20.5	19	43.2	16	36.4	0	0.0	44	100.0
社 会	1	1.3	21	27.6	32	42.1	18	23.7	4	5.3	76	100.0
自 然	0	0.0	30	45.5	27	40.9	6	9.1	3	4.5	66	100.0
医学部保健学科	0	0.0	140	32.7	196	45.8	72	16.8	20	4.7	428	100.0
人 文	0	0.0	69	34.3	77	38.3	44	21.9	11	5.5	201	100.0
社 会	0	0.0	47	27.2	93	53.8	24	13.9	9	5.2	173	100.0
自 然	0	0.0	24	44.4	26	48.1	4	7.4	0	0.0	54	100.0
工学部昼間コース	0	0.0	330	33.7	438	44.8	167	17.1	43	4.4	978	100.0
人 文	0	0.0	102	30.3	142	42.1	73	21.7	20	5.9	337	100.0
社 会	0	0.0	112	34.4	148	45.4	48	14.7	18	5.5	326	100.0
自 然	0	0.0	116	36.8	148	47.0	46	14.6	5	1.6	315	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	69	58.5	45	38.1	4	3.4	0	0.0	118	100.0
人 文	0	0.0	13	40.6	17	53.1	2	6.3	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
自 然	0	0.0	54	64.3	28	33.3	2	2.4	0	0.0	84	100.0
全 体	2	0.1	780	34.7	997	44.3	369	16.4	103	4.6	2251	100.0
人 文	0	0.0	274	31.9	358	41.7	179	20.8	48	5.6	859	100.0
社 会	2	0.3	248	31.4	374	47.3	122	15.4	44	5.6	790	100.0
自 然	0	0.0	258	42.9	265	44.0	68	11.3	11	1.8	602	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	99	28.9	244	71.1	343	100.0
人 文	34	20.2	134	79.8	168	100.0
社 会	35	28.0	90	72.0	125	100.0
自 然	30	60.0	20	40.0	50	100.0
社会情報学部	27	13.6	171	86.4	198	100.0
人 文	13	16.9	64	83.1	77	100.0
社 会	10	11.4	78	88.6	88	100.0
自 然	4	12.1	29	87.9	33	100.0
医学部医学科	79	42.5	107	57.5	186	100.0
人 文	12	27.3	32	72.7	44	100.0
社 会	22	28.9	54	71.1	76	100.0
自 然	45	68.2	21	31.8	66	100.0
医学部保健学科	56	13.1	372	86.9	428	100.0
人 文	19	9.5	182	90.5	201	100.0
社 会	25	14.5	148	85.5	173	100.0
自 然	12	22.2	42	77.8	54	100.0
工学部昼間コース	211	21.6	767	78.4	978	100.0
人 文	61	18.1	276	81.9	337	100.0
社 会	58	17.8	268	82.2	326	100.0
自 然	92	29.2	223	70.8	315	100.0
工学部夜間主コース	30	25.4	88	74.6	118	100.0
人 文	5	15.6	27	84.4	32	100.0
社 会	1	50.0	1	50.0	2	100.0
自 然	24	28.6	60	71.4	84	100.0
全 体	502	22.3	1749	77.7	2251	100.0
人 文	144	16.8	715	83.2	859	100.0
社 会	151	19.1	639	80.9	790	100.0
自 然	207	34.4	395	65.6	602	100.0

平成 22 年度後期授業評価（分野別科目）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	557	477	85.6
人 文	158	134	84.8
社 会	180	167	92.8
自 然	219	176	80.4
社会情報学部	229	187	81.7
人 文	85	67	78.8
社 会	77	69	89.6
自 然	67	51	76.1
医学部医学科	119	82	68.9
人 文	39	32	82.1
社 会	26	15	57.7
自 然	54	35	64.8
医学部保健学科	220	176	80.0
人 文	116	99	85.3
社 会	73	54	74.0
自 然	31	23	74.2
工学部昼間コース	1,508	1,041	69.0
人 文	381	293	76.9
社 会	688	416	60.5
自 然	439	332	75.6
工学部夜間主コース	127	89	70.1
人 文	0	0	0.0
社 会	91	59	64.8
自 然	36	30	83.3
合 計	2,760	2,052	74.3
人 文	779	625	80.2
社 会	1,135	780	68.7
自 然	846	647	76.5

質問1. 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.2	158	33.1	252	52.8	59	12.4	7	1.5	477	100.0
人 文	0	0.0	51	38.1	66	49.3	14	10.4	3	2.2	134	100.0
社 会	0	0.0	50	29.9	96	57.5	20	12.0	1	0.6	167	100.0
自 然	1	0.6	57	32.4	90	51.1	25	14.2	3	1.7	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	49	26.2	117	62.6	20	10.7	1	0.5	187	100.0
人 文	0	0.0	19	28.4	40	59.7	8	11.9	0	0.0	67	100.0
社 会	0	0.0	16	23.2	44	63.8	8	11.6	1	1.4	69	100.0
自 然	0	0.0	14	27.5	33	64.7	4	7.8	0	0.0	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	45	54.9	32	39.0	4	4.9	1	1.2	82	100.0
人 文	0	0.0	15	46.9	16	50.0	1	3.1	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	6	40.0	6	40.0	2	13.3	1	6.7	15	100.0
自 然	0	0.0	24	68.6	10	28.6	1	2.9	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	1	0.6	44	25.0	108	61.4	19	10.8	4	2.3	176	100.0
人 文	1	1.0	22	22.2	59	59.6	14	14.1	3	3.0	99	100.0
社 会	0	0.0	12	22.2	36	66.7	5	9.3	1	1.9	54	100.0
自 然	0	0.0	10	43.5	13	56.5	0	0.0	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	4	0.4	340	32.7	561	53.9	98	9.4	38	3.7	1041	100.0
人 文	0	0.0	93	31.7	171	58.4	21	7.2	8	2.7	293	100.0
社 会	3	0.7	99	23.8	229	55.0	55	13.2	30	7.2	416	100.0
自 然	1	0.3	148	44.6	161	48.5	22	6.6	0	0.0	332	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	33	37.1	48	53.9	7	7.9	1	1.1	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	25	42.4	29	49.2	4	6.8	1	1.7	59	100.0
自 然	0	0.0	8	26.7	19	63.3	3	10.0	0	0.0	30	100.0
全 体	6	0.3	669	32.6	1118	54.5	207	10.1	52	2.5	2052	100.0
人 文	1	0.2	200	32.0	352	56.3	58	9.3	14	2.2	625	100.0
社 会	3	0.4	208	26.7	440	56.4	94	12.1	35	4.5	780	100.0
自 然	2	0.3	261	40.3	326	50.4	55	8.5	3	0.5	647	100.0

質問2. 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.4	166	34.8	244	51.2	61	12.8	4	0.8	477	100.0
人 文	0	0.0	55	41.0	58	43.3	20	14.9	1	0.7	134	100.0
社 会	1	0.6	50	29.9	97	58.1	18	10.8	1	0.6	167	100.0
自 然	1	0.6	61	34.7	89	50.6	23	13.1	2	1.1	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	46	24.6	97	51.9	40	21.4	4	2.1	187	100.0
人 文	0	0.0	17	25.4	32	47.8	17	25.4	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	13	18.8	37	53.6	16	23.2	3	4.3	69	100.0
自 然	0	0.0	16	31.4	28	54.9	7	13.7	0	0.0	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	32	39.0	37	45.1	13	15.9	0	0.0	82	100.0
人 文	0	0.0	9	28.1	20	62.5	3	9.4	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	5	33.3	3	20.0	7	46.7	0	0.0	15	100.0
自 然	0	0.0	18	51.4	14	40.0	3	8.6	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	48	27.3	93	52.8	27	15.3	8	4.5	176	100.0
人 文	0	0.0	24	24.2	53	53.5	17	17.2	5	5.1	99	100.0
社 会	0	0.0	14	25.9	28	51.9	10	18.5	2	3.7	54	100.0
自 然	0	0.0	10	43.5	12	52.2	0	0.0	1	4.3	23	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	293	28.1	548	52.6	156	15.0	41	3.9	1041	100.0
人 文	1	0.3	94	32.1	142	48.5	48	16.4	8	2.7	293	100.0
社 会	2	0.5	74	17.8	240	57.7	68	16.3	32	7.7	416	100.0
自 然	0	0.0	125	37.7	166	50.0	40	12.0	1	0.3	332	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	26	29.2	49	55.1	12	13.5	2	2.2	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	21	35.6	29	49.2	7	11.9	2	3.4	59	100.0
自 然	0	0.0	5	16.7	20	66.7	5	16.7	0	0.0	30	100.0
全 体	5	0.2	611	29.8	1068	52.0	309	15.1	59	2.9	2052	100.0
人 文	1	0.2	199	31.8	305	48.8	105	16.8	15	2.4	625	100.0
社 会	3	0.4	177	22.7	434	55.6	126	16.2	40	5.1	780	100.0
自 然	1	0.2	235	36.3	329	50.9	78	12.1	4	0.6	647	100.0

質問3. 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.2	137	28.7	245	51.4	85	17.8	9	1.9	477	100.0
人 文	0	0.0	45	33.6	65	48.5	22	16.4	2	1.5	134	100.0
社 会	0	0.0	46	27.5	94	56.3	25	15.0	2	1.2	167	100.0
自 然	1	0.6	46	26.1	86	48.9	38	21.6	5	2.8	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	49	26.2	103	55.1	31	16.6	4	2.1	187	100.0
人 文	0	0.0	21	31.3	33	49.3	12	17.9	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	15	21.7	38	55.1	13	18.8	3	4.3	69	100.0
自 然	0	0.0	13	25.5	32	62.7	6	11.8	0	0.0	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	39	47.6	29	35.4	14	17.1	0	0.0	82	100.0
人 文	0	0.0	13	40.6	15	46.9	4	12.5	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	6	40.0	4	26.7	5	33.3	0	0.0	15	100.0
自 然	0	0.0	20	57.1	10	28.6	5	14.3	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	56	31.8	95	54.0	22	12.5	3	1.7	176	100.0
人 文	0	0.0	32	32.3	51	51.5	14	14.1	2	2.0	99	100.0
社 会	0	0.0	16	29.6	31	57.4	6	11.1	1	1.9	54	100.0
自 然	0	0.0	8	34.8	13	56.5	2	8.7	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	358	34.4	503	48.3	148	14.2	29	2.8	1041	100.0
人 文	1	0.3	112	38.2	152	51.9	26	8.9	2	0.7	293	100.0
社 会	2	0.5	113	27.2	190	45.7	88	21.2	23	5.5	416	100.0
自 然	0	0.0	133	40.1	161	48.5	34	10.2	4	1.2	332	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	26	29.2	53	59.6	8	9.0	2	2.2	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	20	33.9	32	54.2	6	10.2	1	1.7	59	100.0
自 然	0	0.0	6	20.0	21	70.0	2	6.7	1	3.3	30	100.0
全 体	4	0.2	665	32.4	1028	50.1	308	15.0	47	2.3	2052	100.0
人 文	1	0.2	223	35.7	316	50.6	78	12.5	7	1.1	625	100.0
社 会	2	0.3	216	27.7	389	49.9	143	18.3	30	3.8	780	100.0
自 然	1	0.2	226	34.9	323	49.9	87	13.4	10	1.5	647	100.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.6	132	27.7	215	45.1	107	22.4	20	4.2	477	100.0
人 文	0	0.0	53	39.6	61	45.5	18	13.4	2	1.5	134	100.0
社 会	1	0.6	31	18.6	78	46.7	50	29.9	7	4.2	167	100.0
自 然	2	1.1	48	27.3	76	43.2	39	22.2	11	6.3	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	41	21.9	103	55.1	38	20.3	5	2.7	187	100.0
人 文	0	0.0	20	29.9	34	50.7	12	17.9	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	12	17.4	38	55.1	16	23.2	3	4.3	69	100.0
自 然	0	0.0	9	17.6	31	60.8	10	19.6	1	2.0	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	42	51.2	31	37.8	8	9.8	1	1.2	82	100.0
人 文	0	0.0	16	50.0	14	43.8	2	6.3	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	6	40.0	4	26.7	4	26.7	1	6.7	15	100.0
自 然	0	0.0	20	57.1	13	37.1	2	5.7	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	47	26.7	87	49.4	37	21.0	5	2.8	176	100.0
人 文	0	0.0	23	23.2	51	51.5	21	21.2	4	4.0	99	100.0
社 会	0	0.0	12	22.2	28	51.9	13	24.1	1	1.9	54	100.0
自 然	0	0.0	12	52.2	8	34.8	3	13.0	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	5	0.5	332	31.9	528	50.7	130	12.5	46	4.4	1041	100.0
人 文	0	0.0	110	37.5	150	51.2	28	9.6	5	1.7	293	100.0
社 会	3	0.7	91	21.9	205	49.3	78	18.8	39	9.4	416	100.0
自 然	2	0.6	131	39.5	173	52.1	24	7.2	2	0.6	332	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	34	38.2	40	44.9	12	13.5	3	3.4	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	22	37.3	28	47.5	7	11.9	2	3.4	59	100.0
自 然	0	0.0	12	40.0	12	40.0	5	16.7	1	3.3	30	100.0
全 体	8	0.4	628	30.6	1004	48.9	332	16.2	80	3.9	2052	100.0
人 文	0	0.0	222	35.5	310	49.6	81	13.0	12	1.9	625	100.0
社 会	4	0.5	174	22.3	381	48.8	168	21.5	53	6.8	780	100.0
自 然	4	0.6	232	35.9	313	48.4	83	12.8	15	2.3	647	100.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	6	1.3	146	30.6	257	53.9	60	12.6	8	1.7	477	100.0
人 文	0	0.0	53	39.6	66	49.3	14	10.4	1	0.7	134	100.0
社 会	3	1.8	39	23.4	96	57.5	26	15.6	3	1.8	167	100.0
自 然	3	1.7	54	30.7	95	54.0	20	11.4	4	2.3	176	100.0
社会情報学部	1	0.5	57	30.5	105	56.1	21	11.2	3	1.6	187	100.0
人 文	0	0.0	23	34.3	33	49.3	11	16.4	0	0.0	67	100.0
社 会	1	1.4	15	21.7	43	62.3	7	10.1	3	4.3	69	100.0
自 然	0	0.0	19	37.3	29	56.9	3	5.9	0	0.0	51	100.0
医学部医学科	1	1.2	48	58.5	25	30.5	6	7.3	2	2.4	82	100.0
人 文	1	3.1	18	56.3	10	31.3	2	6.3	1	3.1	32	100.0
社 会	0	0.0	6	40.0	6	40.0	2	13.3	1	6.7	15	100.0
自 然	0	0.0	24	68.6	9	25.7	2	5.7	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	52	29.5	105	59.7	16	9.1	3	1.7	176	100.0
人 文	0	0.0	23	23.2	64	64.6	9	9.1	3	3.0	99	100.0
社 会	0	0.0	16	29.6	32	59.3	6	11.1	0	0.0	54	100.0
自 然	0	0.0	13	56.5	9	39.1	1	4.3	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	16	1.5	347	33.3	556	53.4	99	9.5	23	2.2	1041	100.0
人 文	5	1.7	100	34.1	157	53.6	26	8.9	5	1.7	293	100.0
社 会	5	1.2	105	25.2	236	56.7	53	12.7	17	4.1	416	100.0
自 然	6	1.8	142	42.8	163	49.1	20	6.0	1	0.3	332	100.0
工学部夜間主コース	1	1.1	25	28.1	55	61.8	6	6.7	2	2.2	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	18	30.5	37	62.7	2	3.4	2	3.4	59	100.0
自 然	1	3.3	7	23.3	18	60.0	4	13.3	0	0.0	30	100.0
全 体	25	1.2	675	32.9	1103	53.8	208	10.1	41	2.0	2052	100.0
人 文	6	1.0	217	34.7	330	52.8	62	9.9	10	1.6	625	100.0
社 会	9	1.2	199	25.5	450	57.7	96	12.3	26	3.3	780	100.0
自 然	10	1.5	259	40.0	323	49.9	50	7.7	5	0.8	647	100.0

質問6. 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.6	158	33.1	226	47.4	74	15.5	16	3.4	477	100.0
人 文	0	0.0	63	47.0	57	42.5	13	9.7	1	0.7	134	100.0
社 会	1	0.6	35	21.0	80	47.9	39	23.4	12	7.2	167	100.0
自 然	2	1.1	60	34.1	89	50.6	22	12.5	3	1.7	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	47	25.1	107	57.2	30	16.0	3	1.6	187	100.0
人 文	0	0.0	18	26.9	37	55.2	12	17.9	0	0.0	67	100.0
社 会	0	0.0	16	23.2	35	50.7	15	21.7	3	4.3	69	100.0
自 然	0	0.0	13	25.5	35	68.6	3	5.9	0	0.0	51	100.0
医学部医学科	1	1.2	53	64.6	21	25.6	6	7.3	1	1.2	82	100.0
人 文	0	0.0	21	65.6	9	28.1	2	6.3	0	0.0	32	100.0
社 会	1	6.7	5	33.3	5	33.3	3	20.0	1	6.7	15	100.0
自 然	0	0.0	27	77.1	7	20.0	1	2.9	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	51	29.0	102	58.0	21	11.9	2	1.1	176	100.0
人 文	0	0.0	24	24.2	59	59.6	14	14.1	2	2.0	99	100.0
社 会	0	0.0	14	25.9	34	63.0	6	11.1	0	0.0	54	100.0
自 然	0	0.0	13	56.5	9	39.1	1	4.3	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	413	39.7	459	44.1	120	11.5	46	4.4	1041	100.0
人 文	0	0.0	136	46.4	129	44.0	28	9.6	0	0.0	293	100.0
社 会	2	0.5	116	27.9	184	44.2	68	16.3	46	11.1	416	100.0
自 然	1	0.3	161	48.5	146	44.0	24	7.2	0	0.0	332	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	36	40.4	43	48.3	7	7.9	3	3.4	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	0	0.0	26	44.1	27	45.8	4	6.8	2	3.4	59	100.0
自 然	0	0.0	10	33.3	16	53.3	3	10.0	1	3.3	30	100.0
全 体	7	0.3	758	36.9	958	46.7	258	12.6	71	3.5	2052	100.0
人 文	0	0.0	262	41.9	291	46.6	69	11.0	3	0.5	625	100.0
社 会	4	0.5	212	27.2	365	46.8	135	17.3	64	8.2	780	100.0
自 然	3	0.5	284	43.9	302	46.7	54	8.3	4	0.6	647	100.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.6	149	31.2	206	43.2	101	21.2	18	3.8	477	100.0
人 文	0	0.0	60	44.8	56	41.8	16	11.9	2	1.5	134	100.0
社 会	1	0.6	43	25.7	69	41.3	47	28.1	7	4.2	167	100.0
自 然	2	1.1	46	26.1	81	46.0	38	21.6	9	5.1	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	45	24.1	92	49.2	43	23.0	7	3.7	187	100.0
人 文	0	0.0	23	34.3	36	53.7	7	10.4	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	10	14.5	31	44.9	24	34.8	4	5.8	69	100.0
自 然	0	0.0	12	23.5	25	49.0	12	23.5	2	3.9	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	43	52.4	26	31.7	8	9.8	5	6.1	82	100.0
人 文	0	0.0	18	56.3	11	34.4	2	6.3	1	3.1	32	100.0
社 会	0	0.0	4	26.7	5	33.3	3	20.0	3	20.0	15	100.0
自 然	0	0.0	21	60.0	10	28.6	3	8.6	1	2.9	35	100.0
医学部保健学科	1	0.6	58	33.0	86	48.9	27	15.3	4	2.3	176	100.0
人 文	1	1.0	33	33.3	52	52.5	11	11.1	2	2.0	99	100.0
社 会	0	0.0	12	22.2	29	53.7	11	20.4	2	3.7	54	100.0
自 然	0	0.0	13	56.5	5	21.7	5	21.7	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	9	0.9	358	34.4	441	42.4	179	17.2	54	5.2	1041	100.0
人 文	2	0.7	142	48.5	123	42.0	25	8.5	1	0.3	293	100.0
社 会	2	0.5	91	21.9	185	44.5	93	22.4	45	10.8	416	100.0
自 然	5	1.5	125	37.7	133	40.1	61	18.4	8	2.4	332	100.0
工学部夜間主コース	1	1.1	44	49.4	36	40.4	5	5.6	3	3.4	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	1	1.7	28	47.5	24	40.7	4	6.8	2	3.4	59	100.0
自 然	0	0.0	16	53.3	12	40.0	1	3.3	1	3.3	30	100.0
全 体	14	0.7	697	34.0	887	43.2	363	17.7	91	4.4	2052	100.0
人 文	3	0.5	276	44.2	278	44.5	61	9.8	7	1.1	625	100.0
社 会	4	0.5	188	24.1	343	44.0	182	23.3	63	8.1	780	100.0
自 然	7	1.1	233	36.0	266	41.1	120	18.5	21	3.2	647	100.0

質問8. 希望した科目を選ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.6	246	51.6	147	30.8	56	11.7	25	5.2	477	100.0
人 文	0	0.0	83	61.9	34	25.4	12	9.0	5	3.7	134	100.0
社 会	2	1.2	79	47.3	61	36.5	21	12.6	4	2.4	167	100.0
自 然	1	0.6	84	47.7	52	29.5	23	13.1	16	9.1	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	84	44.9	79	42.2	20	10.7	4	2.1	187	100.0
人 文	0	0.0	30	44.8	29	43.3	7	10.4	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	33	47.8	30	43.5	5	7.2	1	1.4	69	100.0
自 然	0	0.0	21	41.2	20	39.2	8	15.7	2	3.9	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	52	63.4	22	26.8	6	7.3	2	2.4	82	100.0
人 文	0	0.0	19	59.4	8	25.0	4	12.5	1	3.1	32	100.0
社 会	0	0.0	11	73.3	3	20.0	0	0.0	1	6.7	15	100.0
自 然	0	0.0	22	62.9	11	31.4	2	5.7	0	0.0	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	72	40.9	69	39.2	24	13.6	11	6.3	176	100.0
人 文	0	0.0	35	35.4	34	34.3	22	22.2	8	8.1	99	100.0
社 会	0	0.0	20	37.0	29	53.7	2	3.7	3	5.6	54	100.0
自 然	0	0.0	17	73.9	6	26.1	0	0.0	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	5	0.5	518	49.8	425	40.8	75	7.2	18	1.7	1041	100.0
人 文	3	1.0	152	51.9	112	38.2	23	7.8	3	1.0	293	100.0
社 会	1	0.2	173	41.6	192	46.2	40	9.6	10	2.4	416	100.0
自 然	1	0.3	193	58.1	121	36.4	12	3.6	5	1.5	332	100.0
工学部夜間主コース	1	1.1	29	32.6	42	47.2	13	14.6	4	4.5	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	1	1.7	19	32.2	26	44.1	10	16.9	3	5.1	59	100.0
自 然	0	0.0	10	33.3	16	53.3	3	10.0	1	3.3	30	100.0
全 体	9	0.4	1001	48.8	784	38.2	194	9.5	64	3.1	2052	100.0
人 文	3	0.5	319	51.0	217	34.7	68	10.9	18	2.9	625	100.0
社 会	4	0.5	335	42.9	341	43.7	78	10.0	22	2.8	780	100.0
自 然	2	0.3	347	53.6	226	34.9	48	7.4	24	3.7	647	100.0

質問9. クラスの人数は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.6	181	37.9	171	35.8	98	20.5	24	5.0	477	100.0
人 文	0	0.0	55	41.0	41	30.6	35	26.1	3	2.2	134	100.0
社 会	2	1.2	46	27.5	72	43.1	35	21.0	12	7.2	167	100.0
自 然	1	0.6	80	45.5	58	33.0	28	15.9	9	5.1	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	35	18.7	95	50.8	46	24.6	11	5.9	187	100.0
人 文	0	0.0	13	19.4	28	41.8	23	34.3	3	4.5	67	100.0
社 会	0	0.0	11	15.9	37	53.6	15	21.7	6	8.7	69	100.0
自 然	0	0.0	11	21.6	30	58.8	8	15.7	2	3.9	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	31	37.8	34	41.5	16	19.5	1	1.2	82	100.0
人 文	0	0.0	11	34.4	12	37.5	9	28.1	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	4	26.7	7	46.7	4	26.7	0	0.0	15	100.0
自 然	0	0.0	16	45.7	15	42.9	3	8.6	1	2.9	35	100.0
医学部保健学科	0	0.0	52	29.5	78	44.3	40	22.7	6	3.4	176	100.0
人 文	0	0.0	25	25.3	45	45.5	26	26.3	3	3.0	99	100.0
社 会	0	0.0	13	24.1	27	50.0	11	20.4	3	5.6	54	100.0
自 然	0	0.0	14	60.9	6	26.1	3	13.0	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	4	0.4	335	32.2	430	41.3	224	21.5	48	4.6	1041	100.0
人 文	1	0.3	102	34.8	120	41.0	61	20.8	9	3.1	293	100.0
社 会	1	0.2	103	24.8	180	43.3	99	23.8	33	7.9	416	100.0
自 然	2	0.6	130	39.2	130	39.2	64	19.3	6	1.8	332	100.0
工学部夜間主コース	1	1.1	40	44.9	47	52.8	0	0.0	1	1.1	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	1	1.7	29	49.2	28	47.5	0	0.0	1	1.7	59	100.0
自 然	0	0.0	11	36.7	19	63.3	0	0.0	0	0.0	30	100.0
全 体	8	0.4	674	32.8	855	41.7	424	20.7	91	4.4	2052	100.0
人 文	1	0.2	206	33.0	246	39.4	154	24.6	18	2.9	625	100.0
社 会	4	0.5	206	26.4	351	45.0	164	21.0	55	7.1	780	100.0
自 然	3	0.5	262	40.5	258	39.9	106	16.4	18	2.8	647	100.0

質問10. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.2	188	39.4	182	38.2	83	17.4	23	4.8	477	100.0
人 文	0	0.0	59	44.0	39	29.1	29	21.6	7	5.2	134	100.0
社 会	0	0.0	49	29.3	79	47.3	29	17.4	10	6.0	167	100.0
自 然	1	0.6	80	45.5	64	36.4	25	14.2	6	3.4	176	100.0
社会情報学部	0	0.0	44	23.5	88	47.1	46	24.6	9	4.8	187	100.0
人 文	0	0.0	15	22.4	31	46.3	20	29.9	1	1.5	67	100.0
社 会	0	0.0	11	15.9	34	49.3	20	29.0	4	5.8	69	100.0
自 然	0	0.0	18	35.3	23	45.1	6	11.8	4	7.8	51	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	45.1	29	35.4	15	18.3	1	1.2	82	100.0
人 文	0	0.0	15	46.9	10	31.3	7	21.9	0	0.0	32	100.0
社 会	0	0.0	6	40.0	3	20.0	6	40.0	0	0.0	15	100.0
自 然	0	0.0	16	45.7	16	45.7	2	5.7	1	2.9	35	100.0
医学部保健学科	1	0.6	48	27.3	83	47.2	39	22.2	5	2.8	176	100.0
人 文	1	1.0	22	22.2	52	52.5	22	22.2	2	2.0	99	100.0
社 会	0	0.0	12	22.2	24	44.4	15	27.8	3	5.6	54	100.0
自 然	0	0.0	14	60.9	7	30.4	2	8.7	0	0.0	23	100.0
工学部昼間コース	5	0.5	366	35.2	440	42.3	183	17.6	47	4.5	1041	100.0
人 文	0	0.0	120	41.0	122	41.6	44	15.0	7	2.4	293	100.0
社 会	1	0.2	112	26.9	183	44.0	90	21.6	30	7.2	416	100.0
自 然	4	1.2	134	40.4	135	40.7	49	14.8	10	3.0	332	100.0
工学部夜間主コース	1	1.1	36	40.4	47	52.8	3	3.4	2	2.2	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	1	1.7	24	40.7	30	50.8	2	3.4	2	3.4	59	100.0
自 然	0	0.0	12	40.0	17	56.7	1	3.3	0	0.0	30	100.0
全 体	8	0.4	719	35.0	869	42.3	369	18.0	87	4.2	2052	100.0
人 文	1	0.2	231	37.0	254	40.6	122	19.5	17	2.7	625	100.0
社 会	2	0.3	214	27.4	353	45.3	162	20.8	49	6.3	780	100.0
自 然	5	0.8	274	42.3	262	40.5	85	13.1	21	3.2	647	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	68	14.3	409	85.7	477	100.0
人 文	10	7.5	124	92.5	134	100.0
社 会	21	12.6	146	87.4	167	100.0
自 然	37	21.0	139	79.0	176	100.0
社会情報学部	25	13.4	162	86.6	187	100.0
人 文	7	10.4	60	89.6	67	100.0
社 会	8	11.6	61	88.4	69	100.0
自 然	10	19.6	41	80.4	51	100.0
医学部医学科	23	28.0	59	72.0	82	100.0
人 文	9	28.1	23	71.9	32	100.0
社 会	7	46.7	8	53.3	15	100.0
自 然	7	20.0	28	80.0	35	100.0
医学部保健学科	22	12.5	154	87.5	176	100.0
人 文	10	10.1	89	89.9	99	100.0
社 会	11	20.4	43	79.6	54	100.0
自 然	1	4.3	22	95.7	23	100.0
工学部昼間コース	160	15.4	881	84.6	1041	100.0
人 文	31	10.6	262	89.4	293	100.0
社 会	78	18.8	338	81.3	416	100.0
自 然	51	15.4	281	84.6	332	100.0
工学部夜間主コース	13	14.6	76	85.4	89	100.0
人 文	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社 会	8	13.6	51	86.4	59	100.0
自 然	5	16.7	25	83.3	30	100.0
全 体	311	15.2	1741	84.8	2052	100.0
人 文	67	10.7	558	89.3	625	100.0
社 会	133	17.1	647	82.9	780	100.0
自 然	111	17.2	536	82.8	647	100.0

2 学生支援センター

学生支援センターは、下部組織に学生に対する学生相談・生活部会及び就職支援部会の審議機関を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援事業の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成22年度の主な支援等の事項は次のとおりである。

2.1 入学料免除及び徴収猶予

入学生について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた）により入学料の納入が困難な場合、大学院生、専攻科生については、経済的理由により入学料の納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合について、修学を支援するため、入学料免除及び徴収猶予を行っている。

2.1.1 免除申請者数，免除者数

平成22年度入学料免除申請者数，免除者数については次のとおりである。

4月1日入学：免除申請者数 68人，免除者数 56人

10月1日入学：入学料免除申請者はいなかった。

2.1.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数

平成22年度入学料徴収猶予申請者数，徴収猶予者数については次のとおりである。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 33人，徴収猶予者数 28人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 3人，徴収猶予者数 3人

2.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により授業料の納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生及び特別な事情（学資負担者が授業料納入期限の6ヶ月以内に死亡若しくは本人又は学資負担者が風水害等の災害を受けた）により授業料の納入が困難な学生について、修学を支援するため、授業料免除及び徴収猶予を行っている。

2.2.1 免除申請者数，免除者数

平成22年度授業料免除申請者数，免除者数については次のとおりである。

前期：免除申請者数 779人，免除者数 660人

後期：免除申請者数 794人，免除者数 698人

2.2.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数

平成22年度授業料徴収猶予申請者については次のとおりである。

前期：徴収猶予申請者数 2人，徴収猶予者数 1人

後期：授業料徴収猶予申請者はいなかった。

2.3 寄宿料免除

本学では、学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け、寄宿料の納入が著しく困難と認められる場合、寄宿料の免除を行っている。

2.3.1 免除申請者数、免除者数

平成22年度寄宿料免除申請者はいなかった。

2.4 奨学金

本学では、日本学生支援機構の奨学金と本学に募集依頼のあった地方公共団体や民間奨学団体の奨学金を扱っている。これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお、日本学生支援機構の奨学金には、返還時に利息がかからない第一種奨学金と年利率3%を上限とした利息がかかる第二種奨学金があり、いずれも貸与終了後には、返還が必要となる。

2.4.1 日本学生支援機構第一種奨学生数（平成22年10月1日現在）

学部生	801人（特別支援教育特別専攻科を含む。）
大学院生	262人

2.4.2 日本学生支援機構第二種奨学生数（平成22年10月1日現在）

学部生	1,163人（特別支援教育特別専攻科を含む。）
大学院生	145人

2.4.3 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成22年10月1日現在）

学部生	22人
大学院生	2人

2.5 学生相談体制及び学生相談

本学は、次のような学生相談体制を設け、学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

2.5.1 学生相談体制

全学部の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を、また、工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室を設けて相談に応じている。

2.5.2 主な相談事項

主な相談事項は、勉学・進路、メンタルヘルス、クラブ・サークル活動、経済的事情・アルバイト、友人（男女）関係についてなどである。

2.5.3 学生相談実態調査アンケートの実施及び活用

平成22年12月に講師以上の全教員に対して、平成22年4月1日から平成22年12月31日までの間にあった学生からの相談内容や各教員の対応について「学生相談アンケート」を実施し、回収率34.3%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、講師以上の全教員に配付し活用を図った。

2.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的とする。

2.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成22年度前期欠席者数：40名

主な欠席理由：朝寝坊及び気のゆるみ、病気が等

平成22年度後期欠席者数：44名

主な欠席理由：勉強意欲喪失、病気が等

2.6.2 実施方法、時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次前期は、学部の依頼により大学教育センターが指定した健康学原論とし、後期は、別紙授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・各担当事務から学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・実施時期は、6月（前期）、12月（後期）を実施基準月とする。
- ・調査対象は、3回以上欠席した者とする。
- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の要否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票から健康支援総合センター医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

2.7 障害学生への支援

聴覚障害や肢体不自由などの障害のある学生に対し、パソコンテイクや学内移動介助などの修学支援を行っている。

また、平成22年4月から、障害のある学生がその能力に応じ、群馬大学において十分な教育を受け、学生生活を送ることができるために、大学教育・学生支援機構の中に、障害学生支援室が設置された。

2.7.1 障害学生数

平成22年度に障害のある学生は、聴覚障害6名、肢体不自由（下肢）2名の計8名在籍した。

2.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生は、聴覚障害5名であった。聴覚障害学生のうち4名は、1授業につきパソコンテイク者2名の交互による修学支援を行い、1名にはノートテイクを行った。

2.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課中、学校行事中、学校施設内外における課外活動中、学校施設内にいる間、通学中、学校施設等相互間の移動に係る傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課中、学校行事中及び正課、学校行事としてのインターンシップ、介護等体験活動、教育実習、ボランティア活動等を行う際及びその往復中で、他人にけがを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では、教育研究の円滑な実施のために、入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

2.8.1 加入者数

平成22年度の学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険加入者数は、資料のとおりである。

2.8.2 請求種別保険金請求件数

平成22年度の学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数は、資料のとおりである。

2.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は、学生がJR、私鉄、バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。

学生旅客運賃割引証は、学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で、片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については、荒牧地区、昭和地区、桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機により発行している。

2.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成22年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は、資料のとおりである。

2.10 学生寮

本学には、前橋地区に養心寮、桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は、集団生活を通して社会人としての優れた人物の育成及び学生の経済的負担の軽減を図ると共に、人間形成の場として有意義な学生生活が送れるよう設けられている。

2.10.1 養心寮入寮者数

養心寮入寮者数（定員は男子77人、女子62人、合計139人、寄宿料月額4,300円）は、月平均で男子69.9人、女子61.5人、年間平均で131.4人である。

2.10.2 啓真寮入寮者数

啓真寮入寮者数（定員は男子のみで102名、寄宿料月額5,900円）は、月・年間平均22.6人である。

2.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行斡旋等を市価より安く提供している。

2.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	551席	325席	589席
営業時間	11:00～ 14:00 17:30～ 19:30	11:00～ 13:30	11:00～14:00 17:30～19:00 (H22年10月より)
年間営業日数	252日	239日	240日
年間利用者数	139,017人	53,611人	131,635人
提供メニュー数	約100	約50	約100

2.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～ 18:00	8:30～18:00 (H22年7月より) 10:00～18:00 (H22年6月まで)	9:30～18:00 (H22年10月より) 9:30～19:15 (H22年9月まで)
年間営業日数	238日	237日	242日
年間利用者数	192,585人	141,550人	211,230人

2.12 課外活動施設

本学には、各種の課外活動施設があり、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

2.12.1 体育施設

陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックで、フィールドの材質は土である。体育の授業や、陸上競技部で主として使用している。

また、トラック内側の芝生（インフィールド）も、やり投げ等の陸上種目の他、クリケット等の他のスポーツで使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、グラウンド材質は土である。サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置している。

サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルなどが主として使用している。

また、教育学部、社会情報学部の体育大会では、このサッカー・ラグビー場と体育館を主会場として使用している。

テニスコート

テニスコートは、次の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部を始め、荒牧地区、昭和地区の各テニスサークルが主として使用している。

- ・硬式専用コート3面（クレーコート）
- ・軟式専用コート3面（クレーコート）
- ・全天候型コート2面（オムニコート（人工芝））
- ・両用コート1面（クレーコート。ゴルフ練習施設併設）

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、水はけのよい人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、人気が非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、内野は土、外野は芝生で、夜間照明も設置してある。当該球場は、荒牧キャンパス、昭和キャンパス及び桐生キャンパスの各野球クラブ・サークルが日毎に交替制で使用している。

当該施設を主に使用しているクラブ・サークルは、準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウィル及び医学部準硬式野球部である。

プール

プールは、8コースの50メートルプールで、5月～8月まで使用している。水泳部が主として使用しているが、教育学部体育専攻の授業や、教養教育科目のシーズンスポーツ（野外スポーツ、カヌー）などでも使用している。

第1体育館

第1体育館は、クラブ・サークル活動や体育の授業のうち、主として球技用として使用している。バレーボール、バスケットボールなどであれば2面使用可能である。バレーボール

部、バスケットボール部などが主として使用しているほか、教育学部、社会情報学部の体育大会でもサッカー・ラグビー場と並んで主会場として使用している。

第2 体育館

第2 体育館は、主として体操競技、ダンスなどの授業、クラブ・サークル活動に使用している。当該体育館には、広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットなどがある。また、卓球部、バドミントン部なども第2 体育館を主として使用している。

武道場

武道場は、剣道などで使用している床面が1 面、柔道などで使用している畳面が1 面の計2 面があり、各種武道の授業及びクラブ・サークル活動で使用している。主として剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、レスリング部などが使用している。

弓道場

弓道場は、射場と矢取り塚とで構成される施設であり、平成22 年度に新営され、公式試合が可能となった。

馬場

馬場は、馬術部が使用している施設で、地面の表層は砂、その下が土で、最下層は小石となっている。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が常に整地して使用している。

学生が365 日馬場の部室に常駐し（授業時間及び深夜を除く）、馬に餌等を与えて馬場を管理している。なお、餌代は学生が拠出している。

2.12.2 文化施設

課外活動等で使用している主な文化施設等は次のとおりである。

ミューズホール

ミューズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

3 室の集会室があり、うち1 室は和室である。和室は主に茶道部などが使用している。

2.12.3 課外活動共用施設

課外活動共用施設は、主として文化系サークルが共同で利用している施設であり、1 階に6 部屋、2 階に6 部屋の計12 部屋がある。

音楽演奏に向く防音の効いた室が1 室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

2.12.4 合宿所

合宿所には、次の4 部屋がある。

談話室（12 畳）、1・2 号室（22 畳）、3 号室（14 畳）、4 号室（14 畳）。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

2.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

2.13.1 学生団体

平成22年度のクラブ・サークルは、資料のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

2.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

- ・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成22年11月13日（土）～14日（日）に開催した。
- ・医学祭（昭和キャンパス）は、隔年開催のため平成22年度は開催されなかった。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成22年10月15日（金）～17日（日）に開催した。

なお、桐生キャンパスの大学祭は、1年毎に群桐祭（小規模）→群桐祭（同）→工学祭（大規模）のサイクルで回っており、平成23年度は工学祭、平成24年度は群桐祭を開催する。

2.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区14大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成22年度は、平成22年8月16日（月）～8月31日（火）の日程で全17種目が開催された。会場は以下のとおり。

信州大学担当：陸上競技，バドミントン，バスケットボール，剣道，卓球，ラグビー
新潟大学担当：硬式野球，サッカー，ソフトテニス，空手道，体操，柔道，弓道，バレーボール

長岡科学技術大学担当：準硬式野球，テニス，水泳，

なお、平成23年度は東日本大震災のため中止となった。

2.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成22年度は、

- ・「飲酒による急性アルコール中毒の弊害」
- ・「大麻・麻薬等の危険性や使用禁止と弊害」
- ・「普通救命講習」

を主眼に開催した。

2.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

2.14.1 北軽井沢研修所

北軽井沢研修所は、教職員や学生等がセミナーなどで利用することを目的に昭和49年に

設置された。

その場所は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山檜2032-242に所在し、敷地面積2,497㎡、研修施設及び田辺記念館で構成される。

開所期間は、毎年5月1日から10月15日までで、研修施設は居室3室、研修室1室、炊事施設(自炊)、風呂等が完備している。収容人数は15人である。利用に際しての施設運営費は、1人1日1,000円である。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設使用料として1人1日40円が必要となる。

平成21年度北軽井沢研修所利用状況は、資料のとおりである。

2.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、学生及び教職員が起居を共にし相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することが可能である。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表(平成22年度)

区 分	(1) 地区国立大学学生・教職員	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,400円(1,900円)	1,800円(2,300円)
施 設 使 用 料	(2) の者のみが負担(毎年4月1日決定)	
食 事	朝食 460円 昼食 500円 夕食 980円	

(1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。

(2) () 内の数字は10月1日から4月30日までの運営費となる。

平成22年度利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総 数
4,168人	2,825人	6,993人

2.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を開設している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

2.15.1 進路状況及び主な就職先

平成22年度の学生の進路状況等は、資料のとおりである。

2.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

学生支援センター就職支援部会主催による就職対象学年及び低学年に向けた就職ガイダンスは、次のとおりである。

- 1) 一般企業向け就職ガイダンス・各種セミナー
(全33回, 参加延人数: 2,365人)
- 2) 公務員関係就職ガイダンス
(全6回, 参加延人数: 313人)
- 3) 1・2年生向けガイダンス
(全2回, 参加延人数: 54人)
- 4) インターンシップ関係説明会及び成果報告会
(全9回, 参加延人数: 893人)
- 5) 職務適性診断テスト等
(全6回, 参加延人数: 320人)

2.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区に1名及び桐生地区に2名、太田地区に2名のキャリアカウンセラーを配置し、面接形式によるカウンセリングを実施した。

- 1) 利用件数: 232件
- 2) 主な相談・指導内容
 - ・就職活動への指導助言
 - ・職業適性・自己分析の指導助言
 - ・エントリーシートの添削指導助言
 - ・面接試験の指導助言

2.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) キャリアサポート室に設置したコンピューターによるインターネットの利用環境の充実
- 2) 各種企業情報データの検索(求人件数: 1,197件)
- 3) 職業適性診断検査の利用(利用件数: 63件)
- 4) 就職関連書籍・ガイダンス開催ビデオの充実(貸出可)

2.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 群馬県及び(財)群馬県勤労福祉センターが前橋、高崎、桐生に設置している若者支援「ジョブカフェぐんま」との連携により「Eメール」相談等の利用促進。
- 2) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制の強化。
- 3) 本学は、県の委託事業であるインターンシップ受入企業開拓受託団体と連携し、インターンシップを推進すると共に機関、企業、施設等において学生が実務経験を積むことができる環境を整備した。
 - ・企業紹介説明会参加者: 86人
 - ・実習事前講座参加者: 72人
 - ・受入34機関に実習参加者: 69人
 - ・インターンシップ終了後の成果報告会参加者: 75人

なお、実習期間中に職員による受け入れ先訪問を行いインターンシップ充実の支援体制を整えた。

- 4) 各学部同窓会長を介して、所属会員へ就職支援に係る協力依頼を行った。

2.15.6 専門家による就職活動のための実践的支援の充実

専門家により「模擬面接の指導」、「小論文の作成技術の訓練」、「エントリーシート及び履歴書の作成技術の訓練」及び「公務員試験受験のための試験対策セミナーの開催」をした。

2.15.7 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援企業との連携により、就職支援BOOK「群大生のための就活ノウハウ集」を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

2.16 アルバイトの紹介体制の充実

学生生活を経済的に維持することが困難な学生に対し、荒牧地区はキャリアサポート室、昭和地区は昭和地区事務部学務課学事・学生支援係、桐生地区は工学部学生支援係においてアルバイト情報掲示板を設置し、学生にふさわしいアルバイト情報を紹介した。

また、学内学生アルバイト体制の整備を行った。

2.16.1 主な依頼先

キャリアサポート室（荒牧地区）での主な紹介等件数は、次のとおりである。

- ・一般のアルバイト求人数：127件
- ・塾講師求人数：100件
- ・家庭教師求人数：44件
- ・アルバイト情報掲示利用学生数 延1,363人

2.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、平成20年度に実施し、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を実施した。

なお、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し活用を図った。

2.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、学生が編集に参画して作成し、学生向け広報誌として、年1回3月に6,500部発行している。

主な掲載内容は、サークル紹介、研究室紹介、就職関係、キャンパスライフ、キャンパスマップ、大学からのお知らせ等であり、毎年テーマを変更している。

2.19 学生支援センター資料集

資料21：平成22年度入学料免除、徴収猶予実施状況

資料22：平成22年度授業料免除、徴収猶予実施状況

資料24：日本学生支援機構奨学生数（平成22年10月1日現在）

資料261：平成22年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

資料262：平成22年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

資料2-81：平成22年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料2-82：平成22年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料2-91：平成22年度通学証明書発行枚数

資料2-92：平成22年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料 2-13：平成 22 年度クラブ・サークル一覧
資料 2-14：平成 22 年度北軽井沢研修所利用状況
資料 2-15-1：平成 22 年度学部卒業生の進路状況
資料 2-15-2：平成 22 年度学部卒業生の主な就職先

平成22年度入学科免除実施状況

	免除申請者数 (人)			免除許可者数 (人)		
	4月入学	10月入学	合計	判定	4月入学	10月入学
教育学部	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
社会情報学部	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
医学部	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
医学部	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
保健学科	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
工学部	1	0	1	全額免除	1	0
				半額免除	0	0
学部の計	1	0	1	全額免除	1	0
				半額免除	0	0
工学部(夜間主)	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
教育学研究科 (修士課程)	6	0	6	全額免除	0	0
				半額免除	5	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	3	0	3	全額免除	0	0
				半額免除	2	0
社会情報学研究科	3	0	3	全額免除	0	0
				半額免除	3	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	3	0	3	全額免除	0	0
				半額免除	2	0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	8	0	8	全額免除	0	0
				半額免除	4	0
工学研究科 (博士前期課程)	34	0	34	全額免除	0	0
				半額免除	24	0
大学院修士課程の計	57	0	57	全額免除	0	0
				半額免除	40	0
医学系研究科 (医科学専攻)	1	0	1	全額免除	0	0
				半額免除	1	0
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	4	0	4	全額免除	0	0
				半額免除	4	0
工学研究科 (博士後期課程)	5	0	5	全額免除	0	0
				半額免除	4	0
大学院博士課程の計	10	0	10	全額免除	0	0
				半額免除	9	0
特殊教育特別専攻科	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
合 計	68	0	68	全額免除	1	0
				半額免除	49	0

平成22年度入学科徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)			猶予許可者数 (人)		
	4月入学	10月入学	合計	判定	4月入学	10月入学
教育学部	4	0	4	全額猶予	4	0
				半額猶予	0	0
社会情報学部	2	0	2	全額猶予	1	0
				半額猶予	0	0
医学部	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
保健学科	4	0	4	全額猶予	4	0
				半額猶予	0	0
工学部	13	0	13	全額猶予	12	0
				半額猶予	0	0
学部の計	23	0	23	全額猶予	21	0
				半額猶予	0	0
工学部(夜間主)	1	0	1	全額猶予	1	0
				半額猶予	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
工学研究科 (博士前期課程)	9	3	12	全額猶予	6	3
				半額猶予	0	0
大学院修士課程の計	9	3	12	全額猶予	6	3
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
工学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
大学院博士課程の計	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
特殊教育特別専攻科	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
合 計	33	3	36	全額猶予	28	3
				半額猶予	0	0

平成22年度授業料免除実施状況

	免除申請者数 (人)			免除許可者数 (人)		
	前期	後期	合計(延べ人数)	判定	前期	後期
教育学部	111	114	225	全額免除	22	16
				半額免除	75	85
社会情報学部	51	54	105	全額免除	10	10
				半額免除	34	40
医学部	39	37	76	全額免除	7	5
				半額免除	24	24
保健学科	113	108	221	全額免除	13	14
				半額免除	79	80
工学部	213	233	446	全額免除	52	39
				半額免除	125	157
学部の計	527	546	1073	全額免除	104	84
				半額免除	337	386
工学部(夜間主)	6	8	14	全額免除	2	1
				半額免除	3	6
教育学研究科 (修士課程)	12	10	22	全額免除	2	1
				半額免除	9	7
教育学研究科 (専門職学位課程)	4	4	8	全額免除	1	0
				半額免除	2	3
社会情報学研究科	9	10	19	全額免除	3	1
				半額免除	6	9
医学系研究科 (生命医科学専攻)	4	3	7	全額免除	0	0
				半額免除	3	3
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	12	8	20	全額免除	0	0
				半額免除	8	7
工学研究科 (博士前期課程)	146	146	292	全額免除	24	18
				半額免除	100	116
大学院修士課程の計	187	181	368	全額免除	30	20
				半額免除	128	145
医学系研究科 (医科学専攻)	29	29	58	全額免除	14	10
				半額免除	14	19
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	2	1	3	全額免除	1	0
				半額免除	1	1
工学研究科 (博士後期課程)	28	28	56	全額免除	8	5
				半額免除	18	21
大学院博士課程の計	59	58	117	全額免除	23	15
				半額免除	33	41
特殊教育特別専攻科	0	0	0	全額免除	0	0
				半額免除	0	0
合 計	779	793	1572	全額免除	159	120
				半額免除	501	578
						279
						1079

平成22年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)			猶予許可者数 (人)		
	前期	後期	合計(延べ人数)	判定	前期	後期
教育学部	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
社会情報学部	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学部	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
保健学科	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
工学部	2	0	2	全額猶予	1	0
				半額猶予	0	0
学部の計	2	0	2	全額猶予	1	0
				半額猶予	0	0
工学部(夜間主)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
工学研究科 (博士前期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
大学院修士課程の計	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
工学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
大学院博士課程の計	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
特殊教育特別専攻科	0	0	0	全額猶予	0	0
				半額猶予	0	0
合 計	2	0	2	全額猶予	1	0
				半額猶予	0	0
						1
						0

【資料2-4】

日本学生支援機構奨学生数

平成22年10月1日現在（人）

区 分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		計	
		一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種
学部	教育学部	38	42	35	34	40	51	39	40					152	167
	社会学部	12	26	16	26	22	32	16	22					66	106
	医学部	10	8	11	17	11	24	19	20	12	18	12	23	75	110
	保健学科	29	37	42	48	36	36	29	49					136	170
	工学部	95	147	84	147	85	139	93	149					357	582
計		187	267	191	280	195	289	202	286	12	18	12	23	799	1,163
															1,962

専攻科	特別支援教育特別専攻科	2	0											2	0	2
-----	-------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---

大学院	教育学研究科	4	4	6	4									10	8	18
	専門職学位課程	1	0	1	0									2	0	2
	社会学部	1	0	0	0									1	0	1
	医学系研究科	3	0	5	1									8	1	9
	博士前期課程	2	2	8	5									10	7	17
工学研究科	博士後期課程	2	1	0	0	0	0							2	1	3
	博士課程	2	1	0	0	3	0	3	0					8	1	9
	博士前期課程	110	70	97	57									207	127	334
	博士後期課程	4	0	5	0	5	0							14	0	14
	計	129	78	122	67	8	0	3	0					262	145	407

総計

2,371

平成22年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

	教育学部	社会情報学部	医学部	工学部			合計
				昼	夜	計	
1年生 対象者数	名 228	名 101	名 272	名 520	名 35	名 555	名 1,156
欠席者数	0	0	2	4	0	4	6
	0.0%	0.0%	0.7%	0.8%	0.0%	0.7%	0.5%
2年生 対象者数	226	111	285	562	31	593	1,215
欠席者数	0	2	1	4	0	4	7
	0.0%	1.8%	0.4%	0.7%	0.0%	0.7%	0.6%
3年生 対象者数	227	122	297	631	40	671	1,317
欠席者数	3	0	5	15	4	19	27
	1.3%	0.0%	1.7%	2.4%	10.0%	2.8%	2.1%
合計 対象者数	681	334	854	1,713	106	1,819	3,688
欠席者数	3	2	8	23	4	27	40
	0.4%	0.6%	0.9%	1.3%	3.8%	1.5%	1.1%

※ 学生数は、平成22年5月1日現在

※ 休学者数は現員の内数

※ 欠席者数下段は、欠席率

平成22年度 学部1～3年次生欠席状況調査結果（前期）

(1) 総表

	面接対象者	面接結果		
		面接者	問題	
			無	有
教育学部	3	3	0	0
社会情報部	2	2	0	0
医学部	8	8	0	0
(昼間コース)	23	15	0	0
(夜間主コース)	4	4	0	0
計	27	19	0	0
合計	40	32	0	0

(単位：人)

(2) 面接者内訳

	面接者内訳		
	男	女	計
教育学部	3	0	3
社会情報部	2	0	2
医学部	3	5	8
工学部	19	0	19
計	27	5	32

(単位：人)

(3) 欠席理由（提出面接票による）

	進路の迷い (変更)	他の講義 出席	授業に興味が 持てない	出欠調査 ミス	授業が 難しい	勉強意欲 喪失	朝寝坊及び 気のゆるみ	バイト・ クラブ活動	さぼり	病ケガ	勤務の 都合	理由不明	履修取り止 め及び変更	経済的理由 家庭の事情	休学・退 学・除籍	その他	計
教育学部	1				1		1										3
社会情報部			1							1							2
医学部	3		1			1				3							8
工学部(昼間コース)					1	2	4		2	3						3	15
工学部(夜間主コース)	1				1				1	1							4
合計	5	0	2	0	3	3	5	0	3	8	0	0	0	0	0	3	32

(単位：人)

備考

1. 調査対象学生数：3,688人（平成22年5月1日現在）
 2. 調査期間：5月
 3. 面接時期：6月
 4. 75%以上欠席者の率：1.1%（学生数3,688人、欠席者40人）
 5. 面接率：80.0%（面接対象者40人、面接者32人）

平成22年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

	教育学部	社会情報学部	医学部	工学部			合計
				昼	夜	計	
1年生 対象者数	名 227	名 101	名 272	名 520	名 35	名 555	名 1,155
欠席者数	4	3	0	5	1	6	13
	1.8%	3.0%	0.0%	1.0%	2.9%	1.1%	1.1%
2年生 対象者数	226	111	284	560	30	590	1,211
欠席者数	0	5	0	10	0	10	15
	0.0%	4.5%	0.0%	1.8%	0.0%	1.7%	1.2%
3年生 対象者数	227	122	297	628	40	668	1,314
欠席者数	3	0	0	12	1	13	16
	1.3%	0.0%	0.0%	1.9%	2.5%	1.9%	1.2%
合計 対象者数	680	334	853	1,708	105	1,813	3,680
欠席者数	7	8	0	27	2	29	44
	1.0%	2.4%	0.0%	1.6%	1.9%	1.6%	1.2%

※ 学生数は、平成22年11月1日現在

※ 休学者数は現員の内数

※ 欠席者数下段は、欠席率

平成22年度 学部1～3年次生欠席状況調査結果（後期）

(1) 総表

		面 接 結 果				(単位：人)
		面 接 対 象 者	面 接 者	題		
				無	有	
教 育 学 部	7	5	5	0	2	
	8	8	8	0	0	
	0	0	0	0	0	
(星間コース)	27	24	24	0	3	
工 学 部 (夜間主コース)	2	2	2	0	0	
計	29	26	26	0	3	
合 計	44	39	39	0	5	

(2) 面接者内訳

	面接者内訳			(単位：人)
	男	女	計	
教育学部	3	2	5	
社会情報部	7	1	8	
医学部	0	0	0	
工学部	25	1	26	
計	35	4	39	

(3) 欠席理由（提出面接票による）

	進路の迷い (変更)	他の講義 出席	授業に興味が 持てない	出欠調査 ミス	授業が 難しい	勉強意欲 喪失	朝寝坊及び 気のゆるみ	バイト・ クラブ活動	さぼり	病 ケ	気 分	勤務の 都合	理由不明	履修取り止 め及び変更	経済的理由 （家庭の事情）	休学・退 学・除籍	その他	計
教育学部	1					1				1						1	1	5
社会情報部			3				1	1		2							1	8
医学部																		0
工学部(星間コース)		1			1	4	3	2	2	4				1	1		5	24
工学部(夜間主コース)									1			1						2
合計	1	1	3	0	1	5	4	3	3	7		1	0	1	1	1	7	39

(単位：人)

備考

1. 調査対象学生数：3,680人（平成22年11月1日現在）
2. 調査期間：11月
3. 面接時期：12月
4. 75%以上欠席者の率：1.2%（学生数3,680人、欠席者44人）
5. 面接率：88.6%（面接対象者44人、面接者39人）

(平成23年3月31日現在)

学部

(人)

学部		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
教育学部		228	225	196	190			839
社会情報学部		90	80	111	109			390
医学部	医 学 科	96	106	96	95	15	14	422
	保 健 学 科	147	146	174	157			624
	計	243	252	270	252	15	14	1,046
工学部	昼 間 コ ー ス	480	451	507	516			1,954
	夜間主コース	28	30	28	33			119
	計	508	481	535	549			2,073
合 計		1,069	1,038	1,112	1,100	15	14	4,348

(平成22年3月31日現在)

大学院・専攻科

(人)

研究科		1年	2年	3年	4年	計
教育学研究科		40	43			83
社会情報学研究科		4	5			9
医学研究科	修 士 課 程	14	7			21
	博士前期課程	46	38			84
	博士後期課程	9	6	11		26
	博 士 課 程	41	28	26	36	131
	計	110	79	37	36	262
工学研究科	博士前期課程	299	266			565
	博士後期課程	15	22	27		64
	計	314	288	27		629
特別支援教育特別専攻科		13				13
合 計		481	415	64	36	996

資料2-8-2

平成22年度学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険						学研災 付帯賠償 責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	4	0	0	7	2	13		13
昭和地区	0	0	0	5	0	5		5
桐生地区	2	0	5	1	1	9	0	9
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	0	5	13	3	27	0	27

資料2-9-1

平成22年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
410	379	109	37	281	1	46	0	1263

資料2-9-2

平成22年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	傷病・治療	計
荒牧地区	28	888	589	814	307	127	2	2,755
昭和地区	135	2,815	335	1,637	290	140	12	5,364
桐生地区	58	1,731	1,077	666	154	172	12	3,870
太田地区	0	50	9	10	0	0	8	77
合 計	221	5,484	2,010	3,127	751	439	34	12,066

クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				カウント
	荒牧	昭和	桐生	太田	
文化部					
ボランティアサークル群大アドバンス[Advance]	○				1
EFC(子ども教育支援の会)	○				2
囲碁・将棋部		○			3
泉の会	○				4
SRC	○	○	○		5
E∞gg[えっぐ]		○			6
MMR(徒手療法研究会)		○			7
エレクトーン部		○			8
演劇部テアトル・ヒューメ	○				9
音楽研究会			○		10
気象天文研究部	○				11
教育サークル・TOSS青竹	○				12
郷土研究サークル		○			13
Guit's		○			14
クラシックギター部	○				15
GUFA			○		16
グリークラブ	○		△		17
軽音楽部		○			18
国際医療ボランティアの会(FORS)		○			19
国際交流サークルBeyond	○				20
群馬大学混声合唱団	○				21
茶道部	○				22
シネマ倶楽部		○			23
写真部(荒牧)	○		○		24
写真部(昭和)		○			25
写真部(桐生)			○		26
手話さーくる でんでんむし	○				27
GA研究会	○				28
G. K. オールスターズ			○		29
交流(ジャオリュウ)	○				30
ジャズ研究会(荒牧)	○				31
群馬大学吹奏楽団	○				32
聖書研究会	○	○	○		33
中国文化研究会		○			34
鉄道拳研究会		○			35
東洋医学研究会		○			36
美術愛好会		○			37
ピアノ部		○			38
ファンタスティッチ	○				39
フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		40
フェイタル・フレーム	○				41
フォーク・ロック愛好会	○		○		42
Fore-Bridge Orchestra (FOB)		○			43
フリークス			○		44
Voice Cream (アカペラサークル)		○			45
漫画研究部	○		○		46
マンドリン・ソサエティ	○				47

平成22年度 クラブサークル一覧

クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				カウント
	荒牧	昭和	桐生	太田	
ムジカ・ノヴァ室内合奏団		○			48
メサイア管弦楽団・合唱団	○				49
MESS		○			50
モダンジャズ研究会(医学部)		○			51
モダンジャズ研究会(工学部)			○		52
野外教育研究会	○				53
八木節同好会			○		54
野草を食べる会		○			55
夢のわたらせ なないろ号		○			56
落語・コント研究会	○				57
LEADS		○			58
ロボット部			○		59
文化部計	28	25	15	0	59
R. F. C (スノーボード)	○		○		1
合気道部	○	○	○		2
アメリカンフットボール部	○		○		3
Et's(バスケットボール)		○			4
SSC (太田地区球技)				○	5
エスケープ (硬式テニス)	○				6
カヌー(パドリング)部	○		○		7
空手道部	○		○		8
環境プロセススポーツ愛好会			○		9
弓道部	○		○		10
弓道部(医学科)		○			11
弓道部(保健学科)		○			12
球遊会(バレーボール)		○			13
競技スキー部(医学部)		○			14
クリケット部	○				15
群馬CRAFT (サッカー・フットサル)	○				16
剣道部	○	○	○		17
剣道部(医学部)		○			18
Get's(サッカー)		○			19
硬式テニス部	○		○		20
硬式テニス部(医学部)		○			21
硬式野球部	○				22
ゴルフ部(医学部)		○			23
サイクリング部	○		○		24
South All Stars	○		○		25
サッカー部(全学)	○				26
サッカー部(医学部)		○			27
少林寺拳法部	○		○		28
自動車部			○		29
柔道部(荒牧)	○				30
柔道部(医学)		○			31
柔道部(工学)			○		32
準硬式野球部	○				33
準硬式野球部(医学部)		○			34

平成22年度 クラブサークル一覧

クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				カウント
	荒牧	昭和	桐生	太田	
水泳部	○	○	○		35
全学スキー部	○		○		36
Seven Stars (フットサル)	○				37
ソフトテニスサークルRough	○	○	○		38
ソフトテニス部	○				39
ソフトテニス部(医学部)		○			40
体操部	○				41
卓球部	○		○		42
卓球部(医学部)		○			43
ダンス部	○		○		44
チキチータ荒牧(サッカーサークル)	○				45
ツバサFCコーチングスタッフ	○				46
てまきねこ(フットサル)	○		○		47
トレッキングサークル		○			48
軟式野球サークル アウィル	○				49
ハチヨン会			○		50
ハンドボール部	○				51
Ricer care (バイク部)		○	○		52
馬術部	○				53
馬術部(医学部)		○			54
バスケットボール部	○				55
バスケットボール部(医学部)		○			56
バスケットボール部(工学部)			○		57
バドミントン部	○		○		58
バドミントン部(医学部)		○			59
バレーボール部(全学)	○				60
バレーボール部(医学部)		○			61
B-STYLE	○		○		62
Vit'z(ダブルダッチ)		○			63
ビリヤード		○			64
ファーストブレイク(バスケットボールサークル)	○				65
V. B. C. 桐生(バレーボール)			○		66
保健バレーボール部		○			67
POTIPOTENT(ホチホテント)		○			68
メモリアルテニス部	○				69
夜間バスケ			○		70
ラグビー部(医学部)		○			71
全学ラグビー部	○		○		72
陸上競技部(医学部)		○			73
陸上競技部	○		○		74
レスリング部	○				75
Let's Met's		○			76
ONE WAY	○				77
ワンダーフォーゲル部	○				78
運動部計	43	31	29	1	78
総計	71	56	44	1	137

資料2-14

平成22年度北軽井沢研修所利用状況

(人)

使用月	群馬大学			その他の大学			一般	利用者計	利用者延べ人数
	教員	職員	学生	教員	職員	学生			
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	4	2	19	2	0	8	2	37	37
8月	8	0	35	2	1	2	18	66	148
9月	5	0	54	0	0	0	0	59	118
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	2	108	4	1	10	20	162	303

平成22年度学部卒業生の進路状況(9月卒業を含む)

H22卒 平成23年5月1日現在

学 部 区 分	卒 業 年 度	卒 業 者 数 (A)	進 学 者 数				就 職 者 数										就 職 活 動 中	そ の 他 (D)	就 職 率 (E) E=C/(A+B-D) ×100				
			大 学 院 ・ 専 攻 科	他 大 学 学 部 等	研 究 生 等	各 種 専 修 学 校 等	留 学	計 (B)	業 種 別 内 訳											計 (C)			
									教 員						医 療 機 関	一 般 企 業					公 務 員	自 営 業	法 左 欄 以 外 等 の
									幼	小	中	高	特 別 支 援	そ の 他									
教育学部	H22	231	34					34	2	73	36	12	8		2	9	18	8	168	10	19	94.4	
	H22	119	7					7						1	67	18	3	89	12	11	88.1		
社会情報学部	H22	102						0						89					89		13	100.0	
	H22	181	19					19						133	8	12	0	3	156	1	5	99.4	
医学部	H22	549	344				3	347						2	142	29	4	1	178	14	10	92.7	
	H22	49	5					5							33	4			37	6	1	86.0	
工学部	H21	1,231	409	0	0	3	0	412	2	73	36	12	8	0	227	259	81	4	717	43	59	94.3	

① その他(D)欄は、留学生の帰国、各種試験準備者、家事従事、不明である。

平成22年度学部卒業生の主な就職先

【教育学部】

■学校教育

〈公立小学校〉

足利市	安中市	太田市	大泉町	上里町	川崎市	草津町	伊勢崎市	柏市
久喜市	熊谷市	渋川市	高崎市	館林市	桐生市	中之条町	さいたま市	
深谷市	藤岡市	前橋市	吉岡町					

〈公立中学校〉

安中市	伊勢崎市	邑楽町	太田市	高崎市	渋川市	沼田市	榛東村	前橋市
富岡市	みどり市							

〈公立特別支援学校〉

群馬県	埼玉県
桐生市	

〈公立高等学校〉

群馬県	埼玉県
安中市	太田市
	桐生市

〈私立学校法人〉

学校法人 関東学園

■公務

群馬県(学校事務)	群馬県警察	
安中市役所	高崎市役所	太田市役所
伊勢崎市役所	坂戸市役所	長野原町役場
岩舟町役場	水戸市役所	前橋市役所
吉岡町役場	館林地区消防組合	太田市(消防)

■医療業

光病院	佐久総合病院
-----	--------

■その他法人等

社会福祉法人 東光虹の家	社会福祉法人 訪問の家	財団法人 前橋YMCA
国立大学法人群馬大学		

■企業

(株)JOMOプロ関東	上越印刷工業(株)	(株)チャーム
ギャラリー長谷川	(株)スパン	(株)ユー・コーポレーション
(株)群馬銀行		

【社会情報学部】

■国家公務

航空自衛隊

■地方公務

群馬県(学校事務)	群馬県警	埼玉県警
群馬県警察(事務)		
安中市役所	渋川市役所	富岡市役所
大泉町役場	高崎市役所	野木町役場
古河市役所	館林市役所	前橋市役所
高崎市(消防)		

■医療業

黒澤病院

■企業

(株)USEN	(株)シー・アイ・シー	東日本旅客鉄道(株)
(株)JOMOプロ関東	(株)ジュピターテレコム	(株)日立ソリューションズ
旭化成商事(株)	(株)心水出版(心水塾)	ファームドウ(株)
(株)足利銀行	(株)シンドバッド・インターナショナル	富士エン지니어リング(株)
(株)安藤	総合警備保障(株)	(株)フレッセイ
宇都宮農業協同組合	(株)損保ジャパン	ホテル木暮
岡藤商事(株)	第一生命(株)	(株)マツモトキヨシ
(株)カインズホーム	(株)高崎共同計算センター	松本信用金庫
(株)カワチ薬品	(株)ダスキ	マルホ(株)
北群渋川農業協同組合	(株)地域新聞社	三国コカ・コーラボトリング(株)
(株)キュービスト	銚子商工信用組合	三井住友海上きらめき生命保険(株)
(株)群馬銀行	(株)データ総研	みよの台薬局グループ
群馬県農業共済組合	東京海上日動火災保険(株)	郵便局(株)
群馬セキスイハイム(株)	(株)東和銀行	(有)ワカイカメラ
群馬トヨタ自動車(株)	(有)富田総合保険プランナーズ	(株)ライムメンバーズ
河本工業(株)	日本ワイパブレード(株)	リサーチ・アンド・デベロプメント(株)
(有)がんば	(株)野村證券	(株)ロボット
しののめ信用金庫	(株)パスコ	(株)ロン都
上海頂貿易有限公司		

【医学部 医学科】

■医療業

JR東京総合病院	国際医療福祉大学附属三田病院	東京医科歯科大学医学部附属病院
伊勢崎市民病院	国立病院機構埼玉病院	東京慈恵会医科大学附属柏病院
稲城市立病院	国立病院機構高崎総合医療センター	東京大学医学部附属病院
医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院	埼玉協同病院	東京都立大塚病院
医療法人近森会 近森病院	さいたま赤十字病院	東名厚木病院
磐田市立総合病院	財団法人老年病研究所附属病院	鳥取大学医学部附属病院
沖縄県立中部病院	静岡県立総合病院	長野県厚生連長野松代総合病院
川崎協同病院	静岡市立静岡病院	新潟勤労者医療協会 下越病院
関東労災病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	福井県立病院
群馬大学医学部附属病院	自治医科大学附属病院	碧南市民病院
社会保険県群馬中央総合病院	聖路加国際病院	前橋協立病院
慶應義塾大学病院	総合病院土浦協同病院	前橋赤十字病院
神戸大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	三井記念病院
公立富岡総合病院	筑波大学附属病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
東北公済病院		

【医学部 保健学科 看護学専攻】

■公務

宇都宮市	三芳町	前橋市
鹿沼市	高崎市	吉岡町
明和町	館林市	

■医療業

杏林大学医学部附属病院	埼玉県立小児医療センター	成田赤十字病院
桐生厚生総合病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
群馬県立小児医療センター	社会保険群馬中央総合病院	日立製作所ひたちなか総合病院
群馬県立病院	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	前橋協立病院
群馬大学医学部附属病院	湘南鎌倉総合病院	前橋赤十字病院
国立国際医療センター	東京医科歯科大学医学部附属病院	美原記念病院
国立成育医療センター	東京医科歯科大学附属病院	武蔵野赤十字病院
埼玉医科大学附属病院	獨協医科大学病院	横浜市立大学附属病院

【医学部 保健学科 検査技術科学専攻】

■公務

群馬県

■医療業

(財)東日本労働衛生センター	群馬大学大学附属病院・病理	東京大学医学部附属病院
出雲中央クリニック	群馬中央総合病院	長野赤十字病院
岩手医科大学附属病院	公立富岡総合病院	フェニックス・メディカル・クリニック
角田病院	国際医療福祉大学病院	深谷赤十字病院
北関東循環器病院	古作クリニック	前橋日赤病院
キャリアアップ実務研修生(がんセンター)	高瀬クリニック	横田マタニティ・ホスピタル
黒沢病院附属ヘルスパーククリニック	中央群馬脳神経外科病院	

■学校教育

慶應義塾大学医学部法医学教室

■企業

(株)BML	(株)エシック	小林製薬(株)
(株)アロカ	(株)日立メディコ	

【医学部 保健学科 理学療法学専攻】

■公務

前橋市

■医療業

前橋協立病院	公立七日市病院	前橋協立病院
医療法人社団日高会	公立藤岡総合病院	みどり病院
上武呼吸器内科病院	(財)老年病研究所附属病院	みゆき会病院
亀田メディカルセンター	聖隷福祉事業団	わかば病院
桐生厚生総合病院	長野松代総合病院	慶友整形外科病院
群馬大学医学部附属病院	榛名荘病院	上尾中央医科グループ
公立七日市病院	東前橋整形外科	

■その他法人等

一般社団法人群馬県理学療法士会

■企業

(株)ワールドステイ

【医学部 保健学科 作業療法学専攻】

■公務

山形県

■医療業

荒木脳神経外科病院
市立御前崎総合病院
宇都宮社会保険病院
大宮共立病院
行田総合病院
公立七日市病院

国立病院機構仙台医療センター
(財)老年病研究所附属病院
佐久総合病院
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
社会福祉法人明清会
千曲中央病院

鶴巻温泉病院
日高病院
松村総合病院
美原記念病院
指扇病院
温泉研究所附属沢渡病院

【工学部】

〔昼間コース〕

■国家公務

自衛隊

■地方公務

群馬県

東京都

静岡県

栃木県

群馬県警察官

警視庁

栃木県警

伊勢崎市

太田市

渋川市

富岡市

高崎市

藤岡市

前橋市

横浜市

〔夜間主コース〕

■地方公務

佐野市

富士市

矢祭町

群馬県警

【工学部 応用化学・生物化学科】

■学術研究

江東微生物研究所

■学校教育

高崎東高等学校

■企業

JA北群渋川

三友電子工業(株)

日本カーリット(株)

赤城食品(株)

(株)三光マーケティングフーズ

日本化成(株)

曙ブレーキ工業(株)

静岡ターミナルホテル(株)

日本電産コパル(株)

旭化成(株)

(株)親和銀行

日立化成テクノサービス(株)

アルケア(株)

科研製薬(株)

平岡織染(株)

(株)アプリケーションプランニング

御殿場高原ビール(株)

福井県信用農業協同組合連合会

イチカワ(株)

昭和電工(株)

(株)フードケミファ

(株)イノメディックス

大日本印刷(株)

(株)フレッセイ

(株)エイ・イー・エス

高田薬品(株)

(株)ペリテック

岡田内科

東邦工業(株)

ポーライト(株)

(株)カインズ

東毛酪農協同組合

町田食品(株)

(株)サイサン

(株)ヨーユーラボ

三菱自動車工業(株)

坂本工業(株)

東洋水産(株)

【工学部 機械システム工学科】

〔昼間コース〕

NTN(株)

キャノンコンポーネンツ(株)

東邦工業(株)

SMC(株)

協立機興(株)

日本飛行機(株)

THK(株)

グンダイ(株)

東日本旅客鉄道(株)

曙ブレーキ工業(株)

群馬ダイキャスト(株)

富士ゼロックスアドバンステクノロジー(株)

いすゞ自動車(株)

シーメンス・ジャパン(株)

(株)ミツバ

オーエスマシナリー(株)

正田醤油(株)

(株)山田製作所

小倉クラッチ(株)

昭和電工(株) 小山事業所

ユニシアジェークーシーステアリングシステム(株)

河西工業(株)

スズキ(株)

(株)ヨロズ

北芝電機(株)

〔夜間主コース〕

(株)バンテック

(株)ヤマト

【工学部 環境プロセス工学科】

臼井国際産業(株)

サンデン(株)

明星工業(株)

(株)オプトニクス精密

(株)芝浦電子

山二ガス(株)

【工学部 社会環境デザイン工学科】

東海旅客鉄道(株)

東日本旅客鉄道(株)

(株)両毛システムズ

【工学部 電気電子工学科】

〔昼間コース〕

■医療業

日本赤十字社

■企業

Canon Opto Malaysia
アルファシステムズ(株)
小倉クラッチ(株)
クシダ工業(株)
コトヒラ工業(株)
サンノーバ(株)
島根三洋電機(株)

昭和電気鋳鋼(株)
杉原エスイーアイ(株)
セントラルエンジニアリング(株)
大洋電機(株)
東芝機械(株)
浜松ホトニクス(株)

日立エーアイシー(株)
本庄ガス(株)
マミヤオーピーネクス(株)
裕幸計装(株)
ユニアデックス(株)
(株)テプコシステムズ

〔夜間主コース〕

アイ・シー電子工業(株)

【工学部 情報工学科】

〔昼間コース〕

■医療業

群馬県健康づくり財団

■企業

アルファシステムズ(株)
インフォサイエンス(株)
クオリカ(株)
クシダ工業(株)
信越化学工業(株)
楽天(株)

(株)DYM
(株)コメリ
(株)ジーシーシー
(株)ティーエム・ツー
(株)テクノエイジ
(株)ナブ・アシスト

(株)野村総合研究所
(株)日立情報システムズ
(株)日立エンジニアリング・アンド・サービス
(株)日立製作所 公共システム事業部
(株)富士通ビーエスシー

〔夜間主コース〕

第一編物(株)

【工学部 生産システム工学科】

〔昼間コース〕

(株)カーメイト
河西工業(株)
(株)キューブシステム
コンピュータロン(株)
澤藤電機(株)

山恵鉄工(株)
(株)ジーシーシー
ソマール(株)
(株)高崎共同計算センター

日信ソフトエンジニアリング(株)
富士通エフ・アイ・ピー(株)
三菱電機(株)
明星電気(株)

〔夜間主コース〕

足利ガス(株)
坂本工業(株)
しげる工業(株)
(株)ジーシーシー

(株)東京測器研究所
(株)日東電機
(株)日本テクシード
日本ケミコン(株)

日本電設工業(株)
(株)フォーラムエンジニアリング
三菱重工精密鑄造(株)

【工学部 応用化学科】

(株)足立工業

エコロジスタ(株)

ティーエルロジコム(株)

【工学部 材料工学科】

興和ゴム工業(株)

国際警備(株)

日興リカ(株)

【工学部 生物化学工学科】

〔昼間コース〕

三州製菓(株)
早川商事(株)

(株)タナックス

日本電産ニッシン(株)

〔夜間主コース〕

(株)マツボー

【工学部 建設工学科】

(株)木の花ホーム
ピーエス三菱(株)

東海旅客鉄道(株)
(株)ファーストリテイリング

トステム(株)

3 学生受入センター

3.1 はじめに

学生受入センターは、オープンキャンパス、高等学校・大学連携授業等を積極的に実施し、各高等学校に向け本学のアドミッション・ポリシーの広報活動を行った。同時に、大学ホームページや各種大学受験案内などに入試情報を掲載し、広報活動を活発化した。また、各種イベントへの参加、高校訪問、外部広報誌の活用等による種々な宣伝活動も積極的に行った。特に、9月中旬から10月上旬にかけての、特別入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項の配付を兼ねた「学生募集要項配付と進学相談会」と銘打った群馬大学独自の進学相談会は4年目を迎え、本年は3会場に於いて開催した。来訪した延べ836名の受験生及び保護者等にフェース to フェースで募集要項を配付するとともに、各学部の進学相談担当教員が進学相談に応じた。

本報告書では、学生受入センターの2010年度における業務内容とその実績について報告する。

3.2 オープンキャンパス等

1) オープンキャンパス

平成22年8月7日(土)～8日(日)に、荒牧キャンパスでオープンキャンパスを開催した。これらの日は、これまでの4年間の広報に於いて「群馬大学はオープンキャンパスを8月の第1週の土曜日と日曜日に開催する」と案内してきた3回目の実施日にあたる。1日目は主に医学部・工学部、2日目は教育学部・社会情報学部を対象とした大学紹介・説明を行った。これまでと同様に、群馬・栃木・埼玉・新潟・長野の全高等学校を対象に、あわせて5県701校に案内した結果、延べ3,851名の参加者があった。本年の参加者は、昨年より1,007名増加した。

また、平成18年度から開始したクラブ・サークル紹介において、今年度は吹奏楽団の演奏を行い、参加者に本学に対する親しみやすいイメージを与えるよう配慮した。なお、当日実施したアンケート調査では、89%の参加者から参加して良かった旨の回答が得られたこと等から、本行事の意義を確認することができた。

2) 募集要項配付及び進学相談会

平成22年9月18日(土)・19日(日)・10月2日(土)の3回にわたり、本学独自の募集要項配付及び進学相談会を実施した。これは平成19年度から実施した事業である。内容は、高崎市、桐生市及び宇都宮市の3会場に於いて、本学の特別入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項(入学願書付)を配付し、併せて進学の相談に応じるものであり、受験動向を観察するアンテナ的イベントである。群馬・栃木・茨城・埼玉・新潟・長野の全高等学校を対象に、あわせて6県859校に案内した結果、延べ836名の参加者があった。当日のアンケート調査では、63%の出席者が本学を第一志望としていることがわかるなど、受験動向を把握する上での有効性を確認できた。

3) 模擬授業・出前授業及び大学見学

平成19年度から基本的に学生受入センターに集約することにより、効率的な運用を図った。その結果、46高等学校に模擬授業・出前授業を実施し、13の高等学校が本学を見学した。

4) 進学相談会

本事業も上記3)と同様、平成19年度から基本的に学生受入センターに集約して行うこととした。今年度、関東地区の会場を重点的に、延べ70回の進学相談会に参加し、延べ1,422名余りの受験生、保護者等に対して入試広報を行った。さらに効果的な入試広報を行うため、

地域や主催者別に各会場のデータを収集のうえ、受験生の特性について分析を行った。

5) ホームページ広報

大学ホームページ全体のリニューアルに伴って、ホームページに掲載する受験生向け情報の整理・見直しを行い、ユーザビリティの向上を図った。また、広報室と連携して、大手の受験産業関連企業が運営する進学情報ウェブサイトに入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

6) 学生受入方針の広報

オープンキャンパス、大学見学会及び進学相談会等の際、入試広報誌等を用いた学生受入方針（アドミッション・ポリシー）の積極的な説明を行った。なお、上記によるPR効果については平成22年度入学者を対象にしたアンケート方式で調査したが、その結果は各学部

3.3 入学者の追跡調査

入試の状況、各種アンケート及び入学後の成績等、入学者の追跡調査結果については、平成22年12月に報告書を発行し次年度以降の入試改革に役立てることとした。

3.4 その他

県の教育委員会の要請を受け、高大連携推進協議会に参加し、県内各種高校の教員と高大連携の進め方について意見交換を行った。県内高校教員136名の参加を受けて平成22年11月17日に開催された「高大連携フォーラム」において、本学の取り組みと高大連携についての考え方を紹介した。

4 健康支援総合センター

はじめに

健康支援総合センターは、平成 18 年 4 月に保健管理センターから改組され学生の健康管理を目的とした、群馬大学大学教育・学生支援機構内の 1 センターとして位置づけられた。その業務範囲は平成 20 年度に総務部との協議で確認され最初の業務報告が平成 19 年度の本報告書でなされた。たとえば、大学の独法化に伴い教職員の健康管理は学校保健安全法よりも厳しい労働安全衛生法に則ることから、保健管理センターの医師に課されていた荒牧事業場の保健管理医業務（資料番号 15：保健管理センター規定第 6 条）は荒牧事業場の産業医の業務とされた。これにより荒牧事業場の保健管理医業務は健康支援総合センターの業務（資料番号 22：センター規定）から削除され設立趣旨の姿（資料番号 16：設立通達）に復した。今回の報告は健康支援総合センターとしては 19 年度から 4 回目である。この 4 年間に健康支援総合センターの活動は大学執行部、特に大学理事である石川健康支援総合センター長の基に着実に確実に発展をしてきた。一方、健康支援総合センターは未だ整備の過程にあり配置されている医療職が絶対的に不足している。この状況に対しては第一次中期計画において改善されるべき課題とされたが、第 2 期中期計画案（資料番号 20）として引き継がれることが第 9 回健康支援総合センター運営委員会（平成 21 年度開催）で決定されて大学当局に報告されている。

配置人員が不足であっても健康支援総合センターは学生の健康の保持増進に有用な事項については、実施できる形でとにかく事業を立ち上げることを主眼に進展を図っている。今回は平成 22 年度の健康支援総合センターの活動を報告する。この報告書から皆さんが健康支援総合センターの業務内容を知り、業務に対する健康支援総合センターの工夫と姿勢を感じていただければ望外の喜びとするところである。

4.1 平成 22 年度年間業務実施概要

平成 22 年度はメンタルヘルス対応能力が向上したこと、および桐生キャンパスに学生のためのキャンパス・ソーシャルケースワーカーを配置できたことが最大の進展事項である。健康支援総合センターの業務は前年度の運営委員会で決定されている（資料番号 1：業務内容）。平成 22 年度には定例業務とは別に下記の 8 項目の事業が追加されたのでまず概要を述べていきたい。

- ①教員や学生のメンタルヘルス向上を目的に、「メンタルヘルス部門」のインターネット・ホームページを開設し、自己チェックプログラム、カウンセリング案内、メンタルヘルス通信などの情報配信を随時行う事業を、健康支援総合センター教員（精神科医）が新たに開始した。
- ②精神保健検査方法の見直しを行い、アンケート項目内容と項目数を改編した新たな自己記入式質問紙を、新入生版および在校生版の 2 種類を開発作成し (Gunma University Mental-health Inventory: GUMI)、それをもとに 1 次健診と 2 次面接を施行した。得られた検証結果の一部は、原著論文として投稿した。
- ③上記の留学生用英語版を作成し、同様に 1 次健診と 2 次面接を行った。
- ④身長体重測定値から病的にやせそうが疑われる学生に対して (BMI17 以下)、健康管理啓蒙パンフレットを作成し配布するとともに、食と体型に関する問題（ダイエット、過食、嘔吐、やせ薬など）に特化したイーティング・クリニックを健康支援総合センター教員（精神科医）が新たに開始した。
- ⑤学生及び職員のメンタルヘルス自己管理向上を目的として、認知行動療法 DVD「わたしらしさよ、こんにちは」を各キャンパスに複数配備し、レンタル用のポータブル DVD 視

聴機とともに貸し出しを開始した。

- ⑥メンタルヘルス研究会において、県内各大学でカウンセリングを担当している臨床心理士の方々を招いたワークショップを行い、関係者連携の端緒とした。
- ⑦工学部からの要請により、桐生キャンパスでメンタルヘルスに問題を抱える学生の指導・対応に当たっている教員の求めに応じて、健康支援総合センターの教員（精神科医）が定期的に桐生キャンパスに出向いて当該教員の専門的相談に応じる事業を継続した。
- ⑧桐生キャンパスに、大学生活への不適応者に対する大学からの働きかけ要員としてキャンパス・ソーシャルケースワーカーを配置した。

1)「メンタルヘルス部門」のインターネット・ホームページを開設し、自己チェックプログラム（抑うつ、社交不安、アルコール、食行動）、各キャンパスでのカウンセリング案内、メンタルヘルス通信、メンタルヘルス研究会の案内などの情報配信を開始した。ウェブについては、健康原論の講義や大学ホームページで新入生に周知し、実際自己チェックの結果をもとに相談に訪れる学生も増えてきた。

2) これまで当センターでは、大学生活の健康状態を維持向上するために、春のメンタルヘルス健診を行ってきた。しかし、従来の精神保健検査は質問の項目数が100以上と多く、中には重複もあるため、学生から不満の声が上がっていた。本年度は全面的な見直しをおこない、まず以前から用いてきた抑うつ状態チェック項目の中で、統計的解析により重要な因子として抽出されたものだけを選び、さらに、心身状態を把握する質問（気分変調、精神病像、食行動、心身障害度）を加えた。新入生版は若干質問が多く（35項目）、在校生版は20項目と、従来より格段減った。この新しいGUMI(Gunma University Mental-health Inventory)を導入し、学生の精神的健康をチェックし、よりよいアドバイスや支援を目指した1次健診と2次面接を施行した。得られた検証結果の一部は、すでに原著論文として受理印刷中である。

3) 上記の留学生用英語版を作成し、同様に1次健診と2次面接を行った。特に問題なく回答が得られており、今後も継続する予定である。

4) 身長体重測定値から標準値を超える（BMI17以下）病的にやせそうと認められる学生に対して、健康管理啓蒙パンフレットを作成し配布した。その要因は、不規則な生活、女子学生のやせ体型志向、身体疾患など様々ありうるが、中には過激なダイエットやむちゃ食いなどの摂食障害予備群が存在すると考えられる。よって、食と体型に関する問題（過食、嘔吐、自己誘発嘔吐、やせ薬の使用など）に特化したイーティング・クリニックを新たに開始した。現在のところ、イーティング・クリニックを窓口として相談に訪れた事例は10名弱であるが、いずれも早期発見、早期医療受診、付随する関連心理社会問題へのカウンセリングにつながっている。

5) 学生及び職員のメンタルヘルス自己管理向上を目的として、認知行動療法DVD「わたしらしさよ、こんにちは」を各キャンパスに複数配備し、レンタル用のポータブルDVD視聴機とともに貸し出しを開始した。認知行動療法は、出来事のかえ方やとらえ方のバランスを取って、マイナス思考に上手に対応できる心の状態をつくっていくコツを身につける方法で、さまざまな心理精神的問題に効果があることが実証されており、H23年現在は診療報酬として認められている。

6) 本年度のメンタルヘルス研究会において、県内各大学でカウンセリングを担当している臨床心理士の方々を招いたワークショップを行った。そこでは、各大学での実践、経験の共有、

問題点の相互討論が行われ、今後の県内関係者連携の足がかりとなった。講演者は鈴木志津（群馬大学カウンセラー）、藤井裕美（群馬県立女子大学カウンセラー）、樺澤徹二（高崎経済大学カウンセラー）、鷺見 光（（共愛学園前橋国際大学学生相談グループ）の各位（敬称略）で、司会は岡島美智子（高崎健康福祉大学）氏と健康支援総合センターの精神科医が行った。参加者は学内外 80 名を超え、各方面から今後の継続を要望されている。

7) 工学部からの要請により、桐生キャンパスでメンタルヘルスに問題を抱える学生の指導・対応に当たっている教員の求めに応じて、健康支援総合センターの教員（精神科医）が定期的に桐生キャンパスに出向いて当該教員の専門的相談に応じる事業を継続している。

本事業は、健康支援総合センターの精神科医が桐生キャンパスの教員への相談に応じることによってメンタルヘルスに問題を持つ学生への支援を強化する事業である。21 年 5 月から工学部の教員からの要望が有る場合に月に 1 回を限度に開始された。学生本人への相談は、今まで同様臨床心理士である学外のカウンセラーに対応していただくことになっている。カウンセリングの結果、医療関与が必要な場合にはカウンセラーの判断で工学部の精神科学校医や近隣の医療機関に紹介するなどの対応をいただいている。この事業の対象は教員に限られているが、カウンセラーに課せられている守秘義務の関係でカウンセラーと教官が直接情報交換できない場合や、学生自身が問題意識に乏しく相談に消極的な場合、教員として当該学生にどのようにかわるべきかや緊急対応をすべきかどうかなど判断の難しい場合など、教員にとっては健康支援総合センターの精神科医への相談が極めて有用であると評価されている。よって現時点では積極的に継続すべき事業と判断される。

8) 桐生キャンパスにキャンパス・ソーシャルケースワーカーを配置した。

工学部桐生キャンパスにおいては欠席調査で検出される学生数、休学者の数が多いことから指導教官では十分な個別指導に欠ける部分があった。また学生支援課の事務員も指導教員の補佐を行うには時間が不足していた。それを補うために学生に働きかけて学生を大学に結びつける機能を果たす非常勤職員を配置することにした。学生に対応するにはカウンセリングマインドが要求されるので、臨床心理士や精神保健福祉士の資格を有する者の募集を行い、臨床心理士の資格を持つ方を非常勤職員として 6 月から隔週半日の勤務で配置した。

義務教育課程においては家庭に問題があるために学校になじめない児童・生徒を学校に繋ぐためにスクール・ソーシャルケースワーカーが各教育委員会に配置されている。その機能に近い大学への配置なのでキャンパス・ソーシャルケースワーカーと名付けた。キャンパス・ソーシャルケースワーカーは必要に応じて学生のアパートに大学の職員と共に出かけ学生とのカウンセリングを行うこととした。その成果は下記の項 4.19 に示す通りである。

以上平成 22 年度に始めた健康支援総合センターの新たな活動を報告した。以後定例業務の報告をするが、最初にご理解頂きたいのは平成 19 年度の業務報告書で述べたように健康支援総合センター支援の業務の原則は前橋地区の学生が対象範囲であって、桐生地区、太田地区の学生は含んでいない、両キャンパスの工学部の学生の保健管理は附属学校がそうであるように工学部が委嘱する非常勤学校医によってなされることになっているのである。しかし、健康診断時における内科診察、胸部レントゲン撮影検査の経費の支払い、学外臨床心理士によるカウンセリング業務および 22 年度から開始したキャンパス・ソーシャルケースワーカー業務に限っては全学一体的に健康支援総合センターが行っている。このように特異な業務態勢ではあるが、わずかずつではあるが確実に活動内容を拡大しながら高度化してきていることが実感できる 1 年であった。特に桐生地区でキャンパス・ソーシャルケースワーカーが整備されたことは大きな進歩であった。

しかし、本健康支援総合センターの抱えている問題は容易には解決できないほどに構造的で、かつ解決するには予算・人的資源を必要とするものである。

それは後述するとして以後、平成22年度の定例業務内容について順次報告したい。

4.2.1 及び 4.2.2 学生の定期健康診断状況

平成22年度の学生定期健康診断は、資料番号2および資料番号3に示す日程で行われた。この日程は平成21年7月6日に行われた第8回健康支援総合センター運営委員会(委員長:石川 治 健康支援総合センター長 病院担当理事)において承認されたものである。学生の定期健康診断日程は翌年の胸部レントゲン撮影車の配車を7月中には学外の業者に予約しなければならないことから例年、前年度の7月中には運営委員会に諮り決定している。また、学生定期健康診断には医学部附属病院から半日を1回と算定して延べ32名(桐生地区派遣の医師を含む)の医師の派遣の協力を頂いた。また検査及び診察補助を目的に看護師を1日を1回と算定し、健康支援総合センター経費で前橋地区の健康診断に延べ42名を学外機関から雇い入れた。

4.2.3 及び 4.2.4 学生定期健康診断受検状況

資料番号4および資料番号5に示すとおりである。学部学生の受検率は前橋地区では全体で94.0%、桐生地区では全体で88.9%と極めて良好である。この受検率は全国的にもトップレベルである。学部別では教育学部96.1%、社会情報学部88.8%、医学部医学科86.5%、医学部保健学科97.9%、工学部1年98.5%、工学部昼間2年以上91.5%、工学部夜間主60.4%と工学部夜間主以外は86%以上の受診率であった。

1年生だけを見ると教育学部100%、社会情報学部100%、医学部医学科100%、医学部保健学科100%、工学部98.5%とほぼ全員が例年と同様に受検した。健康診断日程表で明らかのように健康診断時間は、教養教育の講義時間と平行して行われており特別に休講措置は取られてはいない。それにもかかわらず例年1年生のほぼ全員の健康診断がなされ続けているという事実は、教養教育の授業を担当された先生方の学生の健康診断受検行動に対する多大な理解と御協力の賜と考えられる。本学における学生の健康診断が医学部附属病院の先生方の献身的協力により成立していることをも念頭に、教養教育の授業担当の先生方の引き続きの御協力を御願いたい。

大学院生の受検率は、医学系研究科の受検率が17.4%と極端に低値であった。医学系研究科の院生は医療機関に就業している社会人が多く、所属先の医療機関で健康診断を受けているので大学での健康診断の必要を要しないとの可能性もあるが、今後何らかの方法で所属先での健康診断の実績を含めて実質的受検率を上げることが望まれる。医学系研究科には外国人留学生が多く、彼らは他の医療機関での受検の機会もなく、感染性肺結核症の発生をみたことでもあるので、外国人留学生の大学院生については指導教員の受検への特段の御協力をお願いしたい。

4.2.5 学生定期健康診断における疾患別要観察者数 (前橋地区)

前橋地区の定期健康診断時、問診だけで明らかにされた特に管理を要すると判断された病態と該当学生数を資料番号6に示す。特に突然死の原因となりうる先天性心疾患やWPW症候群が20名に見つかることは注目に値する。また、ここ数年は治療中の糖尿病が必ず見つかるようになってきている。腎性糖尿は尿糖陽性から精査で診断された者であり、毎年数名が新たに診断される。また健康診断時にうつ病や統合失調症と申告する学生が出てきたことは、最近の傾向であり社会の精神疾患への理解が進んだのかもしれない。今回は資料に示すように延べ948病態が明らかとなった。これらの病態を有する学生には、健康診断日の最後に健康支援総合センターの内科医が総合判断し事後指導を兼ねて各人に簡単な指導を行っている。本人が希望する場合には医学部附属病院を含めた医療機関を照会(当該学生には医療機関の受付時間とアクセス法を記載したパンフレットを渡す)したり、紹介状を作成して渡したりしている。特に気管支喘息を持つ学生については必ず主治医を持つようにと近くの喘息

専門外来を有する医療機関に紹介している。照会をしたり、紹介状を発行したりする学生数は合わせて毎年 80 名程度である。このように多くの病態が健康診断を契機に学生に改めて自覚されることは学生にとっても好ましく、適切な指導が受けられる機会が提供されたことにもなる。本学の定期健康診断が学生の健康の保持増進に寄与している証左である。また、この作業が本学の学生の定期健康診断受検率が驚異的に高く、高学年でも落ちない一つの要因ともなっていると判断される。

4.2.6 学生定期健康診断時に発見された異常者数と事後指導結果（前橋地区）

学生の定期健康診断で異常値を呈した数と二次検査の結果を資料番号 7 に示す。まず対象者には二次検査を健康診断日の直後に行う。二次検査でも異常値が出た場合は医学部附属病院を含めた医療機関での精密検査のための紹介状を発行している。心疾患については、高校生までの検診時における診断技術の高度化で保健管理上問題になる異常が学生の定期健康診断で新たに発見されることは殆ど無い。しかし、尿潜血、尿蛋白や高血圧に関しては診断能力が心臓ほどは高度化していないので診断がつかないという者が若干ではあるが残る。最後の手段として経過観察となるが、健康診断を受けた最終的な判断が、要経過観察では継続して健康診断を受けようとする学生の意欲を削ぐことになるので、卒業までにはきちんとした診断を付けさせたいと苦勞をしているところである。具体的には最終学年では紹介状を医療機関に発行して、卒業後の健康管理上の指導を含めての精密検査をお願いしている。また、学校保健上最も注意すべきは胸部異常陰影が肺結核である者を確実に検出することである。そのために健康支援総合センターでは健康診断で胸部異常陰影が疑われた学生に対しては、精密検査を受けるよう再三にわたり勧告する。最後の手段としては学生が正月に帰省することを予測して、正月前に保護者宛に、精密検査を受けることを、保護者からも勧めて頂く旨の依頼文を郵送している。ここまでして精密検査を受けない者に対してはもはや打つ手が無く、大学としては管理責任を果たしていると考えている。

心電図の検査においては WPW 症候群（心臓の刺激伝導系の奇形に起因する不整脈の 1 種）の扱いに特別の配慮をしている。健康診断時に不整脈の診断歴のある学生で安全な不整脈との確定診断がついていない者については、まず全員が心電図検査を健康支援総合センターで受け、病的な場合には改めて専門医療機関を紹介している。WPW 症候群については、全員について健康支援総合センターで心電図を取り、WPW 症候群について教授（内科医）がガイダンスし心電図を渡し常時携帯するように指導し専門医を紹介し、心臓カテーテルアブレーション術（刺激伝導系の一部を焼却する治療法）の適応について判断を受けるように勧めている。

健康支援総合センターでは、平成 6 年度から BMI（体格指数）が 25 以上の者を肥満者とし、該当者に呼びかけて早朝空腹時での血糖値、インスリン値、血中脂質の測定を健康診断事後指導業務に位置づけて実施している。平成 22 年度は 67 名が受検した。検査結果は全員に説明し、後記する肥満教育プログラムへ勧誘した。肥満教育プログラムは健康診断後に開始し年間を通して行っている。その成績、効果については下記に示す全国大学等保健管理研究集会に発表し論文数編にまとめている。肥満対策は、我が国の保健施策上の重要な課題であり、平成 20 年度から、はいわゆるメタボ健診と称される特定健診として行政レベルで肥満対策が開始された。このような情勢をふまえて若年成人である大学生への肥満対策は学校保健上でも重要な課題であると健康支援総合センターは捉えている。

大学生の健康の保持増進に取り組む健康支援総合センターの課題は多岐にわたるが、本学ではそのために配置されている教職員は極めて限られている（全国の同等の学生数を擁する他大学と比較して配置職員数は最低レベルである）ことから、必要不可欠な課題に対して順に教職員の能力を判断しつつ教職員を配置しなくてはならない。学校保健としては授業の成立を破壊する結核をはじめとする感染症の集団感染の発生の防止が最大の任務であるが、次は学業を中断に追い込む可能性のあるメンタルヘルス対策であり、国策となった肥満対策で

あり。加えて5大疾患の一つと位置付けられたメンタルヘルス対策と考えられる。メンタルヘルス対策の中では、施設に配置されている医療担当者の人的条件（人数及び能力）から、有症学生の早期発見にむけてのスクリーニング方法の充実と医療機関への受療促進が大学の保健管理業務では重要項目の1つである。早期に対応することで、不登校や休学、退学などの発生を防止できると考えられる。

以上の考え方を健康支援総合センターの運営委員会で承認していただいて現在の業務形態を形成してきた。

4.2.7 健康診断時における精神保健調査

本年度の精神保健調査は前述したように、大学生のうつ状態に加えて、双極性の気分変調、精神病兆候、食行動異常をふくめた心身の問題を早期に発見することを目的に、従来の方法を統計学的に解析し、新たなチェックリストを改編した。本チェックリストの有用性や関連する解析結果については、後述のように数編の学術論文としてまとめている。本年度の結果を資料番号8に示した。これまでの慣例に従って、新入生を対象とした調査と、在学学生を対象とした調査を分けて実施した。ちなみに要医療とは医療機関での投薬治療が必要と判断された者、要カウンセリング者とは医療機関で投薬の必要はないが引き続き健康支援総合センターで面接を継続的に行うケース、要観察は随時の相談を強く推奨する学生をさす。既に医療やカウンセリングを内外の機関で受療しているものは、別にカウントした。

新入生を対象とした調査結果は、資料表上に示すとおりである。健康支援総合センター准教授を中心に、医学部附属病院精神科神経科医師および健康支援総合センターの学外臨床心理士により面接を行った。医学部附属病院精神科神経科医師には定期健康診断内科診察の代替としてご協力をいただいているが、学生健康診断への応援としては高頻度であり、紙面を借りて神経精神科教室に深く感謝申し上げる。平成22年度は新入生1279名のスクリーニングを行い、要面談者81名を検出し、32名に面談を施行、要カウンセリング者6名、要観察13名を検出した。この時点で要医療判断は0名であったが、その後のフォローで若干名医療機関に紹介となっており、カウンセリング含めたフォローアップの重要性が指摘された。

在学学生精神保健調査も前述したように、改変されたスクリーニング調査票の簡易版GUMIへの記入方式で行い、面談と診断は健康支援総合センター准教授が中心となり、昭和、桐生、太田の各キャンパスに出向いて行った。平成22年度は3944名を対象として125名を検出し、83名（昨年度より若干少ない）に面接を行い、要医療者5名、要カウンセリング者11名、経過観察24名を検出した。

今年度は、抑うつ状態のみならず青年期に問題となる精神症候をなるべく早期に対応することを目指して、面談と助言を行った。また記入に際し、相談希望の有無を加えた結果、在校生で面接実施割合が増えた（約70%）。准教授カウンセリング数の増大も鑑みると、継続フォローアップにより適切に受療へ結び付けられているとともに、カウンセリングレベルの「悩み」にたいしても、センター機能が発揮されつつあると考えている。一方で、入学直後の質問紙記入に関しては、「春休みの不安な気持ち」「入学時の不慣れやあわただしさ」によるものが多く、その後の面接呼び出し時点では、悩みや混乱はすでに解決した、という返答が多かった。

4.3 外国人留学生健康診断状況

外国人留学生の特別健康診断を毎年11月頃に行っている。平成21年度からは留学生の結核感染の有無を検査するクオンティフェロンTB検査と引き続きのメンタルヘルスのスクリーニング検査を行った。日本人では全く発見されない感染性結核が留学生には過去10年間で3名が発見されたこと、および結核感染をツベルクリン検査と比較してより適切に診断

できる検査法であるクオンティフェロンTB検査が一般化されたという二つの理由から、第8回健康支援総合センター運営委員会の議決を経て、クオンティフェロンTB検査を開始した。荒牧キャンパス、昭和キャンパスで1回、桐生キャンパスで2回、1回の検査に3から5時間をかけて行っている。対象者は4月から本学で活動を開始した外国人留学生および21年度の検査対象でありながら検査を受けなかった者とした。この方法の継続でも数年後には全ての外国人留学生の検査ができると考えている。

受診率及び検査結果を資料番号9示す。今回は国際交流課による受検対象者への通知の徹底をしていただくという協力のおかげで受検率は97.6%とほぼ完全で、陽性者が11名(6.7%)、擬陽性が12名(7.3%)であった。陽性者、擬陽性者は次のように指導した。4月に胸部レントゲン検査を受けて異常が無い者は毎年必ず胸部レントゲン検査を受けるように指導した、それ以外の者は医療機関を紹介した。

陽性率ではあるが、平成22年度に行った医学部1年生269名の検査では陽性者が1名(0.4%)であったことから外国人留学生の陽性率は日本人学生の数倍はあるようである。

また、今回のメンタルヘルス・スクリーニングでは、留学生に2次面接対象者が1名おり、桐生キャンパスのカウンセラーを紹介することにつながった。

4.4 ウイルス性疾患抗体検査

本学では附属病院での臨床実習を安全に行うための教育上の安全配慮策として医学部が主体で平成18年度から医学部の新入生全員に対して麻疹、風疹、水痘、ムンプス（流行性耳下腺炎）、B型肝炎に対する抗体価を測定して陰性者にワクチンの接種を行うこととなった。具体的には、採血検査及び麻疹、風疹、水痘、ムンプスのワクチン接種は医学部附属病院感染制御部が、抗体価検査は同検査部が行っている。B型肝炎ワクチン接種は医学部の委嘱により健康支援総合センターが行っている。資料番号8に示すようにワクチン接種前のB型肝炎ウイルス抗体陽性者は1.5%であり、全員が保健学科の編入学生であった。

麻疹、風疹、水痘、ムンプスの抗体検査の結果を資料番号10に示す。話題の麻疹に対しては約5.6%が陰性であった。国によって平成20年度から開始された第4期の麻疹ワクチン接種が効果を発揮してきたように思われる。流行を抑制するには疫学的には人口の95%が抗体を有する必要があるとされているので、高等学校での更なるワクチン接種の勧奨が求められる。これら抗体が陰性の者に対しては医学部附属病院感染制御部が附属病院の患者として附属病院でワクチン接種を行った。

この事業に関わる経費は全額新入生の負担で行っている。新入生に対する検査およびワクチン接種の意義の説明は医学部の判断で行っており、ワクチン接種に関わる個別指導及び副反応への対応は健康支援総合センターで行っている。

4.5 健康支援総合センター利用者等

健康支援総合センターで行った健康相談人数、件数、内容について報告する。
学外のカウンセラーによる業務は別の項（資料番号14）で報告する。

4.5.1 利用者数

健康支援総合センターの利用件数を所属学部別に分類した結果を資料番号11（整理番号9）に示す。桐生キャンパス所属の学生数は荒牧キャンパスで研究をしたり、クラブ活動で荒牧キャンパスに来ている時に利用した者の数である。それぞれ月別に集計して表示した。年間延べ1,096名の利用があった。延べの計算ではあるが、この利用数は前橋地区の学生3,868名のうち約3人に1人が利用したことになる。大学の保健施設としては十分に機能している状態と判断される。

4.5.2 利用件数

利用件数を健康相談、精神保健相談、健康診断書の発行の3つに分類し月別に集計した結果を資料番号11（整理番号10）に示す。

この表での健康相談は応急処置を含むからだの健康相談としてまとめている。

健康診断書は各キャンパスから自動発行されること、および就職時の提出が義務づけられなくなったことから健康支援総合センターからの発行数は激減している。しかし、様式が決められている健康診断書については手書きをして発行しておりその数は24通であった。

学校保健安全法に定められている（健康診断で行う検査項目）以外の検査項目についての記入を求められる診断書については健康支援総合センターでは作成できないので所属学部の担当部署を通して医療機関で作成していただくように指導している。多くは教育学部の教員としての就職や医学部学生の研修病院のマッチング試験時に提出を求められる健康診断書であるが、最近は当センターに作成を依頼に来る学生は減少している。

4.5.3 疾病領域別利用者数

疾患領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料番号11（整理番号12）に示す。

呼吸器系220、精神科295が圧倒的に多数であり、内分泌・代謝系175、外科・整形外科139、と続く。呼吸器系220名とはほとんどがいわゆる風邪である。

精神科は273と昨年度とほぼ同数である。内訳は精神科医168、カウンセラー105で、准教授による精神医学的な関与が増えていることを示している。また医療機関への紹介も16と激増しており、1. 身近なテーマに関するカウンセラーによる心理相談、2. より複雑な問題に対する精神科医の診断面接および精神療法、3. さらに重度慢性化に至る前の早期医療機関受診、というトリアージの流れが確立されつつあることを示している。今後、メンタルヘルス支援に関する同様のシステムを工学部や医学部においても拡大することは、今後の重要な課題と考えられる。

外科・整形外科139名は外傷、捻挫が殆どである。風邪と外傷の利用者が約359名で全体の約30%を占めている。この分野は応急処置として看護師が主に対応している分野である。内分泌・代謝系175名は健康支援総合センターの医師が内分泌、糖尿病の専門医であることからこの分野については外部の医療機関に任せることなく健康支援総合センター医師が継続的に学生との相談を行っていることを示している。

風邪や外傷という応急処置ではない利用者が約70%であることは健康支援総合センターの医師やカウンセラーたちが学生の健康相談機関として十分に機能していることを示しているものと判断できる。

4.5.4 医療機関紹介の診療科分類

健康支援総合センターから他の医療機関へ紹介した患者の紹介先を診療科毎に分類して月毎に集計した表を資料番号12（整理番号13）に示す。精神科を含めてのべ208回の紹介をしている。大学が35週間開講しているとして1日あたり1人以上の割合で医療機関への紹介を要する学生が健康支援総合センターを訪れたことになる。応急処置までが医療行為として期待されている健康支援総合センターとしては妥当な数であろう。これだけ多数の紹介数があるということは健康支援総合センターが学生にとっては良い健康相談機関となっていることを示しているものと考えられる。

紹介先は全科に及ぶが、外科・整形外科46名、皮膚科31名が目立つ。これは健康支援総合センターの医師に外科系がいないことと、学生にとってちょうど相談しやすい疾患であることの二つの理由からだと考えられる。スポーツ障害・整形外科相談は22年度の第11回の運営委員会で23年度よりの休止が決定した。健康支援総合センターの近くには、医学部附属病院を含めて優れた整形外科の診療機関ができたので、実際に診療に迷ったり、困ったりすることはなくなったためである。

4.5.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計し、資料番号 13（整理番号 16）に示す。合計 845 日分を処方した。解熱・鎮痛剤、感冒剤が 7 割弱を占めている。応急処置として処方できるとすればこうなるであろう。また昨今、向精神薬の厳密な管理使用が法的にも規定されているのは周知の事実である。緊急以外の向精神薬使用は極力避ける方針に則り、1 回の過呼吸事例に対する抗不安薬投薬に留まった。

4.5.6 常備薬使用数

上記の内容を使用薬剤毎に月毎に集計して資料番号 13(整理番号 17)に示す。錠剤は 1 錠、軟膏等外用薬は 1 本、1 瓶を 1 単位として算定した。総合計 2,280 単位中で感冒薬である PL 顆粒が 1,078 単位と圧倒的に多い。次が解熱鎮痛薬 433 単位、これらは抗生剤と合わせて主に上気道感染症に使用したものである。次いで整腸剤、抗胃炎剤の合計が 350 単位で続く。次いでシップ剤の 53 単位となる。これら 4 種類の合計が 1,914 単位と処方の 8 割を占めている。この事実は応急処置だけを行い継続的な加療を行わない大学内での医療機関としての機能を明確に表している。

また年間 2,280 単位の処方数は学生の応急処置用の医療施設として健康支援総合センターが十分機能していることを表していると考えられる。

基本的には生活指導や肥満教育などの保健指導業務やカウンセラー業務には薬剤は使用されないの、ここに挙げた数字だけでは健康支援総合センターの診療内容の全体を知ることができないが、応急処置を求めて利用する学生の疾患の質と割合が類推できる興味深い統計である。

4.6 健康相談・精神保健相談

4.6.1 健康相談・精神保健相談の対応内容

健康相談をからだの健康相談とこころの健康相談に大きく分けて対応毎に月毎に集計した結果を資料番号 11（整理番号 11）に示す。

この表では精神保健相談は健康支援総合センター内での利用者数（主に荒牧、昭和キャンパス）を示し、精神科医によるものを「准教授カウンセリング」、学外カウンセラーによるものを「カウンセラーカウンセリング」と表した。カウンセラー紹介は学外のカウンセリング施設への紹介をさす。健康支援総合センターでは学校医である産科婦人科医に定期的に完全予約制でレディースクリニックを開催していただいているのでその利用数を示した。数は少ないが、健康支援総合センターの医師としては専門的判断が困難であり、専門医での治療が必要かどうか迷っている婦人科受診をためらっている女子学生たちにとっては極めて大切な外来となっている。救急転送は 3 件であった。救急転送の原則は前橋市の救急車での医学部附属病院への搬送であるが、場合によってはタクシーによる輸送を行っている、その際には看護師が添乗することになっている。

4.6.2 精神保健相談者数

健康支援総合センター内で行った精神・心理相談者数を学生の所属キャンパスに分類し、月毎に集計して資料番号 12（整理番号 14）に示す。精神科医である准教授と 2 名の学外カウンセラー（10 月より開始された太田キャンパスでのカウンセリングは桐生工学部に含む）、およびキャンパスごとの業務を合計して集計している。

准教授カウンセリングは、総数が赴任前の状況より激増しており、一昨年度より約 3 倍増、昨年度より約 1.8 倍増加した（168）。健診でチェックされたケースをきちんとフォローしている、的確に学生のニーズに応えている、途中で途切れることなく継続している、医療機関に任せきりにしないでセンターでもケアしている、といった点が指摘される。一方カウ

セラーによる総数は、25%減少した(106)。一方で医療機関への紹介は、約3倍に増えた(16名)。以上より、相談の総数はあまり変化がなく、これまでカウンセラーが抱えていた事例で、医療機関の関与が必要な重度もしくは複雑慢性化したケースが適切に准教授への相談受診につながり、結果として医療機関にスムーズな連携がとれつつあることを示唆させる。

なお、学生支援センターの学生相談・生活部会が毎年2回行う学生の欠席状況調査の結果で、担当教員から精神科医との面談が必要と判断された者に対して准教授が精神保健相談を行っており、その対応例もここに含まれている。ちなみに、教職員との電話やメール相談が少なからずあり、家族からの電話問い合わせも若干名あったが、本相談件数には含めていない。

4.6.3 精神保健相談内容

相談に訪れた動機を5つのカテゴリーに分類し、月毎に集計して資料番号12(整理番号15)に示した。当然のことながら、総数は369と昨年度(278)より3割以上増えている。心体の不調を動機に訪れる者がほとんどであるが、修学上の問題や対人関係を動機とする学生も多い。実際の来談原因内訳は、部活動や学内外の対人関係、進路就職、家族問題、性格の悩みなどが重複し、その内容も多岐にわたる。診断も、うつ病、統合失調症、不安障害、摂食障害と多様で、その多くは適応障害圏と考えられた。

一方で、主訴の基盤として発達障害、もしくは自閉スペクトラム特性を少なからず有している学生が、さまざまな対人コミュニケーションや集団行動、修学上の困難を抱え、2次的な心身不調を呈する事例も多かった。こうした学生のはほとんどは、発達障害的個性に関する確定診断を行うには、発育養育家族歴など情報が乏しく、横断的な主訴を通じて特性を推測し、助言や指導を行う以外手立てが少ない。むしろ、教職員や友人など周囲に対するコンサルテーション(構造化や視覚化などのかかわりの工夫)が有用で、実際そうした助言工夫が有用だった事例も多かった。

表示していないが、イーティング・クリニックとして対応した事例は数名で、運動部に関連する体重管理の悩み、高校から続く食行動の乱れ、ストレス緩和として機能してしまう食行動異常などが主訴であった。当初イーティング・クリニックを相談窓口としつつ、その後一般的なカウンセリングや継続相談、時に受療に至る事例もあった。食行動の悩み(ダイエット、過食、嘔吐など)を契機として、抱えている様々な問題にとりくむ糸口になった可能性がある。また、3名は医療機関にもつなげており、摂食障害の早期発見・対応に役立つと考えている。

4.7 カウンセリング状況

4.7.1 学外臨床心理士による心理カウンセリング数

この業務は健康支援総合センターの業務として平成19年度から学内全3キャンパスで開始したものである。利用者数は資料番号14(整理番号19)のとおりである。開設時間は荒牧、昭和キャンパスがそれぞれ週に1日、桐生キャンパスが週に半日を2-3回、太田キャンパスで週1回半日である。

昨年度に比し利用者数はほぼ横ばい、回数は約2割増であった。今後とも桐生キャンパスでは、回数の増加に伴ってカウンセリング利用件数が伸びていくことと予測される。内容的にも、対応の難しい相談が増えているという臨床心理士からの報告もあり、教職員のさらなる意識の向上が求められる。一方で、昭和・荒牧キャンパスは、現状維持もしくは若干減少が予想される。これはカウンセリング業務時間が決められた曜日にしか行われず、授業や実習の都合で受けられない学生がいることが懸念される。荒牧キャンパスでは准教授カウンセリングがそれを補完しているが、昭和キャンパスから荒牧まで来所するのが難しい場合もあり、昭和キャンパスでのメンタルヘルス対応の充実が今後の課題の一つである。

なお教職員に対する医療相談は、本来健康支援総合センターの行うべき業務では無いものの、実際は教職員への緊急的なガイダンスや窓口の対応に限っても年間に約 20 回あり、准教授対応と合わせると約 30 回程度になる。教職員に対しては継続対応せずに、外部の心理相談機関（県労働安全衛生センターなど）や心療内科や精神科等の医療機関で診療を受けるように指導助言している。なぜなら、他の職員が身近に勤務し、加えて学生と鉢合わせするような場所に、精神的悩みを抱えた教職員が相談に訪れることは、守秘性などに鑑みてもデメリットが多い。加えて、投薬検査が十分に行えない状況では、有害事象や医療事故等の危険を配慮しても、外部機関への誘導が最善の方策である。今後は大学として教職員のメンタルヘルスへの真摯な取り組み、たとえば適切な外部機関との連携（EAP など）が必須である。精神疾患での休職数増加や労災、自殺予防の社会的動向を見ても明白である。

4.8 教員による教養教育への参加等教育への参加状況

健康支援総合センターの教員は教養教育の講義を担当している。具体的には例年のように健康学原論の中で前期に教授、准教授がそれぞれ 90 分の講義を 5 回行った。

教授は「大学生に必要な保健知識（酒の健康学、たばこへの対応、避妊と性感染症、依存症）」、准教授は「大学生のメンタルヘルス—こころの健康とは何か？」をテーマに 1 年生を対象に講義を行った。1 回につき約 300 名の学生を相手に、1 コマで大量かつ複雑な内容を講義する必要から、一方的に知識を伝えるだけの講義となっている。学生も講義中の私語や入退室が極めて多く、基本的な聴講マナーに問題が多いのも事実である。

大学生の保健管理を専門とする健康支援総合センターの教員としては、学生が是非とも身につけて欲しい事項は多々あるが、1 年生全員（約 1,300 名）に一律に教えるとなると時間的にも人的にも余裕の無い健康支援総合センターの教員体制では現在の講義形態とならざるをえない。以後のことはほとんど実現の可能性は無いが、教養教育の中で保健や自己防衛や自己管理や障害者との共生など社会人として生きていくための基本知識をきちんと伝えるという目的での講義がなされるのが理想であり、その方向で現在の講義形態が改善されるべきである。

また 3 月 1 日に学務部主催の第 26 回クラブ・サークルリーダーシップ研修会において、教授が「急性アルコール中毒を防ぐために」と題して 90 分間の講演を行った。

その他准教授は、医学部医学科 2 年生「人の成長と発達—脳と心の発達」（1 コマ）、同 6 年生「実践臨床病態学：児童青年期に食行動異常を呈する心身医学的病態」（1 コマ）を行った。また、准教授は放送大学前橋学習センター非常勤講師として、「医療からみた臨床心理」の対面授業を担当した。

4.9 教員による健康管理に関する調査研究業務

教員による健康管理に関する調査研究業務の結果は、論文及び学会発表として公表した。

健康支援総合センターの教員の健康管理に関する調査研究は、健康支援総合センター規程の第 3 条の第 5 項に「健康に係る調査及び研究に関すること」と規定されているように業務であり、大学の教員が任意にテーマを選んで自由に行う教官研究費や科学研究費や奨学寄付金での研究活動とは異なりその活動は運営経費で賄われるべきものであるが、その額はわずかである。

I：教授分

論文発表：

- 1；減量不十分な肥満学生への減量に向けての医療者からの言葉掛けに関する試み
大島喜八，久保田文雄，八重樫聡子，小野里清美

群馬大学健康支援総合センター，同工学部保健室
CAMPUS HEALTH 47(1): 167 – 169, 2010

学会発表：

- 1；肥満学生へ唯一の減量法を繰り返し伝える指導法の効果について
大島喜八，上原 徹，八重樫聡子，小野里清美
群馬大学健康支援総合センター，同工学部保健室
第 47 8 全国大学保健管理研究集会 2009 年 10 月 20-21 日 千葉

科学研究費による研究：

「大学内における大学生に対する肥満教育リテラシーの確立」 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号20500593 2008-2010年

Ⅱ：准教授

1. 著書

- 1) 上原徹：6 章－2 神経性大食症, 精神科治療学Vol.25巻増刊 「今日の精神科治療ガイドライン」, p196-199, 星和書店, 東京, 2010

2. 論文

- 1) Uehara T, Takeuchi K, Kubota F, Oshima K, Ishikawa O: Annual transition of major depressive episode in university students using a structured self-rating questionnaire. Asia-Pacific Psychiatry, 2:99-104, 2010
- 2) Kosuke Narita, Yuichi Takei, Masashi Suda, Yoshiyuki Aoyama, Toru Uehara, Hirotaka Kosaka, Makoto Amanuma, Masato Fukuda, Masahiko Mikuni: Relationship of Parental Bonding Styles with Gray Matter Volume of the Dorsolateral Prefrontal Cortex in Young Adults. Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry, 34: 624-631, 2010
- 3) Masashi Suda, Toru Uehara, Masato Fukuda, Toshimasa Sato, Masaki Kameyama, Masahiko Mikuni: Dieting tendency and eating behavior problems in eating disorder correlate with right frontotemporal and left orbitofrontal cortex: a near-infrared spectroscopy study. Journal of Psychiatric Research, 44: 547-555, 2010
- 4) Uehara T, Takeuchi K, Kubota F, Oshima K, Ishikawa O: Screening features associated with depression in first-year university students. Psychiatry Research Journal, 1; issue 4, 325-334, 2011
- 5) 上原徹，須田真史，福田正人，三國雅彦：近赤外線分光法による摂食障害の脳機能研究：一連の関連研究の紹介. 臨床脳波, 52,151-158, 2010
- 6) 上原徹：心理教育の思想と実践－知行合一に向けて，臨床精神医学, 39, 753 – 757, 2010
- 7) 上原徹：多チャンネル近赤外線分光法（光トポグラフィー）による摂食障害の脳病態研究. 精神神経雑誌, 112：736-740, 2010

3. 学会発表

- 1) 上原徹：摂食障害の脳病態：多チャンネル近赤外線分光法を用いた研究. シンポジウム「摂食障害：病態・診断・治療の最前線」, 第 106 回日本精神神経学会総会, 広島, 5 月 20 日, 2010
- 2) 上原徹：気分障害の併存, シンポジウム「摂食障害と精神科併存症」, 第 14 回日本摂食障害学会, 10 月 2 – 3 日, 東京, 2010

- 3) 木下大生, 村岡美幸, 有賀道生, 井沢邦英, 上原徹, 六角僚子: 知的障害者用認知症スクリーニングテスト DSQIID 邦訳版の信頼性の検討. 11 回日本認知症ケア学会, 10 月 23 - 24, 神戸, 2010
- 4) 上原徹: 教育講演「摂食障害: NIRS による脳機能評価と臨床への応用」, 第 51 回日本児童青年精神医学会, 10 月 28 日, 前橋, 2010
- 5) 上原徹: 大学での現状と試み. ワークショップ「群馬での取り組みー特に PDD について」, 第 51 回日本児童青年精神医学会, 10 月 30 日, 前橋, 2010
- 6) M. Fukuda, M. Suda, Y. Takei, Y. Aoyama, T. Sato, N. Sakurai, K. Narita, M. Kameyama, T. Uehara, M. Mikuni Near-infrared spectroscopy in psychiatry. Symposium, 29th international congress of clinical neurophysiology, Kobe, Oct, 2010
- 7) 上原徹, 石毛陽子, 須田真史, 福田正人: 摂食障害の脳病態研究: 多チャンネル近赤外線分光法による成果を動機づけに導入できるか? 厚生労働省精神神経疾患研究開発費, 切池信夫班, 研究報告会 12 月 2 日 東京, 2010

4. その他メディア等

- 1) 上原徹: 職場のうつ, 健康通信クラブ 5 月号 15 号 P2, 2010 年 5 月 12 日, 上毛新聞社, 2010
- 2) 上原徹: 状態像と診断, 精神病理と診断ー 3, 「摂食障害の精神科治療」, 日本摂食障害学会ホームページ委員会編著, Japan Society for Eating Disorders ホームページ, 10 月, 2010

5. 研究会・学会などでの活動

スポーツ精神医学会評議員

精神科診断学会評議員

心理教育家族教室ネットワーク運営委員

群馬精神医学会世話人

北関東甲信越メンタルヘルス協議会世話人

第 51 回日本児童青年精神医学会地方組織委員

厚生労働省精神神経疾患研究開発費 切池班 分担研究者

日本精神神経学会専門医制度委員会 面接試験委員

群馬県社会福祉審議会児童部会臨時委員

4.10 健康支援総合センター所属教職員等

健康支援総合センター所属の教職員および学校医を資料番号 17 に示す。平成 21 年度はこれらのスタッフで業務を行った。カウンセラーは学内のカウンセラーとして学外の臨床心理士が不在時の精神科救急にも対応していただいている。精神科医は学生の定期健康診断時の新入生および在学生のメンタルヘルススクリーニングをしていただいている。また附属病院精神神経科学教室には夜間および週末の学生の精神科救急に対応していただいている。

4.11 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の会議を主催した。

- 1) 第 10 回 健康支援総合センター運営委員会

資料番号 18 に議題を示す。

運営委員会の議題については平成 19 年度より健康支援総合センターから審議希望事項を各学部呼びかけて募っている。

2) 第 11 回 健康支援総合センター運営委員会

資料番号 19 に議題を示す。

この委員会で決定された健康支援総合センターの業務内容が 23 年度の業務として実施される。

本委員会で桐生キャンパスへのキャンパス・ソーシャルケースワーカーの継続配置およびその「予算措置については予算が不足する場合には事務局と工学部との間で対処方法等を検討すること」が決定された。

また平成 23 年度から整形外科・スポーツ障害相談を中断することが決定された。

3) 平成 22 年度（第 13 回）メンタルヘルス研究会（11 月）

「県内大学等メンタルヘルスの現状と今後の連携に向けて」をテーマに荒牧キャンパスのミュージックホールでワークショップを行った。学内外から、およそ 80 名を超える参加者をいただいた。別途抄録集書を作成し、当日配布した。

4) 群馬県内大学等保健管理担当者会議（11 月，1 月）

群馬県内の大学，高専の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席により開催した。

第 5 回群馬県内大学等保健管理担当者会議

11 月 26 日に荒牧キャンパスで開催 15 校 18 名が参加した。教授講演が行われた。

（大島喜八：インフルエンザワクチンと子宮頸癌ワクチンについて）

第 6 回群馬県内大学等保健管理担当者会議

1 月 28 日に荒牧キャンパスで開催し，17 校 20 名が参加した。

4.12 平成 22 年度健康支援総合センター運営委員会委員

平成 22 年度の健康支援総合センター運営委員会の委員名を資料番号 21 に示す。

4.13 健康支援総合センターでの全国委員会等出席

下記の委員会等に健康支援総合センターの教職員が出席した。それぞれの会への出席は，学内に同様の機能と責任を有する教職員が存在しない健康支援総合センターの教職員にとっては，組織の機能の維持，発展を図るための研修，情報交換として必須である。

1) 第 47 回 全国大学保健管理研究集会

教授，准教授，看護師が出席，発表 開催地：千葉 10 月 20 ～ 21 日

2) 平成 22 年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会

教授がセンター長の代理で出席 開催地：東京 10 月 22 日

3) 第 48 回 全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会

教授，看護師が出席 開催地：東京 7 月 22 日から 23 日

4) 平成 22 年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会

保健・看護分科会運営委員会

看護師 3 回出席 7 月 22 日：東京，9 月 11 日：東京，1 月 22 日：東京

5) 平成 22 年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会 幹事会

教授が出席 7 月 22 日：東京

6) 平成 21 年度メンタルヘルス研究協議会北関東甲信越支部世話人会に，（当番校：茨城大学）准教授が参加（東京，5 月）。報告書を共同執筆した（上原徹：分科会「発達障害等のサポート」，平成 22 年度メンタルヘルス研究協議会報告書，日本学生支援機構，p47－48，2011）

4.14 学内諸会議への教職員の出席

教職員は下記の学内会議へ出席した。

- 1) 学生支援センター学生相談・生活部会
教授が委員として出席した。
- 2) 大学教育・学生支援機構連絡会議
教授が委員として出席した。
- 3) 荒牧事業場安全衛生委員会
産業医を併任している教授が毎月 1 回出席した。
- 4) 発達障害学生への支援，学生支援センター FD
准教授が 12 月 27 日，荒牧キャンパス，に参加発表した。

4.15 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- 1) 教育学部体育大会
- 2) 社会情報学部スポーツ大会
- 3) 群馬大学オープンキャンパス
- 4) 教育学部，社会情報学部推薦入学試験
- 5) 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験
- 6) 日本語留学試験
- 7) 大学入試センター試験
- 8) 個別学力検査（前期，後期）
- 9) 学位記授与式

4.16 出版・広報活動

平成 22 年度は下記の出版，広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド（2010 年度ぐんま版）よりよいキャンパスライフを送るために」を発行した。
先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が編集した大学生の保健必須事項をまとめて冊子にしたもので新入生全員に（1300 部）配布した。
- 2) 「群馬大学大学教育・学生支援機構 報告書 健康支援総合センター」の平成 21 年度の原稿を作成して提出した。
- 3) 学生全員に健康支援総合センター案内と自己管理用の携帯用カードを作成し配布した。

4.17 社会貢献活動

健康支援総合センターの教員は専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。
准教授

1. 講演など
- 1) 分科会 3 「発達障害等のサポート」，北関東甲信越メンタルヘルス研究協議会
9 月 30 - 10 月 1 日，水戸，2010
- 2) 「職場のメンタルヘルス」，県教育委員会安全衛生職務者研修講演 群馬県庁
12 月 17 日 2010
- 3) 「大学生のメンタルヘルスー摂食障害について」
茨城大学平成 22 年度メンタルヘルス講演会．茨城大学，1 月 21 日，水戸，2011

- 4) 大学における発達障害の支援．発達障害勉強会講演
工学部学生支援主催，桐生キャンパス，1月28日，2011

2. 外部委員やコンサルテーション，嘱託医

- 1) 群馬県教育委員会管理監督者スーパーバイザー（メンタルヘルス）
- 2) 県立ぐんま学園嘱託医師（児童青年精神医学）
- 3) 国立のぞみの園診療所非常勤医師（児童青年精神医学）
- 4) 県立小児医療センター非常勤医師（小児精神科）
- 5) 群馬県保護課 生活保護医療審査会（嘱託医）

4.18 その他の活動

- 1) 荒牧事業場の事務局の職場巡視
産業医を併任している教授が原則的に月に1回（年に10回）行った。
- 2) 若宮事業場安全衛生委員会への出席
産業医を併任している教授が出席した。
- 3) 新規採用教員メンタルヘルス研修講師（准教授），人事労務，4月19日，2010
- 4) 22年度群馬大学安全衛生講習会「職場におけるメンタルヘルスについて」
10月15，18日，11月10日，各事業所，2010（准教授）

4.19 キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーは平成22年20月から桐生キャンパスに配置し，欠席調査で検出されるなどで担当教員からの連絡が付かない状態の学生，休学中の学生など大学との関係が取れていない学生を担当の教員に結びつける作業を行った。対象学生は担当教員および担当カウンセラーから依頼のあった者とした。初年度で6月からの隔週半日の活動ではあったが14名の学生への対応の要求が出された。結果は依頼教員の評価では5名の学生についてはは成果があったとの評価を受け3名については成果が無かった他は改善したが効果は不十分との評価であった。事業の開始初年度なので教員への周知が十分にされず利用件数は多くはなかった。しかし配置前であれば，休学から退学へと大学が関与せずに経緯するおそれのある学生を何人かは担当教員との連絡に結び付けられたことは大きな成果である。優秀な学生を社会に送り出すことが大学の使命であるが，また一方では試験をして選抜して大学が入学させた学生については可能な限り卒業させるという大学の義務から本事業は大学としては無くてはならないものと考えられる。幸いにも依頼した教員からも良好な評価を得ているので現在の体制での強化，継続で良いと考えている。

4.20 健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性

以上平成22年度の健康支援総合センターの業務報告を行った。3年前の平成19年度の報告書の中で解決可能事項として下記の4項目を挙げさせていただいた。

- 1) 学生の定期健康診断時の胸部レントゲン撮影経費は健康支援総合センター経費からでなく実費の全額を大学が直接支払う方式とする。
- 2) 工学部・大学院工学研究科キャンパスでの学外臨床心理士による実施時間の増加
- 3) 昭和キャンパスへの医療職の配置
- 4) 外国人留学生の感染性肺結核対策の徹底

問題は解決に向かって動いているので，平成24年1月の現時点における状況を述べる。

- 1) については抜本的には胸部レントゲン経費を健康支援総合センターの当初予算とは別

扱いにする方策しかないと考えられる。しかし、実際には胸部レントゲン検査経費を含めた前年度の実績に応じた健康診断経費が健康支援総合センターの予算として配分されるようになった。よってこの問題は実質的には解決できたと考えている。

2) についてはカウンセラーの時間の拡大はできなかったが、平成 22 年度から隔週に半日ではあるがキャンパス・ソーシャルケースワーカーを配置することができるようになり前進した。

しかし、将来的には桐生キャンパスに常駐するカウンセラー又は精神科医を配置すべきである。日常的に一人のカウンセラーがキャンパス内に居ることになれば自ずと教員や学生にとって取り立てて構えることなくカウンセリングを受けられるようになり、カウンセラーにとってもキャンパス内の生活の詳細が理解できるようになるのでより個別的、特異的なカウンセリングが可能となり、より高い効果が期待できるのである。この配置計画を第二次中期計画としてあげてある。定員としての配置が困難であれば桐生キャンパスに非常勤のカウンセラーで週に半日 5 回（カウンセリングが受けられない曜日を無くする）の配置を目指すのが具体的な解決策であろう。

3) については 23 年 10 月から昭和キャンパスに週に 19 時間（4 時間 4 日間、3 時間が 1 日）看護師を「健康維持・向上相談員」として配置することができ格段の進歩を遂げた。医学部の学生支援担当の先生方、医学部の雇用担当の事務職員の方々のご努力および病院の看護部長さんのご協力により成し遂げられた。詳細は 23 年度の報告書で述べるが予算が年度限りの文部科学省からの学生救済・援助基盤経費であるので大学からの経費として配置しなければならないという問題が有る。

4) については国際交流課との協議を介して 21 年度に大幅に改善し、22 年度は国際交流課からの支援をいただき、23 年度には問題が解決された。

さらに今回も、群馬大学における学生の健康管理の改善策を具体化する上での構造的弱点を述べたいと思う。本学の学生の健康管理のための教職員数が絶対的に不足していることは先に述べ、その改善策を第二次中期計画案としてすでに大学当局に提出したところである。その不足を補っていくための具体策となると健康支援総合センターの努力だけでは限界がある。どうしてもキャンパス毎の教員のコンセンサスが必要となる。なぜなら 4 つに分かれたキャンパス毎に学生の健康管理の仕組みと学生の需要と利用状況が異なることから教職員の不足状況もキャンパス毎に異なるからである。さらに教員の新たな配置はもはや当該学部内での教員数のやりくりでしか解決がつかないからである。当該学部で教員の増員ができれば非常勤職員を雇うことで補うしかない。その場合でも経費が新たに加わるわけであるから、どうしても学生の健康管理に要する教職員の不足状況と補充策についての当該学部・大学院教員のコンセンサスが必要となる。

そのコンセンサスを形成する際に本学の抱える弱点が阻害要因となる。その弱点とは、各学部が各学部内に発生している学生の健康管理上の問題点を計画的に解決していく組織と制度を持たないということである。各学部の教務委員会や学生支援委員会などが学生に発生する正課、課外活動、日常生活上の様々な問題を所轄することになっており現にそのように機能している。しかし、これらの委員会は学生の当座の問題点を解決するために忙殺されており、学生が問題を抱えることになった要因に対して抜本的な解決策を策定して年次計画を立てるまでには機能してはいない。これら委員会の委員の任期は 1～2 年と短期であり、担当事務員も同様に担当期間は 2 年程度と短い、これらのことが抜本的な解決策を策定する際の弱点となる。

さらに、各学部の学生の健康管理の総括的責任者である学部長・大学院研究科長が管理すべき学生の健康管理状況を知りうる公的な機会を持ってはいない、包括的な管理事項として認識されているに過ぎないと思われる。法人化前は保健管理センター管理委員会があり各学部長・研究科長が学長の下で学生の保健管理上の問題点を確認する機会があったが、現制度では本機能が失われている。さらに学部長・研究科長の任期が 2 年と短期である学部もある。

この各学部長・研究科長が置かれた状況も各学部が学生の健康管理の抜本的な解決策を策定する際の弱点となっている。

以上の2つの弱点（学部内の委員会の機能的限界および学部長・研究科長が学生の健康管理の実態を把握しにくい状況に有ること）から各学部内では学生が抱える問題の抜本的な解決策を年次計画で策定することがほぼ不可能な状況にある。これが学生の保健管理業務の改善を図る上での本学の構造的弱点である。

現に工学部・工学研究科が抱えているメンタルヘルス専門家の常駐化問題は、工学研究科の教員数を減らしてその分で常駐専門家のポストを作らなければならないので工学部・工学研究科の教員の協力が無ければ解決はおぼつかない。この構造的弱点を克服して改善を推し進めていくことが各学部長・研究科長の責務であろう。そして、その解決に向けて学部長・研究科長を補佐して解決策を提案していくのが健康支援総合センターの責務であると考えている。そしてその具体的行動は第二次中期計画（資料番号20）に示してある。

以上学生の健康管理上の問題点と改善の方向性について述べた。

特に21年度に作成された第二次中期計画には改善策の具体案が明記してある。大学の執行部の先生方には、今回の報告書の中で述べられている第二次中期計画をじっくりとご覧いただき、健康支援総合センターの組織としての実態をまずは正確に認識して頂き、あるべき将来の姿をイメージしていただき財政的支援（具体的には非常勤カウンセラーおよび医学部配置の非常勤看護師の配置用経費）を賜りますようによろしくお願いいたします。

4.21 健康支援総合センター資料集

平成22年度 業務内容

1. 健康支援総合センターの主体業務

月	業 務	対 象	内 容
通 年	応急処置	突然発症の傷病 学生・教職員	医師・看護師による応急処置
	健康相談(身体的及び精神・心理的相談)	有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	センター職員による治療、検査、保健指導、カウンセリング、医療機関紹介
	生活習慣病対策指導	肥満学生	センター教授による、採血検査、血糖検査、医療機関紹介による臨床検査、定期的保健指導
	カウンセリング	有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	学外委嘱臨床心理士によるカウンセリング、医療機関紹介 ※桐生地区は半日週3回 荒牧、昭和地区は各週1日 ※太田地区は半日(15時～18時)週1回
		昭和キャンパス所属の有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	医学科各2名の教員によるカウンセリング、医療機関紹介
	※指導に低反応である学生を担当する教員への助言・相談	桐生キャンパス内の助言・相談希望教員	センター精神科医によるメンタルヘルスに関する個別的助言・相談 希望者の有る時に1カ月に1回を限度に桐生キャンパス内で実施
	※メンタルヘルス通信文の配信	全教職員	センターの精神科医を中心に、大学におけるメンタルヘルスに関する啓蒙の記事を1カ月に1回程度メールで配信
	整形外科・スポーツ障害相談 レディースクリニック	有症学生 有症女子学生	月2回程度 専門の学校医による 月1回程度 専門の学校医による
4 月	新生オリエンテーション	全学部の入学生	健康支援総合センターの案内 学外カウンセラーの紹介
	健康調査	入学生および編入生	健康状態記録票による調査
	学生の定期健康診断	教育学部、社会情報学部 医学部、工学部1年	既往歴、メンタルヘルスアンケート調査、身体計測、血圧測定、検尿、内科診察、胸部X線間接撮影「健康白書2010」作製用データ処理
	2年生以上学生へのメンタルヘルススクリーニング(アンケートで)	アンケートにより抽出された在学学生	医師による面談・カウンセリング、医療機関への紹介
	4月～2月 ※※B型肝炎ワクチン接種	医学部1学年生のウイルス抗体陰性者	3回は全員に接種、3回接種後の陰性者に4回目の接種を行い終了
4月～10月	学生の定期健康診断 二次検診	要再検者	血圧測定、学生検尿、心電図、医療機関紹介、未受検への連絡
5 月	新入生メンタルヘルススクリーニング	健康状態記録表により抽出した入学生及び編入生	医師による面談・カウンセリング、医療機関紹介
10月	外国人留学生の特別健康診断	4月から活動を開始した外国人留学生	3キャンパスで採血し、クオインティフェロンTB検査を行う
8月～2月	群馬県内大学等保健管理担当者会議	群馬県内の大学、高専の保健管理担当者	大学等における保健管理の主に事務上の問題解決に向けての研修、情報交換、事業を目的に年に2回の会議を開催
11月～2月	メンタルヘルス研究会	学内カウンセラー、厚生補導関係教職員、県内大学等の厚生補導関係教職員、メンタルヘルス担当関係者、学生	学外専門講師による講演と県内関係者連携会議

※ 平成21年10月より実施 ※※ 平成18年度より実施

2. 刊行事業

健康支援総合センターの案内原稿作成，新入生用健康管理用リーフレット作成

新入生用「健康ミニガイド」作成，メンタルヘルス研究会報告書作成，群馬大学大学教育・学生支援機構報告書に執筆

3. 諸会議

月	名 称	回数	主 な 議 題・備 考
4 月	健康支援総合センター運営委員会 (必要に応じて開催する)	随時	年度業務計画案等 学生定期健康診断日程表作成等 学生定期健康診断受検状況報告等 次年度学生定期健康診断日程等 概算要求関係・学内要求事項等 中期計画案・報告等
3 月			
	学生支援センター学生相談・生活部会	適時	専任教員が委員として出席
	大学教育・学生支援機構連絡会議	適時	センター長・副センター長が出席

4. 講義

「健康学原論」教養教育学生を対象にセンター医による講義（健康管理学）

90分間の講義を合計10回程度行っている。

5. 健康情報の発信

感染症、中毒など緊急の保健情報を全学に周知掲示する。

6. 研究集会等

名 称	回 数	出 席 者
全国大学保健管理研究集会	年1回	教員・看護師
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会	年1回	教員・看護師
北関東・甲信越地区メンタルヘルス研究協議会	年1回	教員・看護師
フイジカル・ヘルス・フォーラム	年1回	教員（内科医）
国立大学法人保健管理施設協議会総会	年1回	センター長
全国大学保健管理協会総会	年1回	教員
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健看護分科会運営委員会	年3回	看護師
北関東甲信越地区メンタルヘルス研究協議会運営委員会	年3回	教員（精神科医）
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会	年1回	教員・看護師
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会幹事会	年2回	教員
全国大学保健管理協会評議員会	年1回	教員

7. 学内行事等に伴う協力事業

月	行 事	対 象	内 容
4 月	(入学式)	学生・教職員・保護者等	救護
	群馬大学新任教員説明会	新任教員	学生へのメンタルヘルス対応法講話
5 月	教育学部体育大会	教育学部の学生及び教職員	救護
	関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験	受験者	救護
8 月	大学説明会	参加高校生	救護
10 月	新規採用職員研修	新規採用職員	健康管理講話/メンタルヘルス講義
	教職員の定期健康診断	荒牧地区(事務局・図書館・教育学部・社会情報学部)放送大学	身体計測. 血圧測定. 検尿 血液検査. 心電図. 内科診察 胸部X線間接撮影. 便潜血 喀痰等検査時の器材および 会場の提供
	社会情報学部スポーツ大会	社会情報学部の学生・教職員	救護
	(生涯生活設計セミナー)	4 5 歳以上の職員及び特に参加を希望する者	講演 (健康管理プラン)
11 月	推薦入学試験(教育・社会情報学部)	受験生	救護
12 月	(定年等退職予定者説明会)	定年等退職予定者	保健講話 (健康管理)
1 月	大学入試センター試験	受験生	救護
1 月 3 月	身体に障害を有する入学志願者との事前相談	該当受験希望者	受験可否の判断
	個別学力検査 (前期・後期)	(教育・社会情報)学部受験生	救護
	学位授与式	卒業生. 教職員. 保護者等	救護

() は必ずしも例年とは限らない。

8. 産業医業務 (教授が荒牧事業場の産業医を兼ねている)

内 容	回 数	業 務 内 容
職場巡視	毎月 1 回	職場巡視と巡視記録の作成
荒牧事業場安全衛生委員会出席	毎月 1 回	産業医としての提言

9. 学内教育・広報活動等の協力業務等

寄稿：学内情報誌等の依頼により健康支援総合センターより全学生、教職員向けに活動状況および健康管理情報を掲載

講演：上記 7. 以外に各学部より依頼の学生向けの健康管理に関する講話

10. 地域貢献事業

地域の各種団体の依頼により、教員が講演会等の講師や健康管理業務に参画する。

整理番号1

平成22年度 前橋地区学生定期健康診断日程表

受付時間 実施日	午 前		午 後		対象数(概数) 3,890人
	9:00 ～ 10:15 (75分)	10:15 ～ 11:30 (75分)	13:00 ～ 14:15 (75分)	14:15 ～ 16:00 (105分)	
4. 1 (木)	医学部(医学科・保健学科)2年		医学部(医学科・保健学科)3年		午前400人 午後400人
	医学部 医学科 5年				合計800人
	大学院 医学系 2～4年				
4. 2 (金)	医学部(医学科・保健学科)4年		社会情報学部2年	社会情報学部3年	午前435人 午後350人
	医学部 医学科 6年				合計785人
	大学院 医学系 2～4年				
4. 6 (火)	教育学部 2年		教育学部 3年		午前355人 午後350人
	教 育 学 部 4 年				合計705人
	(国語・社会 ・英語)	(数学・理科 ・技術)	(音楽・美術 ・保健体育)	(家政・教育・教育 心理・障害児教育)	
4. 7 (水)	社会情報学部 4年				午前295人 午後335人 合計 630人+α
	教育学部 1年		特別支援教育特別専攻科 大学院 教育学 1～2年		
			社会情報学部 1年		
			社会情報学部3年次編入生		
			大学院 社会情報学 1～2年		
			予 備 日		
4. 8 (木)	医学部医学科1年 ワクチン接種用採血あり		医学部保健学科1年 (検査・理学・作業) ワクチン接種用採血あり	医学部保健学科1年 (看護) ワクチン接種用採血あり	午前235人 午後205人
	大学院 医学系 1年		医学部医学科2年次編入生 医学部保健学科3年次編入生 ワクチン接種用採血あり		合計 440人+α
	予 備 日				
4. 9 (金)	工 学 部 1 年				午前255人 午後275人 合計530人
	生産システム	社会環境デザイン	応用化学・生物化学		
	環境プロセス	情報工学			
	機械システム		電気電子		

- 1) 健康診断項目：既往歴、身体計測、血圧測定、検尿、胸部X線撮影、内科診察、アンケート。
- 2) 健康診断会場：健康支援総合センター
- 3) 原則として割り当てられた日程で健康診断を受けてください。どうしても都合の悪い方は、予備日・予備時間を利用して受けて下さい。
- 4) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。
- 5) 学部第1年次生の健康診断日程については、当該年度の教養教育授業時間割により、同一健康診断日の範囲内で変更する場合があります。

* 4/5 (月) 全学共通オリエンテーション、昭和地区学生の再検査日
 * 4/6 (火) 入学式
 * 4/7 (水) 学部オリエンテーション

平成22年度 学生定期健康診断日程表（桐生・太田地区）

場所	項目	検 査 日	時 間	対 象	対象数(概数) 2, 830人
桐 生 キ ャ ン パ ス	胸部X線撮影及び検尿	4/13 (火)	13:00~18:00	4年生・大学院生 夜間主学生	830人
		4/14 (水)	9:00~11:30 13:00~16:00	3年生 大学院生	850人
		4/15 (木)	9:00~11:30 13:00~16:00	3年生 2年生	840人
	内科診察 及び 計測	4/20 (火)	13:00~17:00	3年生・4年生	700人
		4/21 (水)	15:00~18:00	大学院生・夜間主学生	430人
		4/22 (木)	13:00~17:00	2年生・大学院生	700人
		4/23 (金)	13:00~17:00	2年生・3年生	690人
太 田 キ ャ ン パ ス	全 項 目	5/11 (火)	18:15~19:30	夜間主学生	140人
		5/12 (水)	10:10~12:00	昼間学生・大学院生	170人

- ・クラスごとの実施割振りは、平成22年度前期授業時間割表により決定する。
- ・授業の空き時間を活用し、全ての実施時間が授業と重なった場合は休講措置とする。

1) 健康診断項目

4月13～15日 胸部X線撮影・検尿・アンケート
 4月20～23日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察
 5月11・12日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・胸部X線撮影・検尿

2) 健康診断会場

4月 桐生キャンパス体育館及び7号館
 5月 太田キャンパス教室

平成22年度 学生定期健康診断受検状況（荒牧・昭和地区）

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学 部 合 計	3,230	3,040	94.1%	3,035	94.0%
大学院等の合計	638	207	32.4%	204	32.0%
合 計	3,868	3,247	83.9%	3,239	83.7%

対象者数は平成22年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に教育学部特別聴講生4名、社会情報学部特別聴講生3名、工学部2年生1名、3年生1名が受検した。

<学部学生>

			対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
				受検者数	受検率	受検者数	受検率
教育学部	1年		228	228	100.0%	228	100.0%
	2年		225	216	96.0%	216	96.0%
	3年		226	219	96.9%	219	96.9%
	4年		246	226	91.9%	226	91.9%
	合計		925	889	96.1%	889	96.1%
社会情報学部	1年		101	101	100.0%	101	100.0%
	2年		108	93	86.1%	92	85.2%
	3年		122	112	91.8%	112	91.8%
	4年		133	107	80.5%	107	80.5%
	合計		464	413	89.0%	412	88.8%
医学部	医学科	1年	103	103	100.0%	103	100.0%
		2年	114	105	92.1%	104	91.2%
		3年	102	83	81.4%	83	81.4%
		4年	98	71	72.4%	71	72.4%
		5年	104	95	91.3%	95	91.3%
		6年	101	85	84.2%	82	81.2%
		合計	622	542	87.1%	538	86.5%
	保健学科	1年	167	167	100.0%	167	100.0%
		2年	166	164	98.8%	164	98.8%
		3年	188	180	95.7%	180	95.7%
		4年	179	174	97.2%	174	97.2%
		合計	700	685	97.9%	685	97.9%
	合 計		1,322	1,227	92.8%	1,223	92.5%
工学部	1年		519	511	98.5%	511	98.5%
学 部 合 計			3,230	3,040	94.1%	3,035	94.0%

<大学院学生>

			対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
				受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学研究科	修士課程	1年	23	21	91.3%	21	91.3%	
		2年	35	28	80.0%	28	80.0%	
	専門職学位課程	1年	18	9	50.0%	14	77.8%	
		2年	15	8	53.3%	4	26.7%	
教育学部特別支援教育特別専攻科			15	15	100.0%	12	80.0%	
合 計			106	81	76.4%	79	74.5%	
社会情報学研究科	修士課程	1年	14	9	64.3%	9	64.3%	
		2年	13	8	61.5%	8	61.5%	
	合 計		27	17	63.0%	17	63.0%	
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	16	15	93.8%	15	93.8%
			2年	13	6	46.2%	5	38.5%
		博士課程	1年	58	11	19.0%	11	19.0%
			2年	51	11	21.6%	11	21.6%
			3年	62	8	12.9%	8	12.9%
			4年	117	5	4.3%	5	4.3%
		合 計		317	56	17.7%	55	17.4%
	保健学専攻	博士前期課程	1年	57	28	49.1%	28	49.1%
			2年	57	17	29.8%	17	29.8%
		博士後期課程	1年	17	5	29.4%	5	29.4%
			2年	15	2	13.3%	2	13.3%
			3年	42	1	2.4%	1	2.4%
		合 計		188	53	28.2%	53	28.2%
	合 計		505	109	21.6%	108	21.4%	
大学院等の合計			638	207	32.4%	204	32.0%	

平成22年度 学生定期健康診断受検状況(桐生・太田地区)

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿	
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
工 学 部	昼 間	2年	552	496	89.9	515	93.3
		3年	621	516	83.1	543	87.4
		4年	577	535	92.7	544	94.3
		昼間計	1,750	1,547	88.4	1,602	91.5
	夜 間 主	1年	34	32	94.1	32	94.1
		2年	30	19	63.3	19	63.3
		3年	37	16	43.2	16	43.2
		4年	63	32	50.8	32	50.8
		夜間計	164	99	60.4	99	60.4
	学 部 計		1,914	1,646	86.0	1,701	88.9
工 学 研 究 科	修 士	1年	403	394	97.8	394	97.8
		2年	363	324	89.3	333	91.7
		修士計	766	718	93.7	727	94.9
	博 士	1年	33	23	69.7	23	69.7
		2年	32	15	46.9	14	43.8
		3年	56	23	41.1	23	41.1
		博士計	121	61	50.4	60	49.6
	研 究 科 計		887	779	87.8	787	88.7
合 計		2,801	2,425	86.6	2,488	88.8	

※対象者数は、4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は、小数点第二位を四捨五入

整理番号 5

平成22年度 学生定期健康診断における疾患別要観察者
(継続観察者を含む)

		要 管 理 者			疾患別 合 計
		男	女	合 計	
循 環 器 疾 患	高血圧	4	1	5	33
	高血圧疑い	2		2	
	低血圧		2	2	
	先天性心疾患	8	5	13	
	W P W	3	3	6	
	心電図異常	2	1	3	
	その他		2	2	
呼 吸 器 疾 患	気管支喘息	15	12	27	31
	気胸	4		4	
消 化 器 疾 患		3	2	5	5
腎・泌尿器疾患	慢性腎炎	1	1	2	15
	IgA腎症		2	2	
	蛋白陽性	1	1	2	
	潜血陽性	6	1	7	
	その他	1	1	2	
代 謝 疾 患	肥満	228	69	297	689
	やせ	138	247	385	
	1 型糖尿病	1	1	2	
	腎性糖尿	3		3	
	高脂血症	2		2	
内 分 泌 疾 患	バセドウ氏病	2	2	4	9
	橋本病		2	2	
	その他		3	3	
血 液 疾 患		1	2	3	3
神 経 ・ 筋 疾 患	片頭痛	1	2	3	9
	てんかん		3	3	
	その他		3	3	
膠 原 病 お よ び 類 縁 疾 患		1	5	6	6
アレルギー性疾患	アトピー性皮膚炎	22	19	41	87
	アレルギー性鼻炎	12	7	19	
	花粉症	11	14	25	
	その他	1	1	2	
精 神 疾 患		4	7	11	11
整 形 外 科 疾 患		1	4	5	5
皮 膚 疾 患			5	5	5
眼 科 疾 患		5	3	8	8
耳 鼻 科 疾 患		2	2	4	4
歯科・口腔外科疾患			1	1	1
産 婦 人 科 疾 患			27	27	27
合 計		485	463	948	948

平成 22 年度 学生定期健康診断結果

(1) 身体測定

	受検者数	結 果							
		やせ		正常		肥満			
		BMI 18.6未満		BMI 18.6～24.9		BMI 25.0～29.9		BMI 30.0以上	
		人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
教 育 学 部	970	83	8.6%	777	80.1%	79	8.1%	31	3.2%
社会情報学部	430	69	16.0%	325	75.6%	32	7.4%	4	0.9%
医 学 部	1,336	174	13.0%	1,083	81.1%	72	5.4%	7	0.5%
工 学 部	511	59	11.5%	380	74.4%	65	12.7%	7	1.4%
合 計	3,247	385	11.9%	2,565	79.0%	248	7.6%	49	1.5%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果					
		正常血圧		高血圧疑い		低血圧症	
		人 数	%	人 数	%	人 数	%
教 育 学 部	970	942	97.1%	28	2.9%	0	0.0%
社会情報学部	430	418	97.2%	12	2.8%	0	0.0%
医 学 部	1,336	1,314	98.4%	20	1.5%	2	0.1%
工 学 部	511	503	98.4%	8	1.6%	0	0.0%
合 計	3,247	3,177	97.8%	68	2.1%	2	0.1%

2) 二次検査

	対象者数	結 果				精 密 検 査 結 果			
		正常血圧	経過観察	要精査	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
教 育 学 部	28	26	0	1	1	0	1	0	0
社会情報学部	12	11	0	0	1	0	0	0	0
医 学 部	20	14	1	4	1	0	1	2	1
工 学 部	8	8	0	0	0	0	0	0	0
合 計	68	59	1	5	3	0	2	2	1

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽 性 項 目 内 訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
教 育 学 部	970	20	2.1%	4	7	0	9
社会情報学部	430	13	3.0%	3	6	0	4
医 学 部	1,336	18	1.3%	4	7	1	6
工 学 部	511	9	1.8%	3	4	0	2
合 計	3,247	60	1.8%	14	24	1	21

2) 二次検査

	対象者数	結 果						精 密 検 査 結 果				
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	蛋白・潜血陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備 考
教 育 学 部	20	14	0	2	0	2	2	2	1	0	1	腎性糖尿 2 名
社会情報学部	13	12	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
医 学 部	18	3	1	3	1	0	2	0	4	0	1	IgA腎症疑い 1 名 起立性蛋白尿 1 名
工 学 部	9	5	0	3	0	1	0	1	3	0	0	腎性糖尿 1 名
合 計	60	34	1	9	1	3	4	3	9	0	2	

(4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		精 密 検 査 結 果			備 考
		人 数	%	異常なし	経過観察	要治療	
教 育 学 部	968	2	0.2%	2	0	0	
社会情報学部	429	1	0.2%	0	0	1	結核 1 名
医 学 部	1,331	1	0.1%	1	0	0	
工 学 部	511	0	0.0%	0	0	0	
合 計	3,239	4	0.1%	3	0	1	

(5) 内科診察

	受検者数	要 精 検						精 密 検 査 結 果			
		心雑音		貧血（眼瞼結膜所見）		甲状腺腫		異常なし	経過観察	要治療	備 考
		人 数	%	人 数	%	人 数	%				
教 育 学 部	970	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0			
社会情報学部	430	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0			
医 学 部	1,336	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1			
工 学 部	511	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	3			
合 計	3,247	4	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	0	0	

(6) 心電図検査

健康診断時に心雑音が聴取されず不整脈が理学的に認められたり、過去の心電図検査において異常を指摘されたが確定診断が不明である者を対象とした。

	対象者数	検 査 結 果			精 密 検 査 結 果				
		正常範囲	要精検	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備考
教 育 学 部	2	2	0	0	0	0	0	0	
社会情報学部	3	2	1	0	0	0	0	1	
医 学 部	1	1	0	0	0	0	0	0	
工 学 部	4	3	1	0	1	0	0	0	
合 計	10	8	2	0	1	0	0	1	

(7) 健康支援総合センターでの精密検査

	受検者数	結 果		
		異常なし	要教育者	要治療
血糖・脂質測定	67	26	41	0
糖 負 荷 試 験	3	3	0	0
合 計	70	29	41	0

異常なし：異常な理学的所見はあるが、精密検査の結果、放置してもよい病態と診断された者

要教育者：治療を直ちに行う程ではないが、センターで健康教育および定期的な医療機関での観察を要すると診断された者。

要 治 療：医療機関での治療が必要と判断された者

整理番号 7

平成22年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去10年間に於いて感染性結核症の学生が3名発生し、すべて外国人留学生であった。そのため、第8回健康支援総合センター運営委員会（平成21年8月3日開催）において、外国人留学生に対しクオンティフェロンTB（結核感染診断マーカー検査）を特別健康診断項目として行うことが決定された。

1. 受検状況

	対象者数	受検者		未受検者内訳
		人数	%	
教育学部	15	15	100.0%	
社会情報学部	27	27	100.0%	
医学部	14	13	92.9%	帰国中(1名)
工学部	113	110	97.3%	帰国中(1名)、退学予定(1)
国際教育・研究センター	0	0		
合 計	169	165	97.6%	

対象者：学部および大学院1年生、学部3年次編入生

2. クオンティフェロンTBゴールド検査結果

	受検者数	陰性(－)		陽性(＋)		疑陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	15	13	86.7%	1	6.7%	1	6.7%
社会情報学部	27	23	85.2%	3	11.1%	1	3.7%
医学部	13	12	92.3%	1	7.7%	0	0.0%
工学部	110	94	85.5%	6	5.5%	10	9.1%
国際教育・研究センター	0	0		0		0	
合 計	165	142	86.1%	11	6.7%	12	7.3%

3. メンタルヘルス質問票による精神保健調査

	受検者数	問題なし		カウンセラー紹介	
		人数	%	人数	%
教育学部	15	15	100.0%	0	0.0%
社会情報学部	27	27	100.0%	0	0.0%
医学部	13	13	100.0%	0	0.0%
工学部	110	109	99.1%	1	0.9%
国際教育・研究センター	0	0		0	
合 計	165	164	99.4%	1	0.6%

平成22年度 医学部1年ウイルス性疾患(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)抗体価検査

検査項目	受検者数	陰性		陽性	
		人数	%	人数	%
麻疹抗体	269	15	5.6%	15	5.6%
風疹抗体	269	13	4.8%	13	4.8%
水痘抗体	269	10	3.7%	10	3.7%
流行性耳下腺炎抗体	269	46	17.1%	46	17.1%

～備考～

- ・1種のウイルスに対して抗体価陰性者は76名(17.1%)
- ・2種のウイルスに対して抗体価陰性者は 4名(1.5%)
- ・3種のウイルスに対して抗体価陰性者は 0名

* 学科別内訳

学 科	検査項目	受検者数	陰性		陽性	
			人数	%	人数	%
医学科	麻疹抗体	102	7	6.9%	95	93.1%
	風疹抗体	102	10	9.8%	92	90.2%
	水痘抗体	102	5	4.9%	97	95.1%
	流行性耳下腺炎抗体	102	16	15.7%	86	84.3%
保健学科	麻疹抗体	167	8	4.8%	159	95.2%
	風疹抗体	167	3	1.8%	164	98.2%
	水痘抗体	167	5	3.0%	162	97.0%
	流行性耳下腺炎抗体	167	30	18.0%	137	82.0%

平成22年度 医学部1年クオンティフェロンTB-2G検査

受検者数	陰性		陽性		判定不能	
	人数	%	人数	%	人数	%
269	267	99.3%	1	0.4%	1	0.4%

平成22年度 医学部1年B型肝炎ワクチン接種状況

(1) B型肝炎抗体価検査結果(4月)

受検者数	結果			
	陰性		陽性	
	人数	%	人数	%
269	265	98.5%	4	1.5%

(2) B型肝炎ワクチン接種

接種対象者数	接種人数			副作用	
	1回目(6月)	2回目(7月)	3回目(11月)	人数	症状
261	261	261	260	1	発熱

整理番号 9

平成 2 2 年度 利用人数

所属学部等		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教 育 学 部	53	60	60	72	15	12	24	50	26	27	9	8	416
	社会情報学部	27	24	25	25	8	2	17	16	19	17	7	4	191
	医 学 部	20	25	32	18	2	1	15	10	19	12	4	1	159
	工 学 部	16	21	61	20	6	2	22	28	15	19	5	0	215
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医 学 部	17	8	16	15	4	5	10	8	9	6	1	2	101
桐生・太田キャンパス	工 学 部	2	1	0	1	3	1	0	2	1	1	1	1	14
合 計		135	139	194	151	38	23	88	114	89	82	27	16	1,096

整理番号 1 0

平成 2 2 年度 利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康相談	110	116	155	108	22	9	72	75	63	59	15	6	810
精神保健相談	22	22	41	36	14	14	17	38	26	23	11	9	273
健康診断書発行	5	1	4	9	2	0	0	1	0	0	1	1	24
合 計	137	139	200	153	38	23	89	114	89	82	27	16	1,107

整理番号 1 1

平成 2 2 年度 健康相談・精神保健相談の対応内容

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
健康相談	肥 満 治 療	1	14	40	28	5	0	22	30	23	14	0	0	177	
	スポーツ障害・整形外科相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レディースクリニック	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	4	
	外 傷 処 置	16	8	10	5	0	1	1	2	3	2	0	0	48	
	検 査	3	13	2	7	1	1	1	16	7	2	2	1	56	
	投 薬	34	41	61	25	5	4	8	25	25	18	8	5	259	
	休養ベッド使用	8	9	4	7	3	1	4	1	1	2	2	0	42	
	健康・保健用器具貸し出し	1	12	22	4	1	0	4	1	1	0	1	0	47	
	医 療 機 関 紹 介	35	24	30	28	3	2	19	13	4	17	4	0	179	
救 急 転 送	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
精神相談	カウンセリング (荒牧, 昭和分)	准 教 授	12	11	27	22	11	11	9	23	16	13	6	7	168
		カウンセラー	10	11	14	14	3	3	8	15	10	10	5	2	105
	カウンセラー紹介		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	投 薬		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医 療 機 関 紹 介		2	1	4	3	1	0	0	1	2	1	0	1	16

整理番号 1 2

平成 2 2 年度 疾病領域別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循 環 器 系	4	9	3	1	0	0	2	0	1	4	0	0	24
	呼 吸 器 系	43	30	45	10	1	2	16	21	14	28	6	4	220
	消 化 器 系	8	6	10	11	5	4	2	4	5	7	0	1	63
	腎 臓 系	0	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	6
	内分泌・代謝系	5	15	41	28	5	0	22	28	14	15	1	1	175
	そ の 他	13	15	14	20	6	1	2	4	16	4	3	0	98
精 神 科		22	23	47	36	18	14	21	40	27	26	12	9	295
外科・整形外科		24	22	26	19	8	3	16	6	6	6	3	0	139
脳 神 経 外 科		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
泌 尿 器 科		1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	5
耳 鼻 咽 喉 科		0	4	2	2	1	0	2	2	3	1	0	0	17
眼 科		3	5	6	0	2	0	3	3	1	0	1	0	24
皮 膚 科		17	13	11	15	4	0	4	5	2	1	0	0	72
歯科・口腔外科		0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
産 婦 人 科		1	0	2	5	0	0	4	2	4	1	2	0	21
合 計		142	144	210	149	50	24	94	118	98	93	29	15	1,166

整理番号 1 3

平成 2 2 年度 医療機関紹介の診療科分類

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
内 科	循 環 器 系	4	1	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	10
	呼 吸 器 系	13	2	3	2	0	0	1	1	0	11	2	0	35
	消 化 器 系	2	1	4	2	0	1	0	2	0	0	0	0	12
	腎 臓 系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	そ の 他	1	0	1	7	0	0	1	0	1	0	0	0	11
	精 神 科	2	1	5	3	1	0	0	1	2	1	0	1	17
	外科・整形外科	8	7	8	5	1	1	6	3	2	4	1	0	46
	脳 神 経 外 科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	泌 尿 器 科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	耳 鼻 咽 喉 科	1	4	2	2	0	0	2	2	1	1	0	0	15
	眼 科	3	3	3	0	1	0	3	1	0	0	0	0	14
	皮 膚 科	3	6	5	8	2	0	2	3	0	1	1	0	31
	歯科・口腔外科	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
	産 婦 人 科	1	0	2	2	0	0	3	0	0	1	0	0	9
	合 計	39	25	38	32	5	2	19	14	8	21	4	1	208

整理番号 1 4

平成 2 2 年度 精神保健相談者数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
荒牧キャンパス	教 育 学 部	7	9	18	15	6	6	4	17	6	6	4	3	101
	社会情報学部	2	2	3	7	1	1	1	8	6	6	4	3	44
	医 学 部	3	4	7	6	0	0	2	6	9	4	1	0	42
	工 学 部	1	2	4	2	1	1	1	1	1	1	0	0	15
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医 学 部	8	5	9	6	3	6	9	6	4	5	1	2	64
桐生キャンパス	工 学 部	1	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	1	7
	合 計	22	22	41	36	14	14	17	38	26	23	11	9	273

ほかに教職員の総数 2 2 名に対して応急措置としての精神保健相談を行った。

整理番号 1 5

平成 2 2 年度 精神保健相談内容

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
心理性格	2	4	9	5	3	1	1	4	2	2	1	1	35
対人関係	4	6	9	13	1	1	4	9	6	4	2	0	59
心体の不調	16	16	30	21	13	10	8	27	14	16	4	5	180
修学	4	1	6	10	3	3	7	4	6	8	6	3	61
その他	2	2	8	2	0	1	3	2	1	1	1	1	24
合 計	28	29	62	51	20	16	23	46	29	31	14	10	359

1 回の相談につき、相談内容が複数の場合があります。

整理番号 1 6

平成 2 2 年度 薬剤別使用数（処方日数による）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
抗 生 剤	12	14	14	0	8	3	3	0	11	3	6	5	79
解熱・消炎・鎮痛剤	43	30	21	0	3	3	3	16	14	12	11	0	156
感 冒 剤	62	63	88	5	5	5	21	48	32	37	8	9	383
気管支拡張剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健胃剤・抗潰瘍剤	0	6	19	8	8	0	0	3	2	12	2	3	63
整 腸 剤	3	3	0	9	3	3	0	3	3	11	0	0	38
止 瀉 剤	8	0	0	2	0	0	0	0	8	0	0	0	18
鎮 吐 剤	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
抗ヒスタミン剤	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
精 神 安 定 剤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
含 嗽 剤	1	3	7	0	1	1	0	1	1	0	0	0	15
口腔内塗布剤	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
外用副腎皮質ホルモン剤	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
外用抗生剤	6	3	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	20
外用抗ウイルス剤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外用抗ヒスタミン剤	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
外用消炎剤	3	8	11	5	0	1	3	0	3	1	1	0	36
点 眼 薬	0	2	3	0	1	0	0	3	1	0	1	0	11
解熱消炎鎮痛坐薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 液	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
合 計	142	137	175	39	31	16	30	75	78	76	29	17	845

整理番号 1 7

平成 2 2 年度 常備薬使用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
ケブラール	18	54	36	0	6	0	0	0	36	0	18	0	168	301
タリビット	36	0	27	0	30	15	9	0	5	3	0	0	125	
クラビット					0	0	0	0	0	0	3	5	8	
スバラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボルタレン	129	90	39	0	0	9	9	45	27	27	18	0	393	433
カロナール	0	0	0	0	9	0	0	3	0	9	9	0	30	
インデパンsp	0	0	5	0	0	0	0	0	2	0	3	0	10	
S G 顆粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
P L 顆粒	186	167	254	15	15	15	51	144	69	111	24	27	1,078	1,078
メブチンエア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セルベックス	0	18	57	12	24	0	0	9	2	36	2	9	169	173
タケブロン	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
ラックビー微粒N	9	9	0	27	9	9	0	9	9	33	0	0	114	114
ロベミン	24	0	0	6	0	0	0	0	21	0	0	0	51	51
ブリンベラン	0	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12
ジルテック	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
セルシン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
イソジンガーグル	1	3	7	0	1	1	0	1	1	0	0	0	15	15
デスパ	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	4
アフタッチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コルテスクリーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
リンデロンVG	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
デルモベートクリーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
エリスロシン軟膏	6	3	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	16	20
ゲンタシン軟膏	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
アラセナーA軟膏	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
レスタミン	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
MS湿布	3	9	21	9	1	2	3	0	3	1	1	0	53	53
タリビット点眼薬	0	2	3	0	0	0	0	3	1	0	1	0	10	10
インダシン s p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生理食塩水	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2
ソルデム 3 A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	416	366	461	83	97	51	72	215	179	220	79	41	2,280	2,280

平成22年度 精神保健調査

これまでの健診質問は、新入生版が約100項目あり、記入漏れやミス回答が目立った。
内容的にも重複があり、不必要な項目が存在したため、本年度は全面的な見直しをおこなった。
以前から用いていた抑うつ状態チェック項目の中で、統計的解析により重要な因子として抽出されたものを選び、さらに躁的気分や食行動、妄想などを把握する質問を加えた。新入生版が35項目、在校生版が20項目と、従来より減って答えやすくなった。在校生版には、カウンセラーなどへの相談希望を記入する質問も追加した。この新しいGUMI(Gunma University Mental-healthInventory)を導入し、学生の精神的健康をチェックする機能を検証し、よりよいアドバイスや支援を目指していく。

(1) 新入生の精神保健調査

新入生の精神保健調査は、入学時提出の健康状態記録票を基に要面接学生を抽出し、健康支援総合センター准教授、臨床心理士および附属病院精神科医師8名との面接をすすめた。

対象学生は、各学部入学生の健康状態記録票提出者とし、大学院入学生(医学部・工学部を除く)、特別支援教育特別専攻科、編入生(社会情報学部・医学部・工学部)、工学部夜間1年生を含めた。

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	276	24	8.7%	11	3	5	3	0	0
社会情報学部	128	6	4.7%	2	1	1	0	0	0
医 学 部	296	24	8.1%	8	4	2	2	0	0
工 学 部	579	27	4.7%	11	5	5	1	0	0
合 計	1,279	81	6.3%	32	13	13	6	0	0

(2) 在校生の精神保健調査

本調査は、健康診断時に在校生版メンタルヘルス質問票に記入してもらい、要面接学生を抽出し、健康支援総合センター准教授、臨床心理士が面接を行った。対象学生は、荒牧・昭和・桐生・太田地区の健康診断時に在校生版メンタルヘルス質問票を提出した学生とした。

	対象学生数	要面接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	618	23	3.7%	19	9	4	5	1	0
社会情報学部	262	12	4.6%	9	5	2	1	0	1
医 学 部	967	28	2.9%	21	12	4	5	0	0
工 学 部	2,097	62	3.0%	34	11	14	0	4	5
合 計	3,944	125	3.2%	83	37	24	11	5	6

(3) 追記:

面接実施状況について

面接施行にあたって、准教授が桐生キャンパスに4回、太田キャンパスに1回赴いた。

臨床心理士は、昭和キャンパスと桐生キャンパスの定期相談日に面接を施行した。

附属病院医師には、荒牧キャンパスに2週間にわたって順次来所していただき面接をお願いした。

整理番号 19

学外臨床心理士による心理カウンセリング数《平成22年度》

～学生～

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	3	7	3	6	2	1	2	6	5	5	3	1	44
昭和地区	5	3	4	6	1	1	4	2	4	1	1	1	33
桐生地区	9	13	13	13	9	11	12	10	18	13	13	13	147
太田地区	2	0	2	3	0	1	0	1	1	0	0	1	11
合 計	19	23	22	28	12	14	18	19	28	19	17	16	235

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	5	8	4	7	2	2	2	13	6	7	4	1	61
昭和地区	5	3	5	7	1	1	6	2	4	3	1	1	39
桐生地区	22	20	26	24	19	20	20	22	25	21	20	22	261
太田地区	2	0	2	6	0	1	0	1	2	0	0	1	15
合 計	34	31	37	44	22	24	28	38	37	31	25	25	376

カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
対人関係	8	9	13	15	12	10	11	15	14	5	8	7	127
心体の不調	18	12	11	12	3	7	7	11	9	14	8	7	119
修学影響心理等	7	9	10	13	7	4	7	8	11	9	8	9	102
そ の 他	1	1	3	4	0	3	3	4	2	3	1	2	27
合 計	34	31	37	44	22	24	28	38	37	31	25	25	376

～職員～

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	5
昭和地区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
桐生地区	1	0	4	1	3	2	4	2	2	3	1	0	23
太田地区	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
合 計	2	0	7	1	4	2	6	2	3	5	1	0	33

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	5
昭和地区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
桐生地区	1	0	4	1	3	3	4	2	2	3	2	0	25
太田地区	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
合 計	2	0	7	1	4	3	6	2	3	5	2	0	32

カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
心体の不調	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
修学影響心理等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	2	0	5	1	3	3	5	2	3	4	2	0	30
合 計	2	0	7	1	4	3	6	2	3	5	2	0	35

1回のカウンセリングにつき、動機内訳が複数の場合があります。

群馬大学保健管理センター規程

(昭和 52. 7.25 制定)

改訂 昭和 58. 4. 1 昭和 60. 4. 1
平成 8. 4. 1 平成 10. 2. 1
平成 12. 4. 1

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、群馬大学学則第 11 条の規定に基づき、群馬大学保健管理センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第 2 条 センターは、学生及び職員の健康の健康の保持増進を図り、その将来にわたる健康の確保に寄与することを目的とする。

(業 務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の定期及び臨時の健康診断を実施すること。
- (2) 職員の定期健康診断等の保健に関する専門的業務の実施について協力すること。
- (3) 身体的及び精神的健康相談に応じ、応急処置又は保健指導等を行うこと。
- (4) 保健思想の普及及び啓蒙等の健康の保持増進上必要な教育・指導を行うこと。
- (5) 健康の保持増進について必要な企画、立案について指導助言を与えること。
- (6) 学内の環境衛生及び伝染病の予防について指導助言を行うこと。
- (7) 保健管理の充実向上のための調査研究を行うこと。
- (8) その他健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

(組 織)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) 所長
- (2) 専任教官
- (3) 学校医
- (4) カウンセラー
- (5) 技術職員
- (6) その他必要な職員

(所 長)

第 5 条 所長は、本学の教授又は助教授をもって充てる。

2 所長は、センターの業務を掌理する。

3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。

4 所長及び専任教官の選考は、群馬大学保健管理センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）の議に基づき、学長が行う。

(保 健 管 理 医)

第 6 条 保健管理医は、センターの専任教官をもって充てる。

2 保健管理医は、センターの専門的業務に従事する。

(技 術 職 員)

第 7 条 技術職員は、センターの技術的業務に従事する。

(運 営 委 員 会)

第 8 条 センターの円滑な運営を図るため、群馬大学保健管理センター運営委員会を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(分 室)

第 9 条 保健管理上必要があるときは、センターに分室を設けることができる。

(事 務)

第 10 条 センターの運営に関する事務は、当分の間、学生部厚生課において処理する。

(規 程 の 改 廃)

第 11 条 この規程の改廃は、管理委員会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

保健管理センターの設置について

〔 昭和四十一年五月二十日 〕
〔 文部省大学学術局 〕

1 設置の趣旨

保健管理センターは、大学の保健管理に関する専門的業務を一体的に行う厚生補導のための施設として設置し、学生の心身の健康の保持増進をはかることを目的とする。

2 業務内容

保健管理センターにおいては、概ね次のような業務を行うものとする。

- ① 学生の定期及び臨時の健康診断の業務を行うこと。
- ② 学生のため随時健康相談に応じること。
- ③ 学生に対し健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導を行うこと。
- ④ 学内の環境衛生及び伝染病の予防について指導援助すること。
- ⑤ 学内保健計画の立案について指導援助すること。
- ⑥ 保健管理の充実向上のための調査研究を行うこと。
- ⑦ その他学生の健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

3 施設及び設備

保健管理センターの施設及び設備は、「国立大学における厚生補導に関する基準的な施設・設備（昭和40年2月学生課作成）」に規定する保健管理センターの施設及び設備を標準として整備するものとする。

4 組織及び運営

- ① 保健管理センターは、学部には属しない全学共通施設とする。
- ② 保健管理センターに所長を置き、教授又は助教授をもってあてゐるものとする。所長は、保健管理センターの所務を掌理するものとする。
- ③ 保健管理センターに所長のほか、教授、助教授、講師又は助手及び技術職員を置くものとする。
- ④ 保健管理センターの運営については、必要に応じ、その審議にあたるものとして保健管理センター運営委員会を置くものとする。

平成 2 2 年 度 学 校 医 ・ カ ウ ン セ ラ ー

学 校 医 (通 年)

医 学 部 保 健 学 科 教 授	渡 邊 秀 臣
医 学 部 保 健 学 科 教 授	土 橋 邦 生
医 学 部 附 属 病 院 講 師	石 塚 全
医 学 部 附 属 病 院 講 師	須 賀 達 夫
医 学 部 医 学 系 研 究 科 助 教	内 海 英 貴
医 学 部 附 属 病 院 教 授	田 村 遵 一
医 学 部 附 属 病 院 教 授	萩 原 周 一
医 学 部 附 属 病 院 講 師	五 十 嵐 茂 雄

精 神 科 医 (メ ン タ ル ヘ ル ス ス ク リ ー ニ ン グ)

医 学 部 附 属 病 院 講 師	米 村 公 江
医 学 部 附 属 病 院 助 教	間 島 竹 彦
医 学 部 附 属 病 院 助 教	成 田 耕 介
医 学 部 附 属 病 院 助 教	亀 山 正 樹
医 学 部 医 学 系 研 究 科 助 教	結 城 直 也
医 学 部 医 学 系 研 究 科 助 教	成 田 秀 幸
医 学 部 附 属 病 院 助 教	高 橋 啓 介
医 学 部 附 属 病 院 助 教	武 井 雄 一

カ ウ ン セ ラ ー

医 学 部 附 属 病 院 講 師	米 村 公 江
医 学 部 附 属 病 院 助 教	間 島 竹 彦

第10回（平成22年度第1回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成22年6月23日（水） 10時00分 ～

2 場 所 教養教育GB棟2階大会議室

3 議 題

○ 協議事項

- (1) 平成23年度学生の定期健康診断日程（案）について 【資料1】
- (2) 定期健康診断時の派遣医師の依頼範囲について 【資料2】
- (3) 工学部のキャンパスソーシャルケースワーカーの平成23年度以降の
取扱いについて 【資料3】
- (4) 各学部等提出の協議事項について
- (5) その他

○ 報告事項

- (1) 平成22年度学生定期健康診断結果について 【資料4】
- (2) 平成22年度の胸部異常陰影者と平成21年度留学生の特別健康診断
での結核感染検査結果の相関について 【資料5】
- (3) 平成20年度業務報告書の発行について 【資料6】
- (4) 平成21年度健康支援総合センター業務実施データについて 【資料7】
- (5) 第2期中期計画平成22年度実施計画について 【資料8】
- (6) 平成21年度メンタルヘルス研究会松本俊彦氏講演会報告書について 【資料9】
- (7) メンタルヘルス用自己管理CD等の配付及びキャンパスソーシャル
ワーカーの配置について 【資料10】
- (8) ホームページ健康支援総合センターメンタルヘルス部門へのリンクに
ついて 【資料11】
- (9) 障害学生支援室発足に伴う関連教員について 【資料12】
- (10) その他

第11回（平成22年度第2回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成22年12月20日（月） 10時30分～

2 場 所 事務局棟3階中会議室

3 議 題

○ 協議事項

- (1) 平成23年度健康支援総合センター業務計画（案）について 【資料1】
- (2) 外国人留学生特別健康診断に関する取扱い（案）について 【資料2】
- (3) 平成23年度キャンパスソーシャル・ケースワーカーの桐生キャンパスへの配置及び平成23年度工学部学修支援ピアサポートの実施について 【資料3】
- (4) その他

○ 報告事項

- (1) 平成21年度健康支援総合センター業務報告の作成について 【資料4】
- (2) 平成22年度健康支援総合センター中期目標・中期計画の中間実施結果について 【資料5】
- (3) 平成23年度学生定期健康診断担当附属病院医師の派遣依頼について 【資料6】
- (4) 平成22年度外国人留学生特別健康診断実施結果について 【資料7】
- (5) 平成22年度メンタルヘルス研究会開催結果について 【資料8】
- (6) 平成22年度メンタルヘルス通信の配信状況について 【資料9】
- (7) 平成22年度全国大学保健管理協会及び研究集会参加報告について 【資料10】
- (8) 平成22年度保健管理実務者関連委員会等参加報告について 【資料11】
- (9) 平成22年度メンタルヘルス研究協議会参加報告について 【資料12】
- (10) DVD版「私らしさよ、こんにちは」の貸し出しについて 【資料13】
- (11) その他

第二期中期目標・中期計画に係る6年間の実施予定計画

基本方針

1. 第1期に引きつぎ現有的健康支援総合センターの教職員の能力を活用した学生への健康管理施策の改善を継続する。
2. 学生の健康管理に関する教職員が絶対的に不足している桐生地区についてはカウンセラーの常駐化で対応するようにする。
3. 学生用の医療職が配置されていない昭和地区においては保健師等の配置の可能性について結論を得る。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
7 メンタルヘルスの充実のために学生に係る精神保健調査・カウンセリング実施評価方法等の調査・検討を行う。	1. 学生定期健康診断における精神保健調査項目の改定を検討する。 2. 精神面等による休学者への精神保健調査を検討する。 3. 留学生への精神保健調査を検討する。 4. カウンセリング実施結果の評価方法等の検討を行う。	1. 改訂した精神保健調査項目により学生定期健康診断に調査する。 2. 精神面等による休学者への精神保健調査を行う。 3. 留学生への精神保健調査を行う。 4. 新たな評価方法によりカウンセリング実施結果の評価を行う。	→	→	→	→
8 健康支援拡充用保健師の配置及びメンタルヘルスの充実のためにカウンセラー（臨床心理士）の担当時間増を図る。		1. 工学部担当カウンセラー等の居間授業期間中における常駐化を検討する。	→	→	→	1. 工学部担当カウンセラー等の居間授業期間中における常駐化を図る。 2. 昭和地区健康支援担当保健師等の配置の可能性の結論を得る。
9 健康相談の充実を図る。	1. 教員への精神相談コンサルテーションの試行を行う。 2. メンタルヘルス担当専門者間でのカンファレンスを実施する。 3. 学生のメンタルヘルスに関するピアサポート計画の策定を行う。 4. 群馬県内大学等メンタルヘルス関係者ネットワークの立ち上げを行う。	1. 教員への精神相談コンサルテーションの試行結果の改善を行う。 → 3. 学生のメンタルヘルスに関するピアサポートを試行する。 4. 群馬県内大学等メンタルヘルス関係者ネットワークの活動を開始する。	→	→	→	→
			2. 昭和地区健康支援担当保健師等の配置の可能性を検討する。 1. 教員への精神相談コンサルテーションを行う → 3. 学生のメンタルヘルスに関するピアサポートを実施する。 4. 群馬県内大学等メンタルヘルス関係者ネットワークの活動を開始する。	→	→	→
				4. 群馬県大学等メンタルヘルス研究会の活動を開始する。	→	→

平成 2 2 年度

健康支援総合センター運営委員会委員名簿

平成 2 2 年 4 月 1 日

所 属・職 名	委 員			関 係 職 員		
	氏 名	内 線	規定第3条	職 名	氏 名	内 線
センター長・委員長 理 事(病院担当)	石 川 治 osamuish@med.	8280	1 号委員	看 護 師	八重樫 聡 子	7161
副センター長 健康支援総合センター専任教員	大 島 喜 八 kihachi@aramaki.	7160	2 号委員			
健康支援総合センター 健康支援総合センター専任教員	上 原 徹 toruaki@	7162	3 号委員			
教育学部 学生支援委員長	上 原 景 子 kuehara@edu.	7354	4 号委員	教務係長	石 森 正 二	7223
社会情報学部 学 生 委 員	荒 木 詳 二 tiger@si.	7465	4 号委員	教務係長	國 松 太 郎	7404
医学系研究科医科学専攻 教務部会長	田 村 遵 一 jtamura@showa.	8665	4 号委員	学生支援係長	西 川 二 郎	7796
医学部保健学科 厚生補導専門委員長	小河原 はつ江 Ogawara@health.	8938				
工 学 部 国際交流・学生支援 委員長	志 賀 聖 一 shiga@me.	1514	4 号委員	学生支援係長	吉 田 潔	1023
				看 護 師	小野里 清 美	1044
総 務 部 長	堀 川 光 久 mhoru@jimu.	7002	5 号委員	福利係長	加 藤 守	7028
学 務 部 長	桐 生 賢 一 kiri@jimu.	7121	5 号委員	学生支援課長	佐 藤 剛 史	7135
				副 課 長	柳 澤 健	7136
				学生支援係長	加 藤 みゆき	7138

健康支援総合センター規程

平成 18. 4. 1 制定

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、群馬大学大学教育・学生支援機構規則第 3 条第 2 項の規定に基づき、健康支援総合センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第 2 条 センターは、群馬大学(以下「本学」という。)の学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。

(業 務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 健康診断の企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 健康診断の事後処置等に係る指導助言に関すること。
- (3) 身体的及び精神的（カウンセリングを含む。）な健康相談に関すること。
- (4) 応急措置に関すること。
- (5) 健康に係る調査及び研究に関すること。
- (6) 伝染病の予防及び環境衛生に係る指導助言に関すること。
- (7) その他センターの目的を達成するために必要な事項

2 センターは、業務を行うに当たって、必要に応じ各事業場の安全衛生委員会その他関係部局と連携するものとする。

(職 員)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 学校医
- (5) カウンセラー
- (6) 技術職員
- (7) その他必要な職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、学長が指名する理事をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 6 条 副センター長は、本学の教員のうち学長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職務を代行する。

3 副センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第 7 条 専任教員の選考は、大学運営会議の議に基づき、学長が行う。

(健康支援室)

第 8 条 保健管理上必要があるときは、センターに健康支援室を置くことができる。

(運営委員会)

第 9 条 センターの円滑な運営を図るため、健康支援総合センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会については、別に定める。

(事 務)

第 10 条 センターの事務は、当分の間、その業務内容により総務部人事労務課及び学務部学生支援課において関係部局と協力して処理する。

(雑 則)

第 11 条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(規程の改廃)

第 12 条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

編 集 後 記

前任者よりバトンタッチして、第5号（本号）の企画・調整を担当させていただきました。前号にひきつづき機構所属の全てのセンター報告を掲載することができましたが、不慣れもあり報告書の発行が大変遅くなってしまったことをお詫びいたします。原稿を執筆された皆様、本当にありがとうございました。

平成 22 年度 群馬大学大学教育・学生支援機構報告書

編集・発行 群馬大学大学教育・学生支援機構
群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL (027) 220-7125 (学務部教務課)
E-Mail:ka-ggakusei@jimu.gunma-u.ac.jp